



令和元年度
学社融合推進協議会活動報告集



令和2年3月
田辺市教育委員会

はじめに

新しく改定された学習指導要領で、これからの教育課程の理念のひとつに「社会に開かれた教育課程」が示されており、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と地域・家庭が共有・連携し、地域の力を生かしながら学校教育を展開することが求められております。

こうした流れを踏まえ、本市では平成30年度から幼稚園・小・中学校を対象に「学社融合推進協議会（学校運営協議会）」を設置し、「地域とともにある学校づくり」を目指して、組織の充実と課題に迫るための仕組みづくりを進めております。

今年度は、取組の内容充実を図ることを目指して実践してきました。

それぞれの学校や地域に設置している学社融合推進協議会では、学校や地域の課題を様々な視点から出し合い、その課題をどのような手立てで解決していくかということを議論し、そして実践に移してきました。また、課題を解決するために、新たな組織を編成して関係機関との繋がりを広げたり、学校や地域の実態に応じた創意工夫ある試みを実施したりしてきました。

取組内容を充実させることで、学校にとっては、「教員の異動に関わらず、持続可能な学校支援体制が担保される。」、「地域住民等の理解と協力を得て、地域資源を生かした授業づくりが進められる。」、「子供の教育を保護者や地域住民等とともに担うことで、ひいては教員の負担軽減につながり、子供と向き合う時間が増える。」といった効果が生まれました。

また、地域にとっては、「地域住民等が自らの経験や知識を子供の教育に生かすことで、生きがいや自己実現の機会がつけられる。」、「地域の子供と顔見知りになり、更に地域住民同士も顔と名前が一致する関係が進む。」、「学校を舞台に地域の緩やかなネットワークが形成され、新たな地域コミュニティがつけられる。」といった地域を活性化させる効果も期待されるようになりました。

まさに、本市が目指している学社融合推進協議会（学校運営協議会）と地域学校協働本部が両輪となり、共に一体的・効果的に機能を発揮していく学社融合の姿であります。

今後も、全ての園・学校で、公民館や地域と連携・協働して、学社融合の推進と地域の活性化に努めてまいりたいと考えております。

令和2年3月

田辺市教育委員会 教育長 佐 武 正 章

目 次

[小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
稻成小学校	11
会津小学校	13
新庄小学校	15
新庄第二小学校	17
三栖小学校	19
長野小学校	21
上秋津小学校	23
秋津川小学校	25
上芳養小学校	27
中芳養小学校	29
田辺東部小学校	31
龍神小学校	33
上山路小学校	35
中山路小学校	37
咲楽小学校	39
中辺路小学校	41
近野小学校	43
鮎川小学校	45
三里小学校	47
本宮小学校	49

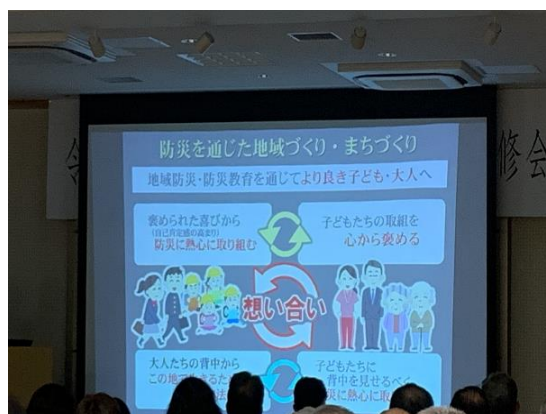
[中学校]

東陽中学校	51
明洋中学校	53
高雄中学校	55
新庄中学校	57
衣笠中学校	59
上秋津中学校	61
秋津川中学校	63
上芳養中学校	65
中芳養中学校	67
龍神中学校	69
中辺路中学校	71
近野中学校	73
大塔中学校	75
本宮中学校	77

[幼稚園]

新庄幼稚園	79
三栖幼稚園	81
上秋津幼稚園	83
中芳養幼稚園	85

[学社融合推進協議会活動報告集]



令和元年8月5日

学社融合推進協議会 夏季研修会 講演会のように

学校・園名	田辺市立田辺第一小学校	公民館名	中部公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校の校区は城下町の名残の史跡が多く、その地名や産業などがそれを示している歴史と伝統にあふれる地域である。また、南方熊楠や片山哲など本校ゆかりの偉人も多く、熱心に学校教育活動を支援してくれる人材に恵まれている。これらの地域の人材や資源を生かし本校では、従来から、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などに地域の方をゲストティーチャーとして招いた活動を取り入れている。			
目 標	学校・園	【学校】 ・地域の方々と触れあいながら、活動を通して伝統芸能や文化に触れることができる。 ・より専門的で充実した活動によって、達成感や満足感を味わわせ、自主的・実践的な態度を育てる。 ・学年や学級を越え、地域の方々や仲間との活動を通して、望ましい人間関係を築くことができる。	
	地域	【地域】 ・地域と子供たちとの交流の中で、互いが学び合っていることを自覚し、大人と子供の双方からつながりを築く。 ・学校と地域が連携した活動を展開する中で、子供たちにも自分が地域の一員である自覚を持たせる。	
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 ・熊楠学 （地域学習コーディネーター） ・田辺観光ボランティアガイド ・地域の方々 ・保護者	
取組（活動内容・ねらい・日時等） * 取組の一端 【5年】 ◎校区にゆかりのある先人を調べよう。 ・熊楠学（地域学習コーディネーター）の方々から先人について学び、学んだことを新聞にまとめる。 【6年】 ◎新時代の幕開け（語り部編）～田辺第一小学校6年生から学校や地域の歴史・誇りを発信～ ・テーマを考える。 （大きなテーマを「学校の歴史」、「けやきについて」、「地域について」とした。） ・グループで課題を考え、パソコンや本で調べる。 ・熊楠学の方々と招いて座談会を行う。 ・「田辺観光ボランティアガイドの会」の方4名が来校され、座学と町探検を行う。 ・調べたことをまとめ、発表原稿を作る。 ・保護者、地域の方に発表する。 ・5年生に発表する。 ・最終のまとめをする。 【クラブ活動】 ◎4年生以上の同好の児童をもって組織し、地域社会の専門的知識・技能を有する方がゲストティーチャーとして指導にあたる。年7回実施。 クラブ名（琴、紀州てまり、歴史、茶道、囲碁ゲーム、生け花、スポーツ、将棋）			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に来ていただいたり、学校から地域へ出向いたりして学ぶことができた。 ・公民館の力をお借りして、新たに地域の人材を発掘することができた。 ・地域の方から学ぶというのは子供たちだけでなく職員にとっても未知のことを知ることができ、地域を見つめ直す機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が変われば、テーマが変わるため、次年度以降に内容を引き継いでいくことが難しい。児童や職員の異動に関わらず、誰もができる単元構想を練っておくほうが良いかもしれない。 ・地域の歴史について知らないことが多く、職員が自主的に学び、知識を深めていかなければならない。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の組体操のテーマと関連させたことで、児童も主体的に学習を進めていくことができた。 ・地域の生きた歴史を学べたことで、郷土に誇りをもつことができた。 ・熊楠学やゲストティーチャーのご指導・アドバイスを受けて、より深まりのある学習となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史については、インターネットや本での調べ学習に限界がある。地域の力を得て、学習を進めていかなければならない。 ・長時間にわたる学習であるため、児童の学習意欲を継続させていく工夫や学習形態の工夫が必要である。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ地域に住む大人から、地域の歴史や魅力を教わることで、自分の住んでいる地域に誇りを持ち、郷土愛をはぐくむことができた。 ・教員以外の大人と接することで、接し方や礼儀について学ぶとともに、顔見知りとなるきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが、自らの興味・関心を持つことについて、今後も具体的に考え、取り組んでいける仕組みを構築する必要がある。 ・自分の持つ疑問を、地域の大人に正しく伝える力を身につける必要がある。
地域・保護者（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じて、子供への知識や経験を継承することの素晴らしさや喜びを感じ、また自己への更なる学びとなった。 ・地域のことを子供に伝える際には、地域への誇り、郷土愛を再確認できた。 ・学校との交流の機会となり、学校の教育活動に興味をもつようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、授業参加の呼びかけを行うと多くの地域住民が参加してくれているが、ゲストティーチャーを含めた地域住民の高齢化が進んでいることから、新たな指導者や参加者を確保していくことを検討する必要がある。より多くの地域の方に知ってもらえるよう、学習成果の発表方法・機会を工夫していく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ○評価 ・職員だけではできない活動が展開でき、子供たちは専門的な知識や技能を習得できた。 ・テーマが「学校」、「けやき」、「地域」と三つあったが、一つに偏ることなく、全員で全ての内容を調べたり、話を聞いたりすることができたことが良かった。また、学校や地域への愛着も深まったように思う。 ・職員と地域の方が協働して地域の教材開発や授業づくりに取り組めた。 ・クラブ活動を通じて、日頃経験できないことができた。特に、茶道、紀州てまり、琴、生け花、将棋、囲碁などの伝統文化に触れ、スポーツクラブでは年齢性別に関係なく楽しめるニュースポーツに取り組むことができた。 ・地域から多くの方々に参加していただき、地域間、地域学校間の交流の機会となった。 ○次年度に向けての取組の方向 ・学校の求めること（子供にどんなことを発見させたいか、どんな力をつけたいか）を明確にしたうえで、ゲストティーチャーとの連携を図り、双方にズレが生じないようにしていきたい。 ・学校だよりや公民館だよりを通して活動の様子や学習の成果を発信し、地域の方々の協力を得られるようにしていく。 ・学校と地域のつながりをより深めるよう、児童の地域貢献について考え、学社融合の取組をより一層高めていくようにする。 ・課題や実践に工夫・改善を加える。		

学校・園名	田辺市立田辺第二小学校	公民館名	東部、南部公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子供を育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある東部公民館と南部公民館との連携を図りながら学社融合の取組を進めている。具体的には、公民館主催文化展示会への作品出品、幼・保・小・中学校及び地域との地震津波避難合同訓練の実施、公民館主催行事（バスピン大会やウォークラリー大会等）などに取り組んできた。また本年度も、5・6年生が総合的な学習の時間に公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出掛けて歴史学習・語り部活動に取り組み、現地報告会を開催したり、福祉体験学習に取り組んできた。			
目 標	学校・園・地域 ○南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、沿岸部に位置する本校にとって防災安全学習への取組を充実させることは大変重要である。これらの活動を通して、主体的な判断力と行動力をもつ児童を育てていきたい。 ○地震津波に関する防災に対する課題は、地域住民にとっても切実な問題となっており、それ故に地域全体としての関心も高い。地域住民、地域とのつながりを強化し、自助・共助の重要性を理解し、さらにその意識を高める機会としたい。 ○昨年度までの学習活動をもとにし、調べる力・協力する力・表現する力を育てていきたい。 ○自分たちでは、調べられないことをゲストティーチャーに教えていただき、聞く力・まとめる力を育てていきたい。 ○子供たちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。（公民館）		
校（園）区の推進組織（組織体制図） <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">田辺第二小学校学社融合推進協議会</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">東部・南部公民館</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">東陽中学校</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">幼稚園</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; width: 100%; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">保育所</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">育友会</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">地域力を生かした教育活動</div> </div>		支援者及び支援組織 東部公民館 南部公民館 田辺市防災まちづくり課 ファミールヴィラ自治会 オークワ田辺店 田辺市交通安全指導委員会東部小隊 闘鶏神社 神楽神社 地域にお住まいの皆様方	
取組（活動内容・ねらい・日時等） 6月12日 『第1回津波避難訓練（本校単独実施）』 学校行事の関係で幼稚園、中学校等と日程が合わなかったこと、通常の避難場所である「ファミールヴィラA棟前広場が工事中で使用できなかったため本校単独で実施。東陽中学校グラウンドに新設された避難路を使用してオーシティ田辺店駐車場へ避難した。 6月14日・21日 『学年別防災授業参観日』 6月を防災安全強化月間と位置づけ、学年別に防災安全学習に関わった参観授業を実施した。授業後の懇談会では、家庭でも防災に対する意識を高めることや、家庭内で災害発生時の決めごとを事前にしておくことの大切さ等について交流した。 6月19日 『校内（屋上）避難訓練』 通常避難場所である「ファミールヴィラ」へ避難する時間的な余裕がない場合や避難場所への経路が崩落等で使用できない場合に備え、屋上への避難訓練を実施した。 7月29日 『地区懇談会（田二っ子を育てる会）』 「地域ぐるみで子供を育てる」をテーマとして、地区懇談会を実施。その中で、地域の避難場所等の確認や地域の避難訓練に保護者や児童も積極的に参画していくことを確認した。 9月1日 『田辺市町内会南部ブロック合同防災訓練』 市防災まちづくり課と町内会（公民館）が中心となって実施する地域避難訓練への呼びかけを行い、児童や保護者も参加した。当日は、屋上への避難訓練に加え、炊き出し等の訓練も行われた。 11月5日 『第2回合同避難訓練』 11月5日の「世界津波の日」に合わせて、近隣の幼稚園や保育所、中学校と合同で避難訓練を実施した。 ★2月中旬に第3回の避難訓練を実施予定。			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 合同避難訓練の実施月を、防災安全教育の強化月間と定めた。そのことにより、学校の取組状況を保護者や地域へ明確に発信することができた。 「児童の健全育成」をテーマに地区懇談会を開催した。そこで地域ぐるみで子供たちを安全に育てる為に等を中心に話し合い、情報や課題を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は、継続して実施できているものの、登下校時や休日を想定した訓練は、ほとんど行っておらず、そのような時間帯に災害発生した場合に実際にすぐに適切な避難行動がとれるよう家庭内でも十分共通理解を図っておくことが必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 防災安全学習では、子供たちが発達段階に応じて、改めて地域を見直すきっかけとなり、災害が起こった時の避難について具体的にイメージすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちに自分の命を守ることの難しさ、大切さを自覚させることはできたが、今後発生が予想される災害に対する減災意識の向上や臨機応変に主体的に判断し、行動できる力を育成することが重要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、防災安全学習に対する取組を継続させたことで、子供たちは自分の住んでいる地域に目を向け、自分のまわりの「もの・人・こと」に関心を向けられるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校での避難訓練にはしっかりと取り組めるが、地域で実施される防災訓練への子供たちの参加は極めて限定的である。これからは積極的な参加を促し、地域の方々とのつながりをより深め、いざという時には、自助だけでなく、地域の一員として行動できる意識を育てたい。
地域（保護者）	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年、保護者や地域、公民館等と連携して避難訓練を継続することで、学校の取組を理解していただけた。また、児童と一緒に避難することで、避難場所や避難経路を再確認する等、防災意識の向上に寄与できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災には、地域全体の意識を高めることが重要であるが、地域での防災学習や訓練、または地区懇談会などの参加人数が年々減少してきている。今後も保護者世代の参加を促すように働きかけていきたい。

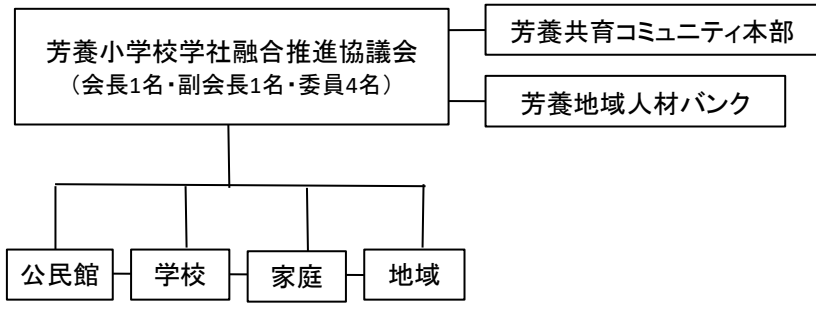


評価及び次年度に向けての取組の方向


これらの取組を通して、児童間や家庭間、地域内で防災安全に関わって、それぞれの抱える問題点や課題を共有化することができた点は大きい。例をあげれば、学校としては子供たちを無事に避難させるためには、交通量の多い道路を横断しなければならず、そのためには、交通安全指導員さんをはじめ地域の方々のご協力が必要である。また、学校以外の場所にいた時に、大地震が発生して、大津波警報が発令された場合に一番近い避難場所はどこかをその場ですぐに判断し行動に移せるよう、普段から意識を持つことが大切であるし、家庭内における事前の話し合いも必要となる。従って、今後も引き続き、防災安全に関する活動を充実させていきたい。



学校・園名	田辺市立田辺第三小学校	公民館名	西部公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>○本校は、田辺第三小学校学社融合推進協議会を中心として、西部公民館、西部センター「天神町の教育を進める会」、天神児童館「西部子どもエンパワーメント支援事業」等と協働・連携しながら各種の事業に取り組んでいる。本校区内では、核家族化が進行する中、高齢化や少子化などの問題も含んでおり、地域社会との関わりを推進し、地域の一員であるとの自覚を持つ児童を育成していくことは、大変重要であると共に大きな課題である。そのため、地域を知り、地域に興味・関心を持って活動を行うことを大切に、地域に出かけ、体験的な活動を通して積極的に地域との交流を図るようにしている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <p>①子どもの教育をよりよいものとする。 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。 ③学社融合（生涯学習）を推進し、更に充実する。 ④「地域の子どもは、地域とともに育てていく。」という意識を更に高める。 ⑤学社融合事業をさらに地域に浸透させていく。</p>		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p>		<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 西部公民館 西部地区自主防災連絡協議会 西部町内会連絡協議会 西部老人クラブ連合会 校区協議会 天神児童館 西部子どもエンパワーメント支援事業 西部センター 民生委員 スポーツ推進委員 	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>5月 3年 天神崎の生き物観察(17日)</p> <p>6月 1年 児童館訪問(13日)</p> <p>5年 西部花いっぱい運動・土作り(28日)</p> <p>7月 2年 町探検「やすらぎ荘」(9日)</p> <p>4年 俳句をつくらう(10日)</p> <p>9月 2年 月見だんご作り(13日) 3年 町探検(26日)</p> <p>10月 4年 天神崎クリーン作戦(30日)</p> <p>11月 6年 地域学習「熊野古道」(1日) 児童館祭り参加(2日)</p> <p>4年 グラウンドゴルフ体験(13日)</p> <p>5年 天神崎学習、日和山観察(18日)</p> <p>1年 昔あそび(20日) 6年 ミシン学習(21日)</p> <p>2年 児童館探検(13日)</p> <p>5年 西部花いっぱい運動・土作り(27日) 花植え(28日)</p> <p>4年 町探検(29日)</p> <p>12月 6年 防災学習・タウンウォッチング(2日)</p> <p>4年 俳句をつくらう(17日)</p> <p>2月 3年 そろばん学習 5年 ミシン学習</p> <p>3月 4年 俳句をつくらう 3年 昔のくらし体験</p>			
<p>(2019年)田辺第三小学校学社融合推進協議会の事業の取組の様子</p>			

	成 果	課 題
学校・園	どの学年においても、学習支援ボランティアの方々といっしょに交流する活動や、寄り添って学習する活動が定着してきており、安心してのびのびとした授業展開ができています。今までの経験や専門性を生かしたアドバイスをしてもらうことで、意欲的に取り組める児童が増え、学習活動にも深まりが見られています。	地域コーディネーター・学習支援ボランティア（OK先生）については、高齢化に伴い配慮が必要となってきている。また、新たな人材の発掘や声かけなど、常にアンテナを高くし、協力を求めていく必要がある。
*子供にとって	地域の方を交えて、専門的な知識に触れることにより、知識が深まり、学習に対する意欲の向上につながることができている。学習支援ボランティアの励ましや支援により、学習する喜びを味わい、地域の方々と触れ合うことの良さを感じることができている。大人との接し方を学ぶことで、社会性も育っている。	学社融合の取組を通して、地域の中で生きているという意識を育むと共に、主体性をもって学習に取り組む姿勢を持てるようになる必要がある。地域を大切に、その中の一員であることを自覚し、自分の住む地域に愛着を持って生きていこうとする意識を更に育ててゆく。
*子供にとって	体験活動を通して地域住民と交流することで、普段の生活においても、自ら地域と交流しようとする気持ちをもち、地域の一員であるという自覚が芽生えてきている。	さまざまな体験活動を通して、自分自身が今の段階でできることや、すべきことに気づき、実際の社会で求められる行動を考え、主体的に実践する力にしていけることが課題である。
地域・保護者（公民館）	地域から選出したコーディネーター自らが、学習支援ボランティアに対し直接連絡・調整を行っており、地域主導型の学社融合が着実に浸透している。また、地域主催の事業に職員・児童が参加することで、地域との親密な繋がりを持つことができています。	学習支援ボランティアの固定化や高齢化が進んでいる。今後も、地域コーディネーターとの協力を密にし、既存の学習支援ボランティアに協力していただくほか、新たな人材発掘にも取り組んでいく。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p>各学年の授業にあわせて、OK先生（学習ボランティア）の方々が協力してくださることにより、児童が生き生きと学習に取り組んでいる。</p> <p>昔の遊び道具を使った学習では、多くのOK先生に協力していただくことができ、手先を使ったおもちゃに触れる経験をしたことのない児童が、意欲的に取り組もうとする様子が見られている。OK先生は優しく接して下さるので、児童が安心して学習に取り組むことができている。</p> <p>学習した内容や成果を、公民館便りや学校便り等で、多くの方々に知らせることにより、町内会や老人会、各種団体と地域全体にも伝えることができています。その結果、関係団体やOK先生にさらに意欲的に協力をしていただくことができています。また、優しく丁寧に接して下さることで、初めてのことや難しそうなことに、あまり積極的でない児童も、自分からチャレンジしてみようとする姿が見られている。</p> <p>生活してきた時代や年齢の違いがあっても、授業を通してふれあったり会話したりすることにより、温かな人間関係が築けるようになってきている。体験学習や交流を通して親睦を深められるようになり、何らかの形で関わってもらえたり、わからないことを教えてもらえたりしたときの、感謝の気持ちが持てるようになってきている。</p> <p>OK先生からも交流した喜びの気持ちを伝えていただけるようになり、地域の方々やお年寄りを大切にしようとする思いも育ってきている。</p> <p>今後に向けて、現在行っている活動を充実させ、地域の方々とのつながりを大切に、自分自身が地域の一員であることを自覚しつつ、自ら考え正しく判断し、行動できる児童を育てていきたい。</p>		

学校・園名	田辺市立芳養小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 芳養小学校では、「芳養共育コミュニティ本部」を学社融合の基盤とし、児童の健全育成を図る取組を行っている。その内容は、地域と学校の連携したもの、育友会・家庭と学校の連携したもの、公民館と学校の連携したもの、地域の教育力を生かした授業、芳養ふれあい教室などとなっており、いずれも話し合いを大切にしながら、学校・地域・家庭・公民館が一体となって進めている。また、「芳養地域人材バンク」を活用することで、地域の教育力を授業に生かしている。「芳養地域人材バンク」とは、芳養公民館と学校が共に募集をしているもので、登録していただいた方には、スクールパートナーとして生活科や国語科、書写、総合的な学習の時間などの授業に参加していただいている。			
目 標	・学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、児童の健全育成を目指す。 ・保護者や地域の方々との触れ合いを通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域を大切にする心を育てる。 ・地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで、地域活性へと繋げる。 ・地域の方々が学校や子供たちの様子を知ること、今後の地域づくりに生かす。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 「芳養共育コミュニティ本部」 ・芳養公民館 ・芳養地域人材バンク登録者 ・育友会 ・地域の人々	
取組（活動内容・ねらい・日時等） 現在、33名の地域の方々に芳養地域人材バンクに登録していただいております。その中からスクールパートナーとして授業に参加していただいております。スクールパートナーの方々をはじめ、地域の方々とともに今年度行った実践は、以下の通りである。 ○1年生：よもぎだんごを作ろう 昔の遊び体験 ○2年生：校区探検しよう おいものむしパンを作ろう ○3年生：ひまわりの種まき 梅ジュース作り 書写 俳句 芳養クリーン作戦 ○4年生：心のバリアフリーを広げよう ○5年生：水産教室 俳句 ○6年生：本当に大丈夫？災害に対するあなたの備え！ ○なかよし：おいものむしパンをつくらう ひじきご飯をつくらう ○3・4・5・6年生：芳養浦音頭を踊ろう			
			
「芳養ふれあい教室」 今年で13年目となる芳養ふれあい教室は、子供たちが安全に過ごせる居場所づくりのために、人材バンクに登録してくれている方々が個々の特技を生かして放課後に教室を開いてくれている。今年度も9つの教室（英語・中国語・キンボール・茶道・花アレンジ・俳句・読み聞かせ・かき方・囲碁）を開き、前期【5月～10月】には134名、後期【11月～3月】には118名の児童が参加し有意義な時間を過ごした。			

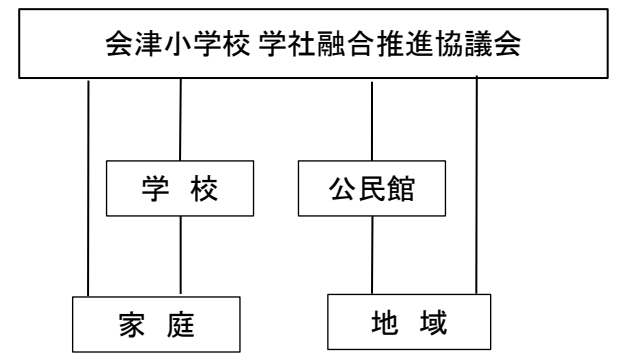

	成 果	課 題
学校・園	・スクールパートナーの方々に専門的な分野を担当してもらうことで、普段の授業ではなかなか指導が難しい内容について多様な活動を展開することができた。 ・1年生のふれあい親子教室や参観授業後のふれあい教室の見学などを実施したことで、ふれあい教室の内容や活動の様子を保護者に知ってもらうことができた。後期から、キンボールの協力者として保護者の方が新たに参加してくれている。	・地域の方々と関わることで児童の学びや豊かな経験につながっているため、今後も公民館と連携協力して活動の発信やスクールパートナーの人材確保を行っていく必要がある。
*子供にとって	・スクールパートナーの方に、挨拶をしたり感謝の気持ちを伝えたりすることができる児童が増えてきている。 ・普段の生活の中では、なかなか経験できない事柄を体験することができた。また、これらの活動を通して地域の方と接することで、地域の方々が子供たちにとって身近な存在となった。	・地域の方に対する児童の言葉遣いにまだまだ課題がある。自分たちのために計画や準備をしてきている地域の方々に対して、適切な態度で接することができる力を育てていきたい。
*子供にとって	・芳養ふれあい教室は、子供たちにとって放課後の居場所となり、学びの多い有意義な時間を過ごすことができています。 ・地域の講師や協力者の方々との交流することで、子供たちのコミュニケーション能力や豊かな人間性の向上に繋がっている。	・貴重な体験ができていたという喜びや講師・協力者の方々に対する感謝の気持ちをさらに育てていけるよう取組を工夫していきたい。
地域（保護者）	・活動を通して、地域の講師や協力者の方々同士の交流が深まっている。 ・子供たちや学校の様子を知ってもらうことで、学校と地域が一体となって、子供たちを育てるという意識を持ってもらうことに繋がっている。	・地域や保護者の方々に対して、学校の授業や芳養ふれあい教室での活動を周知し、今後もさらに協力をしていただけるよう取り組んでいきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・今年度は、新たに3年生と5年生の俳句の授業への協力をスクールパートナーの方にお願いすることができた。他の活動も昨年の反省を生かすことで、よりよい活動となっている。 ・ふれあい教室の活動については、ふれあい親子教室や公民館作品展・校内作品展での展示等を行うことにより、多くの保護者の方に活動内容を紹介することができた。また、講師先生方のアイデアと工夫により、毎回の教室を楽しみに児童は参加することができている。 ・芳養地域人材バンクをはじめとする地域の方々の結束力や「芳養の子供たちは芳養の地域で育てる」という意識が高いため、児童の実態に合わせて柔軟に対応して活動してくれている。 ・芳養地域人材バンクやふれあい教室の協力者の新規登録者が少ない傾向が続いているため、登録を呼びかける活動を続ける。		
		


学校・園名	田辺市立大坊小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校区は大坊・団栗の2地区に大別され、その住民の多くは柑橘・梅栽培を中心とした専業農家である。平成31年3月、地域の長年の願いであった新校舎が完成し、喜びと感謝の中に新施設での学校生活がスタートした。同時に「学社融合推進協議会」の3つの専門部会がそれぞれの取組を計画・実践する中で、地域は学校を核としてこれまで以上に深い繋がりができてきている。			
目 標	学校・園・地域	大坊小学校学社融合推進協議会は「地域とともにある学校」を目指し、「学校は地域の未来」となれるよう、各専門部会を核とし実践的な取組や活動を進めていく。 具体的目標 目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」 目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」 目標3：小学校を活用した「地域力の向上」	
	校（園）区	校（園）区の推進組織（組織体制図） 会長・副会長・委員4名（事務局） 大坊小学校学社融合推進協議会 学習支援部 目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」 取組の柱 ①学習支援 ②家庭教育の支援 環境整備部 目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」 取組の柱 ①新校舎の環境整備 ②登下校の安全対策 地域活性化部 目標3：小学校を活用した「地域力の向上」 取組の柱 ①学校行事への参画 ②学校施設の地域への開放	支援者及び支援組織 ・大坊小学校育友会 ・大坊小中学校校区協議会 ・大坊区 ・団栗区 ・地域老人会（白楽会） ・両区青年団 ・大坊女性会 ・大坊実行組合
取組（活動内容・ねらい・日時等） ・今年度は専門部会の取組を紹介することとする。各部会の今年の重点活動目標に沿って計画を立て実施した。①【学習支援部】は「家庭教育の支援」を、②【環境整備部】は「新校舎図書室の環境整備及び学習園の整地を、③【地域活性化部】は地域住民による家庭科室・多目的ホールの有効活用をめざし取り組んだ。			
【学習支援部】の活動 熟識「子供たちに「ノーマディアDAY」が必要ではないだろうか。」		【環境整備部】の活動 旧校舎跡地を学習園にするための整地活動	
児童会でも話し合わせてみようということになり、「全校フリートーク」で話し合わせるようになりました。		部員の青年団と育友会を中心に肥料がたっぷり入った畝が完成。早速羊の苗を植えました。	
情報モラル教室に保護者も参加		図書室の環境整備	
			
お菓子づくり教室・ヨガ教室（学校施設を利用）		大坊・団栗地区の住民が多目的のホールに集まって、伝統の踊りを練習しました。「合同で」というのは初めてのことでした。	
			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・本地区の学社融合推進協議会において、学校、保護者、地域の3者が一体となって学校運営の目指す方向を協議していったことは大きな成果であった。 ・授業や学校行事に参画して頂ける地域の方々が増え、人材活用のネットワークが広がった。同時に「地域の学校」という意識が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組を日常的に行っていくことと毎年見直し、発展させていくことが大切だと考えている。 ・専門部会のスムーズな運営のためには、部員や職員の中でコーディネーター的役割の人材が必要である。その人材育成が課題であると考えている。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習」に、より深まりが見られた。低・中・高学年別に地域のいろんな方々にお話を聞きながらふるさとについて深く学ぶことができた。大きな成果だったと考える。 ・図書室や学習園の整備をして頂いたことで、新校舎に移ってからの学習環境が早く整い、授業に安心して取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、新校舎完成という大きな節目の年でもあり、地域の方々がこれまで以上に学校に関わって頂けるようになった。今後もさらに、児童は「自分たちの学校」に誇りを持ち、様々な場面で持てる力を十分発揮出来るようにしていくことが大切である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して、自分たちの地域の歴史を知り、同時に父母、祖父母たちの生きてきた道を知ることができ、我がふるさとに愛着を持つことができた。 ・学社融合推進協議会の専門部会の活動のおかげで、新校舎への引っ越しやその後の学習環境作りが大変早く整った。安心して学習に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の方々のこれまでのご尽力を忘れることなく、しっかり学習を積み重ね将来的には地域の後継者として活躍していけるよう、人材育成に努めていくことが課題である。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の取組や活動を通して、地域の方々は児童や学校の様子を知り、地域が一体となって子供を育てるという意識が高まった。 ・児童だけではなく、地域の方々同士の交流が深まり、自身が生まれ育った地域に対しての愛着をさらに持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域がさらに連携し、保護者や地域の方々のつながりを深め、多くの方々に協力・参加してもらえ体制を維持していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・本年度は、学社融合推進協議会の2年目ということで、3つの専門部会が実際に活動し始めた。どの部も「新校舎完成」に伴って、学社融合推進協議会構想図をもとに目標に向かって活発に活動できた。 ・次年度は、その活動内容の見直しを図ると共に、継続、発展していけるよう、より円滑に動ける組織を作っていく必要がある。また3つの専門部会を、それぞれコーディネートしていく人材を育成しながら、これまで以上に「地域とともにある学校」をめざしていきたい。		
  		
2019年 5月26日、落成式。地域の念願だった校舎が完成し、大坊小学校の新時代が始まった。		
		




学校・園名	田辺市立稲成小学校	公民館名	稲成公民館
学社融合における学校・地域の様子 平成27年度から三年間、共育コミュニティ本部事業の指定を受け、学校・地域・家庭が一丸となって本校の教育活動を推進してきた。元々、学校と地域との交流が盛んであったが、この事業に取り組む中で、地域の学校教育に関する理解や関心が一層高まり、事業終了後も授業支援や各種のボランティア活動にも積極的な支援をしてくれている。			
目 標	学校・園	<学校の目標> ① 学習支援ボランティアを学校教育に定着させ、地域と共に学校教育を充実する。 ② 図書ボランティア活動を活発にし、児童の読書意欲を喚起するとともに図書室を地域コミュニティの場として活用する。 ③ 交通安全ボランティアを募り、より安全な登下校指導体制を構築する。	
	地域	<地域の目標> ① 学校教育に関わることで、地域の子供たちとの良好な信頼関係を結ぶ。 ② ふるさと学習を支援することで、地域の歴史や文化を語り継ぐ。 ③ 地区別の「共育ミニ集会」に参加することで、地域コミュニティ充実の機会とする。	
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 <ul style="list-style-type: none"> ・稲成校区協議会 ・稲成公民館運営協力委員会 ・稲成町内会 ・むつみ町内会 ・稲成愛郷会 ・稲小いわき会 ・稲成小学校育友会 ・民生児童委員会 	
取組（活動内容・ねらい・日時等） ① 5月17日（金）第一回稲成学社融合推進協議会 活動内容：委嘱状の配布 授業参観 協議会の趣旨及び本年度の基本方針説明 承認 ② 6月4日（火）糸田地区共育ミニ集会を糸田会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議 ③ 6月6日（木）むつみ地区共育ミニ集会をむつみ会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議 ④ 6月10日（月）谷中・谷上地区共育ミニ集会を谷下会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議 ⑤ 6月11日（火）馬場平地区共育ミニ集会を馬場平会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議 ⑥ 6月12日（水）荒光地区共育ミニ集会を荒光会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議 ⑦ 6月18日（火）谷下地区共育ミニ集会を町民センターで開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議 ⑧ 6月20日（木）下村地区共育ミニ集会を町民センターで開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議 ⑨ 9月22日（日）小学校と公民館が共催する「稲成コミュニティ運動会」に参加 ⑩ 11月17日（日）小学校と公民館が共催する「稲成・むつみ ふれあい文化祭」に参加 ⑪ 12月17日（火）第二回稲成学社融合推進協議会を開催 活動内容：共育ミニ集会の報告 2学期の行事より 組織図や部会について等 ⑫ 2月27日（木）第三回稲成学社融合推進協議会を開催（予定） 活動内容：授業参観 本年度の取組報告と協議 次年度の委員委嘱について等			

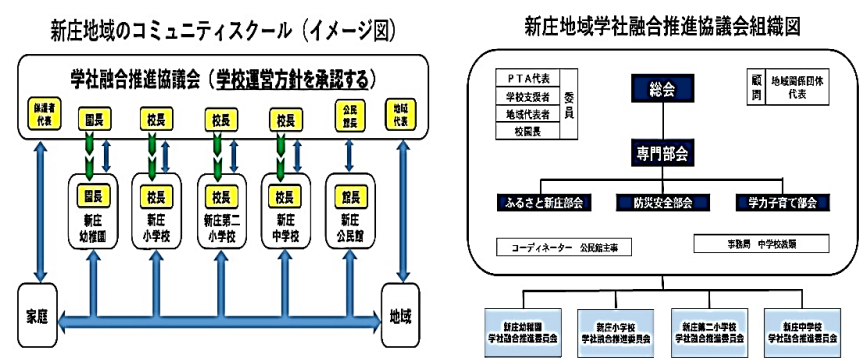
	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に直接教えていただくことで、教師（学校）だけではできない深いところまでの指導が可能になる。（伝統文化等） ・公民館主事が学校に対してきめの細かい対応をしてくれるので、スムーズに学校と地域との交流を進めることができる。 ・教師（学校）が教えられない技能的な面からの支援をいただいた。（習字）教師は地域の方から指導の仕方を学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流が一定の方々に偏りがちである。新たに交流できる方を探す努力が必要である。 ・地域の方との交流時、教師（学校）側から十分な敬意や感謝を払う必要がある。 ・地域の方との交流がイベント中心になりがちなので、平素から「挨拶を徹底する」「自由に授業の参観ができる等」の交流をさらに深めていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアの方が季節毎に図書室の掲示や飾りつけをしてくださるので、いつもきれいで居心地の良い図書室となった。 ・図書の廃棄作業が進んだため、新刊図書が入りやすくなった。 ・図書の貸し出しシステムを改善したことで貸し出し業務がとてもスムーズになり、貸し出し冊数も増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアの活動を継続していくための対策を考える必要がある。 ・交流することが児童の社会性の向上に寄与しているかどうか十分検討していきたい。 ・常に顔を合わせる人だけでなく、客や来校者等にも進んで挨拶ができるような児童を育てていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・〔獅子舞・笛〕地域の文化を知ることや地域住民の方と交流することから、地域の一員としての自覚を持つことができた。 ・〔米作り〕地域の基幹産業について知ることができた。 ・毎日のように交通指導をしてくださる方のおかげで安全に登校できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の取組（5年生：獅子舞 6年：郷土の歴史等）を楽しみにしている児童がいる反面、負担を感じる児童もいると思われるので、意欲的な取組ができるような指導の工夫が必要である。 ・地域の方との交流時、児童には今以上の敬意や感謝の気持ちを持たせるようにする。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・7地区で開催した「共育ミニ集会」では、昨年度より各地域に住む稲成学社融合推進協議会委員が参加することで熟議が活発に行われるようになった。 ・公民館と学校が共催する「コミュニティ運動会」と「稲成・むつみふれあい文化祭」への参加人数が増加し、盛大に開催されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共育ミニ集会では、地区により参加人数の少ないところがあるため、保護者への参加呼びかけを一層充実させる。 ・地域に発信する機会の「ふれあい文化祭」での各学年の発表内容の工夫や改善が必要である。「これまでしてきたことを今年もする」ではなく、「今年はこのことについて発表したい」という姿勢が必要である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ◇「地域との交流＝地域へのお願い」となりがちなので、地域のニーズに合わせ、学校からも地域に貢献できる取組を進めていきたい。 ◇地域との交流の際に以下のような点にも十分注意していきたい。 ・子供や教師の中に、地域の方々への十分な敬意や感謝の気持ちがあるか。 ・子供や教師の中に「やってもらって当たり前」的な気持ちはないか。 ・子供や教師の中に「これまでやってきたから今年もやる」的な気持ちはないか。 ◇推進委員を含めた地域の方々との交流を、これまでの「イベント」中心から「学力向上」にもウエイトを置いていきたい。そのためには、これまで以上に（参観日ではない）授業を参観していただく機会を設け、平素の授業中の児童の様子や学力の実態を知っていただきたい。 ◇現在は、必要に応じてその都度、学社融合推進協議会に支援を要請する形をとっているが、一層堅固な組織作りをし、学校と地域との交流を日常的なものとしていきたい。学校がその都度支援を要請しなくとも、組織が教育計画等に則って必要な取組を進めていくような形としたい。 ◇次年度も、事務局として教頭とともに公民館主事も加わってもらい、予算の執行等の事務や地域とのコーディネーター的な役割を担っていただく。		

学校・園名	田辺市立会津小学校	公民館名	秋津・万呂公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子 本校では、「会津さわやかコンサート」や「合同作品展」「獅子舞鑑賞」「昔の遊び体験」など、保護者や校区協議会、公民館、敬老会等、地域の各種団体との連携・協力を得ながら、様々な教育活動に取り組んでいる。現在495名の児童が通学しており、校区協議会シニアパトロールの登下校の見守り活動や、公民館での「町民運動会」「盆踊り」、町内会の「防災訓練」、地域の「ラジオ体操」など、地域で積極的に子供たちを見守り、育む活動が展開されている。また、総合型地域スポーツクラブ「会津スポーツクラブ」の活動は、所属している子供たちにスポーツに親しむ多くの機会を提供してくれているとともに、多くの子供たちにスポーツに対する興味・関心を高める役割を担っている。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>【学校】 様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して ・地域の伝統や文化とその地域に住まう人々を大切に、感謝する心を養う。 ・言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。 ・発表や作品の観賞を通して相手の気持ちや思いを感じられる心を育てる。 【地域】 ・公民館活動を通じて学習した成果発表の場を提供する。 ・地域の人々や子供たちに見ていただくことで、達成感を得ていただき、今後も活動を継続する意欲を養っていただく。</p>	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	<p>支援者及び支援組織 会津小育友会 会津小校区協議会 秋津公民館 万呂公民館 会津スポーツクラブ</p>	
			
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等） ○会津さわやかコンサート【11月9日（土）】 ・会津校区協議会主催、会津小学校・会津小学校育友会共催のもと、秋津・万呂両公民館の協力を得て開催する。学校・家庭・地域が一つになって、お互いの心が触れ合う時間を持ちたいという願いのもとで開かれ、今回で第12回を迎えた。参加者は小学校の児童を入れてのべ約1000名。 ・内容…会津小学校1年生から5年生による学年別合唱、6年生による合唱・合奏、会津小学校合唱部による合唱・重唱、弁慶鬼若太鼓保存会と高雄中学校吹奏楽部による演奏、高雄中学校吹奏楽部と会津小学校合唱部の共演、高雄中学校吹奏楽部による伴奏で全員合唱（ふるさと）。</p> <p>○秋の合同作品展【11月26日（火）～28日（木）】 ・会津小学校、秋津公民館、万呂公民館が合同で学校開放期間に合わせ、作品展を開催している。子供たちの学習の成果とともに、公民館活動の成果を見ていただく機会を提供している。 ・内容…子供たちの絵画の展示、公民館サークルの文化作品展を実施。</p> <p>○ふれあい交流（昔の遊び体験）【12月2日（月）】 ・1、2年生が秋寿会（秋津町老人会）、万呂寿会（万呂町老人会）の方々に昔の遊びを教わりながら、交流を深めている。 ・内容…秋寿会・万呂寿会の方々が、竹馬・こま・お手玉・竹とんぼ・ぶんぶんごま等の約20種類のブースを作り、子供たちが各自それぞれのブースを回り、遊び方を教えてもらいながら交流する。</p>			
			

	成 果	課 題
学校・園	子供だけでなく、それに関わる保護者や地域住民もそれぞれの目的意識を持って取り組むことができた。「さわやかコンサート」では、よりよいものをめざして練習をがんばり、当日は最高の演奏を行うことができた。自分を表現することに達成感や充足感を得ることができ、且つ、他の出演者の発表に興味を持って聴くことができた。	「さわやかコンサート」の運営は、校区協と育友会役員や保護者が中心となり、全員が協力し合って行事を支えてくれている。終了後は皆さん充実した表情で、成功の喜びを分かち合っている。委員は毎年交代するが、校区協議会の常任委員と協力して取り組むことで、行事の良さを実感するとともに、お互いが知り合うきっかけにもなり日頃の生活にもつながる関係ができることを期待している。
*子供にとって	学校・公民館・地域の行事を通して、地域の方と交流し触れ合う機会を得ている。一方的に作品や発表を見るだけでなく、互いに発表し合ったり作品を鑑賞し合うことでより充実した時間を過ごすことができた。時間や場所・目的等の共有が、子供と地域住民の絆をさらに深めるきっかけとなっている。	保護者・地域の方など日頃から自分たちを見守ってくれている方々に対して、感謝の気持ちを持ち、自分の言葉や行動でその思いを素直に表現できるよう引き続き取り組んでいきたい。また、行事での交流を通して相手を思いやる気持ちやマナー等を身につけさせていきたい。
*子供にとって	学習の大切さや継続することの大切さを考える機会を得ることができ、ともに活動してくれる大人がいることで地域に見守られ支えられていることを実感し、同時に安心感を得ることができている。	地域の方々の作品や発表にふれることで、自分が住んでいる地域に誇りを持てるようにしたい。また、世代を超えた地域間の繋がりを期待している。
地域・保護者（公民館）	地域の方々の発表の機会が増えることや子供に教えたり共に活動したりすることで、より充実した気持ちを持ってもらえることができた。会津小学校で開催することは、子供だけでなく保護者にも活動を周知することができ、交流の促進に繋げることができた。	各団体の状況を理解した上で無理なく展開する必要があるが、今年度も何を目的として実施しているか、主催はどこか等が周知しきれていない部分があった。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向 ・今年度は、「もっと気軽に地域の人材にお願いする」取組のひとつとして、5年生の家庭科「裁縫」においてお手伝いに来ていただいたり、5年生の総合「タウンウォッチング」防災マップ作り活動において地区別の探索やマップ作成に協力を仰いだりした。大きな行事だけでなくいろんな学年のあらゆる教科で地域の方々に協力していただきながら活動する機会を増やしていくことができればいいと感じる。とはいえ、限られた授業時間内での取組という観点でいえば、取組の効率化は必要である。他の多くの行事との兼ね合いを考慮し、各行事の実施時期や実施内容等について検討した上で計画的に行うことが大切である。 ・学社融合の取組が無理なく持続的に発展するためには、子供と教職員、公民館職員と公民館サークル、保護者と地域住民等のそれぞれにメリットがあることが重要である。そのためには、今年度の取組を評価し、次年度に向けて改善すべき点がないか検討する必要がある。 ・各行事では、子供たちや出演者だけでなく、参加者・運営に携わった保護者にも充実した笑顔が多く見られた。行事に向けた取組の過程とその結果において、目標が達成されやりがいを感じたからとの意味も含まれている。今後も、目標の達成のために行事の工夫・改善に努めていきたいと考える。</p>		
		

学校・園名	田辺市立新庄小学校	公民館名	新庄公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、昨年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めています。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p> <p>本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。</p>	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	<p>支援者及び支援組織</p> <p>学社融合推進協議会 ○ 幼稚園・小中学校教育友会 ○ 学校支援者・地域代表者 ○ 地域関係団体 ○ 公民館運営委員会 ○ 新庄地区校区協議会 ○ 新庄共育コミュニティ本部</p> <p>その他関係機関 ○ 新庄地区老人会 ○ 真寿会 ○ ふたば福祉会 ○ 南紀のぞみ会 ○ 社会福祉協議会</p>	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>「福祉体験学習」 ○運動会敬老種目 2年生（2学期） * 運動会の敬老種目に参加する地域の方と交流する。 ○真寿苑訪問 3年生（2学期） * 新庄地区には、様々な福祉施設があることを知り、体験活動を通して自分たちの住む地区を理解する。 ○視覚聴覚障害者理解学習 4年生（2学期） * アイマスク体験や福祉の話などを通して、障害者の気持ちを理解し、バリアフリーな社会に向けて自分たちができることを話し合う。 ○肢体不自由者理解学習 5年生（2学期） * 障害者の方の気持ちや思いを理解し、バリアフリーな社会が大切であることに気付く。 ○高齢者・障害者理解学習（2学期） 社会福祉施設訪問 6年生（3学期） * 高齢者が、今までの社会に貢献してきたことに対して尊敬や感謝の気持ちを持ち、温かい心で接する態度を養う。また、知的障害者に対する理解を深め、温かい心で接する態度を養う。 * 福祉施設を訪問し、利用している人、介護している人のことを理解し、「ともに生きる」ことについて考える。</p> <p>「公民館・地域・サークル活動などと連携した各学年の取組」 ○昔の遊びについて 1年生（3学期） * 地域の高齢者の方に教えてもらい素朴な道具での遊びのよさと、ふれ合う楽しさを知る。 ○コーラス交流 2年生（2学期） * サークルの方に歌を聴かせてもらい、音楽の楽しさや共に活動する喜びを知る。 ○ぎおんさん 3年生（1学期） * 地域の方に「ぎおんさん」のいわれや作品の作り方を教えてもらう。 ○グラウンドゴルフ体験 4年生（3学期） * 地域の高齢者の方と一緒に運動し、体を動かす楽しさと共に活動することの喜びを知る。 ○箏・尺八体験 5年生（3学期） * サークルの方に演奏を聴かせてもらい、伝統文化のよさを学ぶ。 ○地震津波の話 6年生（2学期） * 地域の方から地震や津波の体験談を聞かせてもらい、命を守る方法と心構えを学ぶ。</p>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に、学校や子供たちの様子を知ってもらうことができた。 ・専門的な技術や知識をもっておられる方々をお招きすることで、教室だけでは教えられないことを学ばせることができた。 ・地域の方との交流を通して、地域でどのような活動が行われているかを知ることができ、地域理解に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの活用を工夫し、地域の方に関わっていただく活動内容を広げていきたい。 ・その日限りでなく、子供と地域の方との関係が続くようにふれあう時間を工夫する。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加したり、地域の方々とともに活動したりすることで、地域の文化や伝統を身近に感じることができた。 ・地域の方から直接、専門的な知識等にふれることで学習をより深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで挨拶をしたり、関わったりできるように、コミュニケーション能力を高める。 ・子供たちが、地域の一員として主体的に活動できるような取組を行う。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のこと、地域の方を知る機会になった。 ・福祉体験学習は福祉施設が多いという新庄地域の特徴と合致して地域を知る良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員であることを自覚してもらえよう仕掛けをしていく。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が授業に参加することで地域のことを伝えたり、特技を披露することができ、生きがいに繋がった。 ・また、教職員の方との交流、多世代の交流にも繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の固定化が見られるため、地域、学校、公民館の連携をさらに深め、新たな方にも取組に参加してもらう。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じて、系統立った取組ができている。 ・地域の伝統的な祭りである「ぎおんさん」の作品作りには保護者も参加し、いわれや作り方を児童だけでなく、保護者の方にも知っていただくことができた。 ・地域と連携した行事には、多くの児童が興味をもって積極的に活動することができた。地域の方々とふれ合う機会が増え、地域を想う心も育ってきている。 <p>次年度に向けての取組の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して地域の方との交流行事に取り組んでいるが、例年通りとして進めるのではなく、活動内容を精査し、子供たちと地域とを繋いでいくより良い交流行事にしていくように努める。 ・今後も、学校と地域双方がプラスになる取組を継続し、地域の活性化に努めていく。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>3年生 真寿苑訪問</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>4年生 アイマスク体験学習</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>6年生 高齢者・障害者理解学習</p> </div> </div>		

学校・園名	田辺市立新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。昨年度からは、幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。本年度も、開かれた学校づくりに努め、学校教育方針や具体的な活動などを地域に公開している。また、授業をはじめとする教育活動に外部の人材を効率的、効果的に参画してもらうために、地域・保護者・各種団体と連携を図りながら取組を進めている。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条(目的) 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p> <p>新庄第二小学校教育目標 自ら学び、人に優しく自分に厳しく、心豊かにたくましく生きる児童の育成をはかる。</p>	
	校(園)区	<p>校(園)区の推進組織(組織体制図)</p>  <p>支援者及び支援組織 学社融合推進協議会 ○ 幼稚園・小中学校教育友会 ○ 学校支援者・地域代表者 ○ 地域関係団体 ○ 公民館運営委員会 ○ 新庄地区校区協議会 ○ 新庄共育コミュニティ本部</p> <p>新庄第二小学校学社融合推進委員会 ○ 育友会本部役員 ○ 主任児童委員 ○ 元学校評議員 ○ 校長・教頭・学社融合担当</p>	
<p>取組(活動内容・ねらい・日時等) [年間を通して]</p> <p>4～6年生 サークル活動(年6回) 公民館・地域の講師先生を招いて 料理・琴・茶道・スポーツ・グラウンドゴルフ・将棋・手芸</p> <p>5・6年生 書写「習字」家庭科「ミシンを使おう」 地域の講師先生を招いて 全学年 読み聞かせ活動 図書ボランティア</p> <p>[各学年の取組]</p> <p>6月4日 6年生 総合 「神島について」 6月17日 4年生 総合 「干潟公園樹木調べ」 7月12日 3年生 総合 「ぎおんさんの作品作り」 公民館・地域の講師先生を招いて 10月21日 2年生 生活 「町たんけん」 花重・マリブ訪問 10月21日 4年生 福祉学習「パピーウォーカーについて」「盲導犬について」 田辺市社会福祉協議会・公民館</p> <p>10月29日 5年生 総合 「地域の獅子舞を知ろう」 内之浦獅子舞保存会 11月10日 全学年 新二まつり「出会い・ふれあい・深め合い」 育友会・公民館・防災まちづくり課・地域の講師先生</p> <p>11月21日 1年生 生活 「おじいさん、おばあさんとあそぼう」 真寿苑訪問 11月23日 地域の祭りに参加 11月27日 2年生 生活 「おじいさん、おばあさんと交流しよう」 たきの里訪問</p> <p>3学期 1・2年生 生活 「昔あそびをしよう」 長生会のみなさんを招いて 2年生 生活 「みんな大きくなったよね」 幼稚園訪問 3年生 社会 「昔のくらし体験」 公民館 5年生 音楽 「昔の楽器に親しもう・琴・尺八体験」 公民館</p>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間の地域との交流により、学校・地域間の連携が深まっている。 開かれた学校として、地域ぐるみで子供を育てていく取組を実践することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方の力を学校教育活動により生かせるように、ゲストティーチャーやボランティアの人材確保に努めるとともに、家庭との連携を深める取組を進めていく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動やサークル活動をとおして、普段の生活では体験できないことを、地域の方々に教えてもらいながら楽しく活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の一員として、地域を知り、校区やふるさとを愛する心情を育てる取組を今後も展開していく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域のことや昔のことを知ることで地域の一員であるという自覚が生まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域学習での交流が、日常生活での交流に繋がるようにしていく。
地域(保護者)・公民館	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な取組により、たくさんの地域の方が活動に参加できた。子供たちの活動を知ることができ、多世代の交流にも繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子供たちに対する関心を高めるような仕掛けを展開していく。 活動に新たに参加してもらえる方が増えるよう取組を進めていく。

評価及び次年度に向けての取組の方向

評価

- 生活科や総合的な学習の時間の地域との交流により、学校・地域間の連携が深まっている。
- 地域の人々との世代を超えた交流をはかることにより、ふるさとを愛する心情を育てることに繋がっている。

課題

- 地域の方の力を学校教育活動により生かせるように、ゲストティーチャーやボランティアの人材確保に努める。
- 学社融合担当者会議の場をとおして、地域の教材化や教育力の活用を推進する。



図書ボランティア



サークル活動



1年生真寿苑訪問

学校・園名	田辺市立三栖小学校	公民館名	三栖公民館								
学社融合における学校・地域の様子 本校区は、梅を中心とする農村地域である。子供たちは、温厚で誠実な性格の子が多い。また、本校PTA組織は「育宝会」と名付けられており、子供は地域の宝という意識が地域全体にある。地域は学校に協力的で、運動会等の学校行事やクラブ活動、教科学習でも各種団体に協力をいただきながら取り組んでいる。しかしながら、宅地造成や集合住宅の建設が進み、近年は専業農家数が減少傾向にある。また、他の地域からの転入数も多くなってきている。このような状況の影響により、昔と比べ、人と人との繋がりが希薄になってきていることが、地域の課題となっている。											
目 標	学校・園・地域 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人の知識や経験を生かし、積極的に他者に関わろうとする態度を育てる。 ・体験を通して、コミュニケーションを図るとともに、自他に関心を持つ。 ・地域の人のふれあいを大切に、地域社会の一員として自覚をもたせ、ふるさとを愛する心を育てる。 ・地域への愛着、地域貢献の心を育む。 ・地域住民が子供たちとのふれあいから、子供たちの様子を知り、教育活動への関心を高める。 										
校（園）区の推進組織（組織体制図） <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">会長 (公民館長)</td> <td style="text-align: center;">副会長 (町内会長)</td> <td style="text-align: center;">委員</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者 ・保護者 ・校園長 </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">事務局</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員 </td> </tr> </table>		会長 (公民館長)	副会長 (町内会長)	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者 ・保護者 ・校園長 			事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員 	支援者及び支援組織 <ul style="list-style-type: none"> ・三栖公民館文化委員 ・クラブ活動外部講師 ・交通安全指導員 ・交通安全協会 ・衣笠中学校 ・三栖幼稚園 ・保護者 	
会長 (公民館長)	副会長 (町内会長)	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者 ・保護者 ・校園長 								
		事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員 								
取組(活動内容・ねらい・日時等) 三栖の史跡めぐり（第5・6学年） 活動のねらい <ul style="list-style-type: none"> ・地域を歩き、そこにある史跡を見たり、それにまつわる説明を聞いたりすることで三栖地域の歴史への理解を深め、今後の学びに生かすことができるようにする。 ・地域の方から直接お話を聞く中で、交流を深め、地域の方々の見識にふれることで、地域に対する愛着と誇りを持たせる。 ・発表会を設定し「語り部」をする中で、さらに理解を深めるとともに、下級生・保護者・地域の方々にも三栖の史跡や歴史を伝え広める。 公民館文化委員学習会・打ち合わせ 10月8日（火）19:00～21:00 ◎三栖風土記の読み合わせ・確認・修正と打ち合わせ 参加者・・・公民館文化委員（約10名）、公民館主事、5・6年担任（4名）、学社融合担当 5年生史跡めぐり 10月18日（金）9:30～12:00 中三栖、上三栖方面 尋声寺・三栖村方文書庫・旧一里塚・妙見宮・伝馬所・長尾坂・珠簾神社 6年生史跡めぐり 10月28日（月）9:00～14:30 下三栖方面 一里塚・高坊遺跡・五郎地蔵寺・三栖廃寺・善光寺・岩屋谷岩陰遺跡・三栖王子・八上王子 史跡めぐり発表会（語り部活動） 全校集会（12月） 三栖公民館文化展（2月）											

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・三栖地域の史跡や歴史について詳しく学ぶことができた。また、教員自身が地域に関心を持ち、今まで以上に三栖地域に対する愛着を持てるようになった。 ・史跡めぐりを通して、公民館文化委員の方々と交流する中で、顔見知りになり、地域との繋がりをもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三栖の史跡を学ぶことにより、これからのように三栖地域と関わりを深めていくかという未来に目を向けた学習を取り入れていくこと。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の文化委員の方々に案内していただき説明を聞く中で、三栖の歴史を知ることができ、地域に対する誇りと愛着を高めることができた。 ・語り部活動を通じ、相手意識を持った資料作成・発表原稿作成をする力を高めることができた。また、発表の仕方を工夫することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学習によって高まった、地域に対する思いをさらに深めていけるよう、取組みの検討と改善を重ねていく必要がある。 ・相手に分かりやすく伝えるための内容や方法を追究していく必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史、文化を知ることで、地域への愛着や誇りを持つことができた。また、地域の一員としての意識が高まってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として、地域に貢献していくという心を育めるように、今後も継続して活動をつなげていく。
地域（公民館保護者）	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡めぐりを行うにあたり、事前に勉強会を開くなど、改めて地域について知る機会となった。また、児童の成果発表を聞くことで、活動の成果や改善点を知ることができ、今後の活動への意欲にもつながった。 ・公民館主催の文化展にて、子供が学習発表を行い、多くの地域の人にも活動の成果を知ってもらうことで、活動を広げるきっかけとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域、子供と地域の人間関係を構築するために、様々な機会を作り、継続的に子供たちと関わっていく。また、その中で協力していただける地域の人材を発掘し、活動の充実を展開していきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向
評価
 ・公民館文化委員の方々が、三栖地域の歴史について多くの情報を教えてくれるので、児童は興味深く活動に取り組み、積極的に質問し、学びを深めることができた。
 ・学校職員と公民館文化委員の方々が一緒に学習会・打ち合わせを行うことによって、史跡めぐり当日はスムーズに活動の運営を行うことができた。

取組の方向
 ・今後も地域の方々と共に、三栖地域の歴史についての学びを深めていけるように、活動を継続していく。
 ・三栖の歴史について学びを深めるとともに、三栖地域の未来に目を向けた学習を検討していく。



学校・園名	田辺市立長野小学校	公民館名	長野公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>自然豊かな地域で、長野区では梅やみかん作り、伏菟野区では米作りやきくらげ生産に携わっている家が多い。地域の方々は協力的でいつも児童を温かく見守ってくれている。公民館や郷明会等の諸団体、地域の方々の協力を得て、児童は地域の自然、産業、歴史や伝統文化等を学び、地域のよさについて知ることができる。また、学校行事にも多く参加いただくことで地域の方々同士の交流する機会にもなっている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域 地域と共にある学校づくり ～学校・家庭・地域のみんで自立・共生・健康をめざして～ 学校・家庭・地域の三者の力を集め、「自立」「共生」「健康」という長野小学校の教育目標を地域住民の目標としつつ、三者が知恵を出し合い、当面する教育諸課題克服のための諸取組を模索し、展開していく。</p>		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p>		<p>支援者及び支援組織</p> <p>長野公民館 長野郷明会 長野校区協議会 長野町内会 J A 紀南長野店 光福寺 不動寺 各区老人会 長野小学校育友会 長野・伏菟野地域の方々</p>	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>【ほたる学習】（5/25 6/17 7/5 8/19） 長野郷明会のご協力を得ながら学習に取り組んだ。ほたるを守り育てる活動は、地域の環境保全につながるだけでなく、地域の方々の絶え間ない努力により行われていることを知った。昨年お世話になった広川町立津木中学校の幼虫の放流活動にも参加させていただいた。</p> <p>【カヌー体験】（8/31） 公民館からご紹介いただき毎年お世話になっている井瀬敦司さんとアースメイトの大島克也さんをお招きし、保護者も参加してのカヌー体験を学校プールで実施した。パドルを漕ぐごとにカヌーが上達し、水面を進む心地よさを味わうことができた。親子がふれ合うよい機会となった。</p> <p>【校内整備作業と区民運動会の開催】（8/17 9/22） 保護者や地域の方々にご協力いただき、運動場の整備、樹木の剪定、校舎内の整備等の作業を行った。区民運動会を整備された運動場で盛大に開催することができた。事前に地域の代表者会議を行い、区民運動会の運営について話し合い、当日は地域と学校が一体となって開催することができた。</p> <p>【地区内ハイキング】（10/30） 世界遺産である熊野古道長尾坂を地域の方々と共に歩いた。田辺市文化振興課の中川 貴さん、長尾坂ひるね茶屋の宇杖一治さん、光福寺住職の南出素孝さん、西原高尾会代表の那須豊平さんに熊野古道や地域のお話をうかがいながらのハイキングとなった。自分たちの住む地域に世界遺産が存在することを知るよい機会となった。</p> <p>【学習発表会と長野文化展】（11/15・16） 地域の様子や歴史、過去の災害からの復興の歩みやこれからの防災について、地域の方々から教えていただいたことや体験したことを学年ごとに発表した。先人の足跡や苦労、地域を大切に考える熱い思いにふれ、児童も地域の一員として自分たちに何ができるかを考える機会となっている。同時に、学校の取組を地域に知らせる場ともなっている。文化展も同時に開催され、地域の方々同士の交流の場にもなっている。</p> <p>【グラウンドゴルフ大会】（12/5） 老人会のお年寄りとともに運動場でグラウンドゴルフ大会を開催した。8つのチームに分かれ、各コースを回った。楽しくプレイできたことはもちろん、地域のお年寄りと交流するよい機会となった。</p>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の様子や産業、歴史、課題を学び、地域の方々の協力を得ながら活動を進めることで、子供たちにふるさと長野への関心、愛着、誇りを育てるよい機会となった。 ・ 多くの地域の方々に学校へ足を運んでいただく機会ができ、学校の取組や子供たちの様子などを知っていただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域について学ぶだけではなく、地域の一員としてできることを子供たちなりに考えさせ、行動・発信できるように育てていきたい。 ・ 地域の方々との交流の範囲を広げ、信頼関係も深め、地域学習や体験活動を進めていきたい。しかし、児童数の減少が進み、行事の精選も検討が必要とされる。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方々の生き方や考え方を学ぶことにより、地域の課題についても知ることができ、子供たちも地域の一員として何ができるかを考える機会となっている。 ・ 地域の自然、歴史、伝統文化にふれることで、地域への関心を持ち、地域を大切にしたいという意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつも温かく見守ってくださる地域の方々へ感謝の気持ちをもたせ、どの子供も自分の言葉で伝えることができるようにさせたい。 ・ 地域から学んだことを生かすとともに、子供たちの学びたいという意欲を継続させる工夫が必要であると考えます。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域について学び、地域の方々と交流することで、地域の一員としての意識が高まった。 ・ ほたる学習では、地域外の活動も知ることができ、長野地域について別の視点からも考えるきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちが様々な体験をすることができるように、地域の方と公民館が連携し、さらに活動を充実させていきたい。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区内ハイキングでは、子供たちと共に熊野古道を歩き、お話を聞くことで、改めて地域について学ぶことができた。 ・ 地域の方と子供たちが交流することで、子供たちの様子がわかり、学校に対する関心を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も、地域の方と子供たちが交流する機会を継続して作っていく。また、それらの内容を充実させるため、地域人材の育成、発掘に取り組んでいきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

【評価】
○公民館や学社融合推進協議会にお世話になり、学校の活動（生活科・総合的な学習の時間・行事等）に多くの地域の方のご協力をいただいた。児童は地域の特色やそこに住む人々の願いも知ることができ、地域には学校の取組や児童の様子を理解していただくよい機会となった。
○運動会や学習発表会、文化展、ハイキングなどでは、地域の方々や子供だけでなく、地域の方々が互いに交流できる機会となり有意義であった。

【次年度に向けての取組の方向】
○学社融合推進協議会や公民館の協力を得て、地域と家庭と学校が連携し、さらに交流や体験活動を深めていく。
○地域のよさだけではなく、地域の課題についても子供たちに目を向けさせ、地域と共に学び、同時に地域へ子供たち側から働きかけられるような学習を設定していきたい。

ほたる学習

カヌー体験

区民運動会

グラウンドゴルフ大会

学校・園名	田辺市立上秋津小学校	公民館名	上秋津公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>当地域は田辺市の中でも、梅・柑橘類を中心とした農業の盛んな地域である。そこで本校では、長年にわたり、地域の方々の協力を得て、体験学習に取り組んできた。昨年までは「共育コミュニティ」の研究指定校として、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。本年度からは幼稚園、小・中学校が公民館と連携し「上秋津学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の方々の意見を取り入れた学校運営を進めている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、体験活動を通して地域の良さを知り、ふるさとを大切に育てる。 ・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育を進める。 ・幼・小・中・公民館が連携して地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。 		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p>		<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験学習支援委員会（JA紀南、JA紀南青年部、上秋津公民館、老人会、西牟婁振興局農業水産振興課、育友会） ・上秋津町内会 	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>事例①農業体験学習</p> <p>1～3年生では、野菜の栽培体験を学校園で行う。4年生は今年から新たに米作りの体験を行う。5～6年生では、年間を通して上秋津の農業の中心となっているみかん・梅の学習を行う。学習を通して、農家の方々の努力や工夫、収穫の喜びを体験し、自分たちの住むふるさと上秋津を誇りに思う心を育てる。</p>			
<p>野菜の栽培体験</p>		<p>田植え体験</p>	
<p>みかん座学</p>		<p>梅採り体験</p>	
<p>事例②身近な地域の文化に接する</p> <p>上秋津は、地域の文化的な活動も多彩である。子供たちに地域の方々の文化的な活動を紹介したり、体験したりする機会を設けている。「和歌山の妖怪展」や「ピンボケクラブ写真展」、校内絵画作品展と共に「ひまわり絵画サークル作品展」を催す。作品を鑑賞して感想を届けることにより、作者の励みや喜びにもなり、交流を深めている。また、11月に開催される「上秋津ふれあい音楽会」は幼・小・中・地域の方々が音楽を通して交流を深める場として定着している。</p>			
<p>ひまわり絵画サークル展</p>		<p>ピンボケクラブ展</p>	
<p>和歌山の妖怪展</p>		<p>ふれあい音楽会</p>	

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・農事体験学習を通して、地域で働く方々の努力や工夫を直に知り、上秋津のよさについて詳しく知るよい機会となった。 ・教師も上秋津の文化活動にふれることにより、絵画や音楽の指導のヒントにもなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの方と担任が細かな点まで打合せをする必要がある。そのための時間や、作物を育成するための土作りの時間、事前指導の学習時間をどう捻出するか工夫が必要となる。 ・学校の担当者が変わったときも、公民館を通して各種団体と連携を取れるようにしておく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・農事体験学習を通して地域に親しみを持ち、自分たちの住む地域の文化や仕事についてより詳しく知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験をしたことのない児童が増えていることから農事体験学習を今後も大切にしていきたい。貴重な体験活動が家庭での作業を手伝うことに繋がり、地域の良さを再発見し、農業を守り育てたいと考える児童を増やしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の風景が絵画や写真となることにより、絵画や写真に興味を持つとともに、その場所に出かけるなど地域をより詳しく知ろうとする機会にもなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画や写真等地域の文化を提供してくださる方が、固定化しつつある。公民館と連携しながら、新たな地域の文化活動を発掘し、広く紹介していきたい。
地域（保護者）	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験学習では、地域の地場産業である梅や柑橘の収穫体験を子供たちに学ばせることができた。 ・上秋津の良さを改めて再確認でき、大人も子供もふるさとを誇りに思えるような取組となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅や柑橘の収穫体験の時期は、繁忙期であるため、小学校と連携してお互い負担のないよう取組を継続していく必要がある。

評価及び次年度に向けての取組の方向

- ・長年にわたり農業体験学習を実践し、地域と学校が連携した活動が行われている。その中で、老人会や園主の方々との交流が深まり、いろいろな行事にもよい影響をもたらしている。今後も、地域の人々の営みにふれ、努力や工夫を知る機会を大切にしていきたい。
- ・様々な地域の文化にふれる機会を持つことは、子供たちが多様な物の見方を養うよい機会になっている。子供たちの書いた感想が作品の提供者の方にも励みになっていることを聞き、見るだけでなく、発信することにより交流がより深まることを体験した。
- ・「上秋津ふれあい音楽会」は、楽しみにしてくれる地域の方々が多く、地域と学校の恒例行事となりつつある。今後、児童数が減る傾向にあるが、開催内容を工夫しながら幼・小・中・公民館が連携した取組を継続していきたい。
- ・人を大切にする活動については、各学年においてこれまでの取組を継続していきたい。



学校・園名	田辺市立秋津川小学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は年々児童数が減少し、本年度は19名が在籍している。地域の方々は協力的で子供たちと関わることを楽しみにしてくださり、学校行事には積極的に参加してくださっている。公民館や秋津川振興会等の諸団体、地域の方々の協力を得ることで地域の産業や伝統・文化などを学び、地域の良さを知り、地域を大切に作る心が育っている。また、秋津川中学校とは、児童・生徒及び職員の交流もあり、運動会や避難訓練をはじめ中学生が小学生の学習をサポートするピアサポート等さまざまな行事・活動で小中連携を図っている。保育所との連携も行い授業参観の機会を持つなどの交流を深めている。			
目 標	学校・園・地域 ・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にする心を育てる。 ・地域の方との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。 ・子供たちに地域の人たちとの交流により伝統文化等の様々な知識を教えて貰う中で、地域への愛郷心を養う。 ・普段子供たちと接する機会の少ない保護者以外の人達に、公民館主催のイベントを通して交流を持って貰うことで、地域の活性化に繋げていく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 秋津川公民館 秋津川町内会 秋津川振興会 秋津川春秋会（老人会） JA紀南秋津川店 JA女性会 秋津川婦人会 秋津川中学校 秋津川保育所	
取組（活動内容・ねらい・日時等） 今年度の重点項目 読書活動推進教育と福祉教育			
＜読書活動推進教育＞ 【読み聞かせ教室】8月1日（木）10:00～11:00 【講師】熊野高校 読み聞かせサークル「リピース」 【参加者】小学生、中学生、保護者、校区協議会、地域の方 【ねらい】児童・生徒の読書に対する興味や関心を深め、人間形成のための幅広い読書活動を勧める。 【内容】熊野高校生徒による読み聞かせサークル「リピース」が紙芝居・絵本の読み聞かせを行ってくれた。サークルの中には本校卒業生も含まれており児童・生徒は興味を持ち聞くことが出来た。		その他の主な活動 ＜保小中合同の避難訓練（地震）・防災教室＞ 6月17日（月） 南海地震を想定し、避難をした。防災教室では、煙や消火訓練、応急手当などを消防署職員指導のもと体験した。	
＜福祉教育＞ 【認知症サポーター養成講座】 12月10日（火）13:30～15:00 【講師】田辺市社会福祉協議会職員 7名 【参加者】小学生、中学生、保護者、校区協議会、地域の方 【ねらい】超高齢化社会を迎え高齢の方が増加している現在、認知症に対する正しい理解と知識を深める。 【内容】認知症サポーター養成講座の説明と寸劇を通じて認知症の人への接し方と対応を教えていただいた。小学生と中学生がそれぞれのグループに分かれ、寸劇の良い点悪い点についてのグループワークも行った。		＜町民運動会＞ 9月22日（日） たくさんの地域の方が参加してくれた。ダンスや組体操、南中ソーランを披露した。 ＜敬老会＞ 10月6日（日） 地域のお年寄りの方に、ダンスやお祭り音頭（地域の踊り）を披露した。 ＜ふるさとまつり＞ 11月17日（日） たくさんのお客様の前で、合奏と合唱を披露した。 ＜餅つき・秋小発表会＞ 11月28日（木） 地域の方に来ていただき、数種類の餅をついてもらい、丸めてバックに詰めた。各学級で学習したことをたくさんの方に伝えた。また、感謝の気持ちを込めて、お餅を配布した。	

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校が連携して読書活動推進教育や福祉教育に取り組むことができた。 ・地域の方にも参加してもらうことで、地域の方に学校で取り組んでいることについて知ってもらうことができた。地域の課題を共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に、学社融合推進協議会の活動をさらに知ってもらえるような手立てを考え活動を広げていきたい。 ・学校に関わっていただいている方が高齢化してきているので、こういう機会を捉えながら、学校の活動を知ってもらい、学校の活動に関わってもらえる人を増やしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む秋津川地域において認知症サポーターの学習をすることにより高齢者の方への対応についての理解を深めることが出来た。 ・読み聞かせをしてくださったことでより読書に対する興味や関心が深まった。 ・中学生と一緒に学習することで、中学校への接続を円滑にすることが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とともに地域の良さについても触れ、地域を大切にする心を育てていきたい。 ・低年齢の段階から情報モラルについて学習することで、情報機器の正しい使い方を知らせ、トラブルに巻き込まれないようにしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちや中学生が観ている前での発表の場を設けることで、自信を持つことができた。また地域の方に評価していただくことで子供たちの成長に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員であることの自覚と誇りを持ち、地域の後継者として活躍していけるよう自覚を促していきたい。
地域（保護者）	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地域事業の際に学校に協力していただいた。子供たちが地域活動で発表をしてくれることで、地域の活性化に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業や取組を継続していくことができるよう、今後も地域全体で協力し合いながら展開していきたい。


評価及び次年度に向けての取組の方向

＜評価＞


- ・今年度の重点目標として「読書推進教育」と「福祉教育」に取り組んだ。
- ・「読書推進教育」は、ゲームやスマホ等に時間が使われ読書離れが進んでいる児童にとって本校卒業生を含む高校生が紙芝居や絵本の読み聞かせをしてくださることにより読書に対する興味・関心が高まった。また、地域の方と児童が共に楽しめるゲームもあり楽しいひとときを過ごすことができた。
- ・「福祉教育」は、認知症についての正しい理解と対応の仕方について学ぶことができた。児童も地域の方も認知症の方だけでなく高齢者への対応について理解を深めることが出来た。

＜次年度に向けて取組の方向＞

- ・子供たちが地域を大切に思い、社会に貢献できる人材に育つよう、公民館をはじめ各種団体と協力・連携しながら、学社融合を進めていきたい。
- ・来年度は、「特別支援教育」を重点項目として取り組んでいく。



読書推進教育



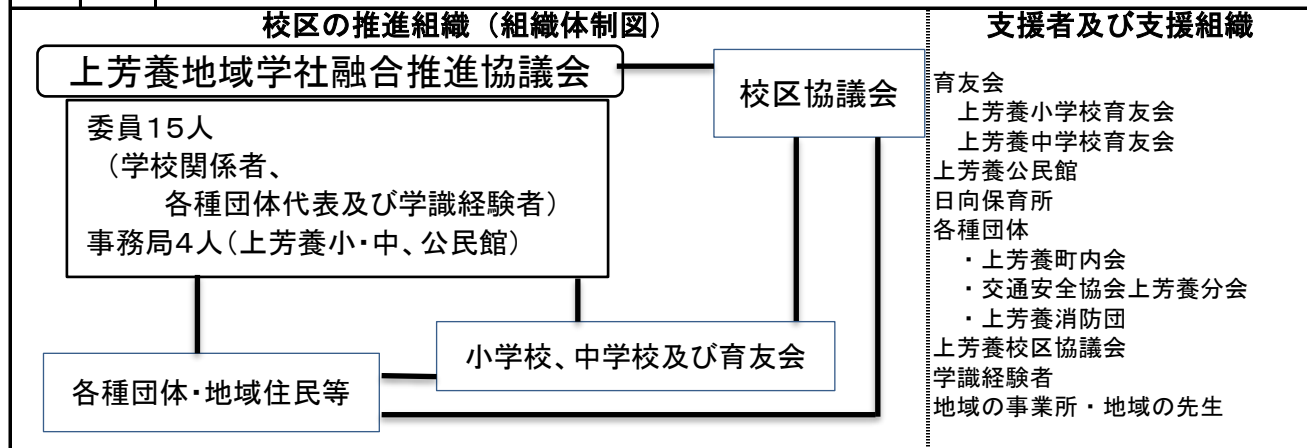
福祉教育

学校・園名	田辺市立上芳養小学校	公民館名	上芳養公民館
-------	------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子

自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得たり福祉施設など地域にある施設や事業所の方々と交流を行ったりして教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子供を育てる」という意識が高く、学校の教育活動には協力的である。公民館は子供対象の行事の実施や住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。

目 標	学校	○地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていかうとする児童生徒を育成する。 ○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。
	地域（公民館）	○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。 ○学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。 ○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。



取組（活動内容・ねらい・日時等）
 144回目の開校記念集会「ようこそ先輩」の取組についての紹介

7月12日（金）
 「ようこそ先輩」は、学校の開校記念集会として地域で活躍している卒業生を講師に迎え、今頑張っていることや自分の子供時代の話などを語ってもらうことで、子供たちが自分の夢や将来の姿を自ら考えたり思い描いたりする機会になっている。今年度は、地元でチームHINATA（株式会社日向屋）を立ち上げた岡本さんとチームの皆さんが来校し、自分たちの活動について語ってくれた。

岡本さんは、地元の若手農家の一人として、またチームHINATAの会長を務めながら地域の抱える農業の課題（人口減少に伴う農家の後継者不足や有害鳥獣による農作物の被害）を解決し、持続可能な魅力ある農業を目指している。

農業 作物をイノシシやシカに食い荒らされる被害
 ↓（農家の課題）
 狩猟 狩猟免許を取得しイノシシやシカを狩猟
 ↓（狩猟によって被害を克服）
 解体 肉を解体処理し販売（ジビエの普及活動）
 ↓（生き物の命を活用）
 加工 地元のシェフが料理
 （地元と協力し、ジビエと農業を地域の資源として発信）



上記のシステムを視覚的資料を活用しながら説明してくれたので、理解しやすかった。また、農業やジビエに関するクイズなどもあり、子供たちは楽しくお話を聞くことができ、上芳養の農家が抱えている課題を知り、それを乗り越える努力を行っている取組について理解する機会になった。

	成 果	課 題
学校・園	○公民館との連携で「ようこそ先輩」の講師を決めているが、今年度は地元で活躍している若手農家の方を公民館長さんから紹介された。講師選任は、ほぼ1年前に行われており、学校としても安心して行事を進めることができた。 ○今回のお話のテーマが、地元農家と協力し、ジビエと農業を地域の資源として発信していることで、高学年の児童にとってはキャリア教育にもなった。	●ようこそ先輩の講師を探すために公民館との連携を継続していくことが必要。 ●1年生から6年生までの年齢差のある小学生に理解できる話をしていただくための打合せが必要である。
*子供にとって	○地元の先輩がどのような子供時代を過ごしたのか、また今現在どのように活躍されているのかを具体的に聞き出すことで、自分の将来像を思い描くきっかけになった。 ○将来地元に戻り、働こうとする意欲やふるさとを愛する気持ちを育むきっかけになった。 ○大人からエールをもらうことで、キャリア教育の一環となった。	●1年生から6年生までの年齢差のある小学生が理解できる話ををしていただくことが必要である。 ●「ようこそ先輩」でのお話の内容については、児童のニーズなども考慮する必要がある。
*子供にとって	実際に地域の先輩から話を聞くことで、身近に感じ、イメージが付きやすく、仕事や文化についてより詳しく学ぶことができた。クイズを出し子供たちに解答権を与えることによって、考える力、相談する力、考えを発表する力が身につく、子供たちの成長に繋げることができた。	将来は自分が地域の後継者であるという自覚を促し、活躍することができるよう取組を継続しながら工夫を加えていきたい。
・地域（公民館）保護者	地域を再認識できる良い機会となっている。子供たちが興味、関心を持ち意欲的な姿勢を高めることができた。地域の方を講師に迎えるといった、地域のつながりを生かすことができた。	児童たちが地域の方と交流をもてるよう今後もこういった機会を継続していきたい。そのために、広報活動や人材発掘に努め、地域活動の充実を図っていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

○評価

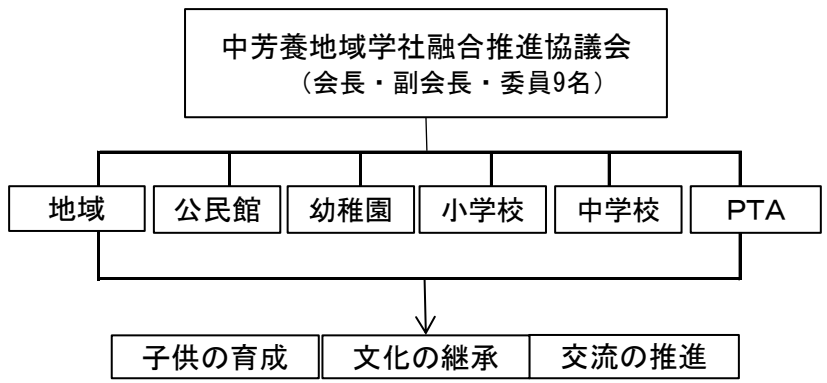
- ・「ようこそ先輩」は子供たちが毎年楽しみにしている集会である。地元農家が現在抱えている課題を知り、そのための対策として狩猟を行い、その肉を解体し商品化するシステムを立ち上げた先輩たちの活動について、興味関心をもつことができた。
- ・食育の観点からも「わたしたちは命あるものを食べて生きていることを忘れないでほしい。」というメッセージは子供たちの心に響いたようである。
- ・学校と地域を繋ぐ持続可能な取組として今後も継続していきたい。

○次年度に向けて

「ようこそ先輩」は学校の開校記念行事で、地域と学校を繋ぐ一つの取組として、今後も継続していきたい。

また、地域にはどんな活動をされている方がいるのかを職員も知ることが大事である。地域のひと・もの・ことを活かした学びを学校行事だけでなく、各学年の学習活動にも広げることが必要である。



学校・園名	田辺市立中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校の児童は明るく、上級生が下級生の世話をすすんでしようとするなど優しい雰囲気がある。地域住民も学校の教育活動に協力的である。昨年度より学社融合推進協議会が設置され、平成28年度までの「共育コミュニティ本部事業」の三つの柱「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を大切にしながら、地域の教育資源を有効にいかした教育活動の充実に今後も努めていきたいと考えている。			
目 標	学校・園・地域 ・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 ・PTA ・町内会 ・老人会 ・消防団 ・JA ・地域の農家 ・地域の寺院・神社	
取組（活動内容・ねらい・日時等） （学校・地域全体での取組） 中芳養夏祭り（8月）…盆踊りや夜店・花火など地域を挙げて盛大に行われた。 敬老会への参加（9月）…3～6年が手紙を贈り、1・2年は音楽発表をした。 中芳養小学校運動会（9月）…一般参加種目に多数の参加を得た。 中芳養合同作品展（12月）…児童や地域の人、教職員の作品を多数展示。 （学年ごとの取組…年間を通したふるさと学習） 1年 中芳養の自然博士になろう 2年 中芳養のすてきな人・すてきな場所博士になろう 3年 中芳養の梅博士になろう 4年 中芳養の防災・安全博士になろう 5年 中芳養の歴史博士になろう 6年 中芳養の未来博士になろう （実践例「4年 中芳養の防災・安全博士になろう」） ①地域調査に出かけよう（10月） ②防災マップを作ろう（11月） ③消防団の方に報告し、教えてもらおう（12月） ④自分たちにできることを考えよう（12月）			

	成 果	課 題
学校・園	・地域の自然や防災、産業、歴史等をテーマとした学習を年間通して展開することで、愛郷心を育むことができた。	・教職員が異動しても学習をスムーズに進められるように、活動の様子や協力者の連絡先を記録し、引き継いでいく。 ・従来の取組を継承しつつ、さらに充実した学習ができるようにカリキュラムを見直していきたい。
*子供にとって	・調べ、体験し、発表する学習活動を通して、課題を追求する力や表現力、協力する態度などを育成することができた。 ・地域を教材とし、地域に住む人から学ぶことを通して、ふるさとの良さや課題を知ることができた。	・体験や活動のみにならないように、指導者が学習のねらいを明確に持ち、児童にも意識させて取り組むようにする。 ・今後もふるさとを大切にすることを育てていきたい。
*子供にとって	・自分たちの地域について学ぶ中で、地域への関心が高まり、親しみや愛着をもつことができた。	・地域での学習や行事を通じて、さらに関心・興味をもち、地域へ貢献できるような活動に取り組んでいきたい。
地域（保護者）	・公民館、町内会の行事に参加してもらうことで、子供たちの地域に対する理解が深まった。地域内での交流を促進することができた。	・学校・地域行事だけでなく、人とのふれあいを構築できる機会を作り、地域のつながりを深めていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

<評価>

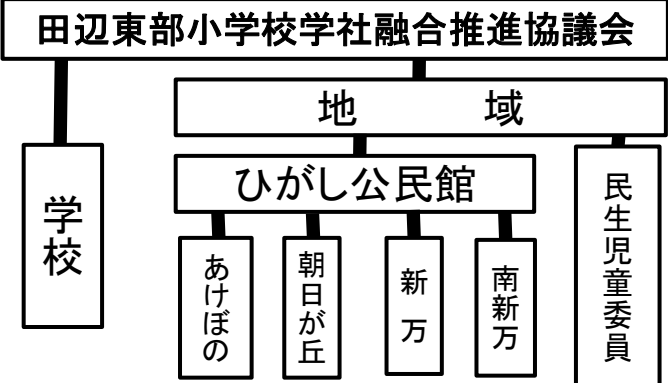




今年も学社融合推進協議会を中心として、今までの成果を継承しつつ、さらに充実した取組をすすめることができた。6年間を通したふるさと学習の中で、例えば4年生では、今年も防災学習に取り組むことができた。地域を防災・安全の視点から調査し、地図にまとめ、実際に防災に関わる仕事をしている人から学ぶことを通して、教科書だけでは学べないことを学ぶことができた。

<次年度に向けての取組の方向>

これからも地域との連携を図り、学びを深めていくことで学力向上や自己肯定感、愛郷心の育成を目指していきたい。



(防災学習の様子)

学校・園名	田辺市立田辺東部小学校	公民館名	ひがし公民館
学社融合における学校・地域の様子 平成7年に「ひがしコミュニティセンター」が建設されてから、学校と地域公民館が連携した取組も充実してきた。今年で12回目を迎えた「ひがしふれあい秋祭り」がその代表的なものである。4町内会・地域の各種団体・学校・公民館が合同で、幅広い世代の方々がふれあえるきっかけを作り、地域住民の交流を図るとともに、地域の連帯感を深めることができている。今回も昨年度に引き続き、その場で6年生が「東部の誇り～そして未来へ～」の学習発表をした。語り部学習の取組も5年目になり、学習を進めていく中で、児童は地域の方々から、地域の歴史や文化、町作りをどのような願いで進めてきたのか、またその時の苦労や喜び等を学ぶことができた。			
目 標	学校・園・地域 ○田辺東部小学校区の今と昔を調べ、語り部活動として下級生や保護者・地域の方々に発表することを通して、自分たちの町の良さを再認識し、地域に誇りと愛着を持つ。 ○子供たちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。 ○地域の良さを伝えることによって、自分たちも地域について再認識する機会とする。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 ◎ひがし公民館 ◎地域にお住まいの方々	
取組（活動内容・ねらい・日時等） ①導入・学習計画を立てる（6月） 自分たちの住む地域は、新しい住宅地であり、田辺市の中でも新しくできた町であるという特色がある。そこで、地域の今と昔を調べて、新しい町づくりに取り組んだ人々の思いや、今現在の地域の様子などを発表するという計画を立てた。			
②インタビューの準備（9月） 各地区をよく知る方々に質問したい事を考え、インタビューの計画を立てた。お招きするゲストは公民館主事に紹介していただいた。			
③地域の方々にインタビュー（10月） 各地区のゲストティーチャーを招いて、昔の町の様子や、新しい町作りへの願いや苦労などについて教えていただいた。			
④調べた事をまとめる（10月） インタビューや調査で分かった事を、各地区別のグループでまとめた。地域の方々の熱い思いや願いをたくさん知り、地域の魅力を「ひがしふれあい秋祭り」で多くの方々に伝えたいとの思いで、発表原稿作りに取り組んだ。			
⑤「ひがしふれあい秋祭り」で発表（11月） これまで学習してきた地域の魅力について大勢の人の前で発表した。			

	成 果	課 題
学校・園	○語り部学習は6年生による取組であったが、地域の特色や歴史・施設・住民の願い等を調べ、地域の方々に発表することで、自分たちの住んでいるふるさとに誇りと愛着を持たせるよい機会となった。 ○地域の方々から学んだことを、地域に発信することで、地域と学校が連携して、さらによりよい地域にしたいとの思いを共有する事ができた。	○限られた時間の中で、より効果的に「ねらい」を達成できるように計画的に学習を進める必要がある。 ○歴史の浅い地域のことを学習するので、子供は変わっても、学習内容に幅がない。
*子供にとって	○自分の身近な地域をテーマとした学習であったため、子供たちの興味関心が高く、意欲的に学習をすすめ、ふるさとのことを知り、愛するきっかけとなった。	○児童一人一人の興味・関心に沿った学習を支援できるように、十分な時間を確保する必要がある。
*子供にとって	○地域の方にインタビューを行う事で、コミュニケーション能力を高める事ができた。ふれあい秋祭りでの発表を通して、自身の表現力を高め、達成感を味わう事ができた。	○地域に対する誇りや愛着を忘れず、地域貢献にさらに取り組んでいけるようにしたい。
地域（保護者）	○子供たちに、地域の歴史や施設、住民の願い等を伝える事に喜びを感じている。自分たちにとっても、地域を再認識できる活動となった。	○今後も公民館と学校が連携を密にして計画的に活動を進めていくことが大切である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ◎5年目を迎えた語り部学習であったが、学校・公民館・地域が連携して取り組み、充実した学習となった。今年度も、児童に故郷を愛する心の芽を育み、また、地域に貢献する活動に取り組もうとする意欲を喚起することができた。内容や方法を工夫しながら、次年度以降も地域学習に取り組んでいきたいと考えている。 ◎学社融合推進協議会の取組としては、学期に一度協議会委員の皆さんに授業の様子を見てもらい、学校の様子について話し合う機会を持っている。その際、授業時間だけでは学級園の手入れがなかなか十分にできないことをお話しすると、暑い中継続して草とりをしてくださった方もおられた。2学期には、給食も食べていただき、校内音楽会も鑑賞していただいた。		

学校・園名	田辺市立龍神小学校	公民館名	龍神公民館 龍神分館																		
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本年度も龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することにより、龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組みました。児童が地域で生活する様々な方々と触れ合い、ともに活動することで、児童も地域の方々も元気になっています。保護者や地域の方々には、学校の教育活動に大変協力的です。</p>																					
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難所として指定されている学校での宿泊体験を通して、集団の中で自分の役割を自覚し主体的に行動する態度を身に付けるとともに、地域の方々とは協力しながら避難生活を送ることができる。 ・保存食や防災用品の活用体験を通して、防災意識の向上を図る。 																				
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p> <pre> graph TD A[龍神小学校学社融合推進協議会 会長－副会長－委員（4名）] --- B[公民館] A --- C[PTA] A --- D[行政局] A --- E[防災まちづくり課] B --- F[避難所体験] C --- F D --- F E --- F F --- G[防災意識の向上] </pre>		<p>支援者及び支援組織</p> <p>田辺市役所総務部防災まちづくり課 田辺市役所 龍神行政局 田辺市立龍神小学校PTA 田辺市龍神公民館龍神分館</p>																			
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>本校は地域の避難所に指定されていることから、5年前から「地域の方と協力しながら主体的に避難生活を送ることができる児童を育てる」ことを目的として、3年生以上で1泊2日の防災キャンプを実施している。また学校・PTA・龍神公民館龍神分館共催の防災学習会をこの防災キャンプの中に組み入れて行っている。本年度からは学社融合推進協議会委員の方にも参加協力をさせていただき、6月28日・29日に実施した。</p> <p>防災キャンプの事前学習として、児童は被災時に自分たちができることや集団で生活する上で大事なことを話し合い目標を決めてキャンプを始めた。</p> <p>防災学習会では田辺市役所防災まちづくり課の方を講師にお迎えし、「被災時、身近なものでできる防災グッズ」を学習した。新聞紙を使っての暖のとり方や段ボールの箱を使った簡易トイレ、簡単なロープの巻き方、ナイロン袋と懐中電灯でのランタンなどを教えていただいた。災害時にこれしかないという時に身近な物でできる、知っている役立つというものを実際に体験したり、作ったりした。</p> <p>防災キャンプの夕食では、保護者や学社融合推進協議会委員の方と全児童と一緒に夕食をとった。昨年度の台風19号により4日間の停電があり給食の提供が困難であった。そのような経験から被災時に備え、本年度より1・2年生も保存食のアルファ米を食べる経験をしておくことが大切であるという考えのもとに参加させた。</p> <table border="0"> <tr> <td>28日（金）</td> <td>29日（土）</td> </tr> <tr> <td>16:30 スケジュール確認・班会議</td> <td>6:00 起床</td> </tr> <tr> <td>16:45 荷物整理・寝床準備</td> <td>6:30 身支度・ラジオ体操</td> </tr> <tr> <td>17:00 食事準備</td> <td>散歩</td> </tr> <tr> <td>17:30 食事・片付け</td> <td>8:00 朝食</td> </tr> <tr> <td>18:30 防災学習会</td> <td>片付け 振り返り</td> </tr> <tr> <td>19:45 星空観察</td> <td>9:30 下校</td> </tr> <tr> <td>21:00 就寝準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21:30 消灯</td> <td></td> </tr> </table>				28日（金）	29日（土）	16:30 スケジュール確認・班会議	6:00 起床	16:45 荷物整理・寝床準備	6:30 身支度・ラジオ体操	17:00 食事準備	散歩	17:30 食事・片付け	8:00 朝食	18:30 防災学習会	片付け 振り返り	19:45 星空観察	9:30 下校	21:00 就寝準備		21:30 消灯	
28日（金）	29日（土）																				
16:30 スケジュール確認・班会議	6:00 起床																				
16:45 荷物整理・寝床準備	6:30 身支度・ラジオ体操																				
17:00 食事準備	散歩																				
17:30 食事・片付け	8:00 朝食																				
18:30 防災学習会	片付け 振り返り																				
19:45 星空観察	9:30 下校																				
21:00 就寝準備																					
21:30 消灯																					



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の向上を図ることができた。 ・災害時の学習だけでなく、地域の方や保護者の方に学校の様子を知っていただくよい機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が避難所となっているので、長期の避難となった時、学校職員の動き方についても行政の方と調整しておく必要がある。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に役立つ知識や技を学ぶことができた。 ・避難所生活になったとき、自分たちができることを考えることができた。 ・高学年がリーダーとなって集団生活のきまりを下級生に伝えることで、リーダーとしての自覚をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と地域の方が顔見知りになり、より触れあえる交流の場としていきたい。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域の方と一緒に体験的な活動を通じて防災について考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夕刻の学習会となっているので、地域の方も集まれる昼間の学習会（屋外での活動）も考えていきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習を保護者や地域の方と一緒にすることにより、防災について考える良い機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災の大切さを啓発し、多くの人の参加をよびかける。 ・龍神行政局や地域消防団などとも連携を図っていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

評価
職員が防災キャンプのねらいを子供たちに意識させ話し合わせることにより、児童一人一人が防災キャンプの大切さや避難所の生活で自分ができること、集団生活していく上で大事なことを考えながら行動できた。
本年度は学社融合推進協議会委員の方の参加協力を得ることができた。
また田辺市役所総務部防災まちづくり課の方に「身近なものでできる防災グッズ」を教えていただき、体験的に学習できたので、楽しく活動できた。
例年7月に防災キャンプを行っていたが、本年度は6月に実施した。熱中症などの心配が少なく、夜も涼しくてよかった。

次年度に向けての取組の方向
毎年行っている防災キャンプではあるが、地域の方々にとって年に1回は真剣に防災を考える良い機会となっている。学校そして子供たちからも、地域住民に防災について啓発しながら有意義なものとしていきたい。地域の方々も一緒に活動できる内容を検討していく。



学校・園名	田辺市立上山路小学校	公民館名	龍神公民館・殿原分館・東西分館・宮代分館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本校は殿原小学校、東小学校、宮代小学校が統合して11年目を迎えた。この間、3地域の想いを大切にしながら様々な取組を行ってきた。平成26年には田辺市学社融合の研究発表大会も行った。地域の方々は「自分たちの学校」という思いを強く持っていて、何事にも協力的である。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を知り、昔からの知恵に学び、ふるさとを大切に思う児童の育成。 ・地域と保護者児童の交流の場を設け、お互いを知ることで地域の活性化をはかる。 		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p> <pre> graph TD A[学社融合推進協議会] --- B[学校] A --- C[学校地域連絡協議会] </pre>		<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹生ノ川区、殿原区 ・上宮代区、下宮代区 ・東区、西区 ・丹生ノ川果無クラブ ・殿原老人クラブ ・ピンコロ会 ・上宮代ふれあいクラブ ・せいじゅ学級 ・あけぼの学級 ・殿原婦人会 ・宮代婦人会 ・東西婦人会 	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>①串柿作り体験 参加者・・・3、4年生・保護者・丹生ノ川果無クラブ・殿原老人クラブ・地域の方々 日時・・・令和元年11月21日（木） 13：10～15：15 場所・・・殿原老人憩いの家 ねらい・・・○子供と保護者が串柿作りを通して、高齢者から伝統的な作業と知恵を学ぶ。 ○交流を通して、昔の生活を知ると共にコミュニケーション能力の向上を図る。 活動内容・開会（児童代表あいさつ・日程説明・自己紹介） ・串柿作り ・交流会 ・閉会（集合写真撮影・児童代表お礼の言葉）</p> 			
<p>②秋の花植え 参加者・・・5、6年生・せいじゅ学級・あけぼの学級・地域の方々 日時・・・令和元年11月29日（金） 13：30～15：00 場所・・・上山路小学校花壇、体育館 ねらい・・・○高齢者、地域の方々との共同作業により、勤労意欲や愛校心の向上を図る。 ○交流を通して、昔の生活を知ると共にコミュニケーション能力の向上を図る。 活動内容・開会（児童代表あいさつ・日程説明・自己紹介） ・花植え ・上山路太鼓披露 ・交流会 ・閉会（集合写真撮影・児童代表お礼の言葉）</p> 			

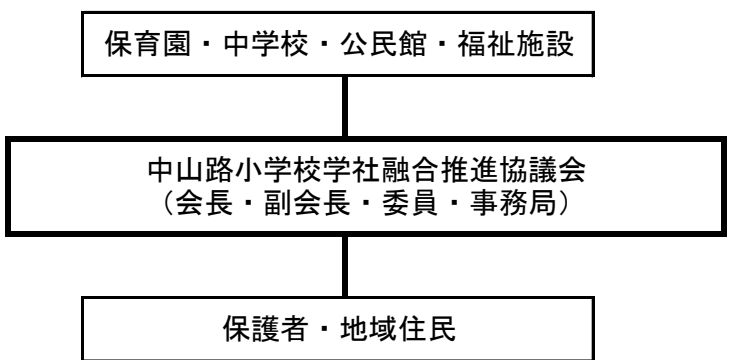

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合推進協議会、学校地域連絡協議会の協力を得て活動の計画を立てることができた。 ・家庭科の授業でのミシンボランティア等ゲストティーチャーについての助言が得られた。 ・子供、保護者、高齢者の3世代交流の機会が持てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の入れ替わりがあるので取組を組織的に行わなければならない。そのためには資料や手順の整理保管が必要である。 ・行事の精選や学社融合計画の見直しが必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい为学校で新入生を迎えたいという愛校心が高まった。 ・勤労意欲の喚起につながった。 ・教科や総合的な学習、特別活動などで身につけたコミュニケーション能力を生かす場となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力については、さらなる向上が必要である。時、場、相手によってコミュニケーションの取り方が違うことなどを指導する必要がある。 ・活動を通して学んだことを学校生活に生かしていく態度を育てたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・龍神の伝統的な文化に触れ、ふるさとの思いが深まった。 ・先人の知恵を知ることができた。 ・地域の方の顔と名前を覚えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで地域の方々とコミュニケーションをとろうとする児童を育てたい。 ・地域の一員としてふるさとの将来や自分の将来が考えられる児童を育てたい。
・地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域、地域の人と人の結びつきを深めることができた。 ・取組を行うために関係団体と話し合いを持った。それが公民館活動の活性化につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による担い手の減少。 ・保護者のさらなる参画。

評価及び次年度に向けての取組の方向

【評価】
 ここに取り上げた以外にも、様々な学社融合の取組を行っている。当地域の人、歴史、文化、自然を生かした取組には、本校でしかできないものが多い。
 それらの取組をとおして、児童の探求力、問題解決能力、表現力、実践力、人間関係力等が高められていく。これは、本校の教育目標「学ぶ意欲と志をもち、心豊かにたくましく生きる子供の育成」の実現には必要不可欠なものである。

【次年度の方向】
 児童数の減少と高齢化の進行により継続していくのが困難な取組もでてきた。また、来年度から新学習指導要領が全面実施となる。これらの状況を踏まえて、取組の見直しを行わなければならない。変えてはいけないもの、変えなければならないものを見極めを、学社融合推進協議会、学校地域連絡協議会、保護者、学校で協議し、持続可能なものとした。



学校・園名	田辺市立中山路小学校	公民館名	龍神公民館中山路分館
学社融合における学校・地域の様子 本校では平成11年より龍人学（ふるさと教育）として、地域に根ざした教育活動を広く行い、その基盤を生かしたキャリア教育・食育等の実践と共に「地域の学校」としての活動を展開してきた。特に平成19年度からは、学校が持つ役割や責任を自覚し、それを果たしていく中で地域に何らかの貢献が出来るのではないかと考え、家庭・地域・関係機関との連携の在り方を「相互補完から協働機能型への発展をめざす」取組を図ってきた。			
目 標	学校・園・地域 ・学校・保護者・地域の連携を密にし、相互にその教育力を活用し合い、協力して学校運営の改善や児童の健全育成、地域の教育力向上に努める。 ・地域の方々との交流を通して人とのつながりを深め、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。 ・地域学習や地域の方々との交流を通して、地域の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛し地域に誇りを持つ子を育てる。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 ・中山路小学校PTA ・龍神公民館中山路分館 ・3地区 ・2地区シルバー会 ・柳瀬保育園 ・龍神中学校 ・龍トピア・龍の里 ・龍神教育事務所 ・学識経験者	
取組（活動内容・ねらい・日時等） ■主な行事 5月 第1回定例会 学校運営、事業計画について説明、協議する。 8月 愛校作業 学校・保護者・協議会による環境整備作業を行う。 9月 運動会 協議会と共催で、地域、保護者参加型の種目を盛り込んで行う。 11月 栴檀餅つき交流会 収穫祭を兼ねて、保護者・協議会・地域が集い、芋餅をつく。昼食交流会・体験学習（昔遊び・グラウンドゴルフ・和楽器）を行う。 12月 学習発表会 協議会の参加協力で、地域学習や交流を中心に学習発表会を行う。 主な内容・地域学習 ①「松煙作り」 ②「明治の大水害」 ・音楽 ①「三味線演奏」 ②「山路小唄」を全員で歌う。 ・群読 ①「栴檀語る中山路」 2月 第2回定例会（予定） 本年度の取組報告・次年度の計画・学校関係者評価 ■年間を通した取組 挨拶運動			
			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 地域講師の専門性のある指導は、教員の負担を軽減できた。 地域講師からの学習内容を学習発表会で発表し、さらに交流が深まった。 地域の人々の来校は学校教育への理解を深め、学校に親近感を持ってもらえる機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に講師を依頼する場合、綿密な計画や打合わせが必要である。 時間帯効果を考慮し、交流行事の精選、見直しが必要である。 学校開放中の参観者が少ないので、来校への手立てや工夫が必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 学校では教えることができない地域性、専門性の高い内容を地域講師から学ぶことができた。 地域交流は、コミュニケーション力を鍛える場となった。 地域学習や地域交流は、児童の学ぶ意欲を高めてくれるものとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な挨拶や返事など、コミュニケーション力を継続的に鍛えていく。 めあてや児童に付けたい力を明確にし、活動を通して児童の力を育成する。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域について学ぶことで、自分たちの住む地域を知り、地域の良さに気づくことができた。 地域とのつながりができ、地域行事にも積極的に参加しようとする意識を育てる機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内だけでなく、常に地域の方々へ感謝の気持ちを持って温かい心で接することができるように自覚を促していく。 より地域に対しての愛着や関心をもてるような働きかけが必要である。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> 児童と交流することで、地域全体で児童を見守り育てていこうとする意識が深まっている。 保護者・地域の方向士のコミュニケーションの場となった。 子供と向き合っ共活動することで、地域の良さの再発見や地域活性化につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域、保護者と学校の連携を密にし、より多くの方々と交流できるよう取組を進め地域の活性化につなげていく。 行事を通じてできたつながりを大切に、地域全体の教育力向上を図る。 高齢者のさらなる高齢化が進んでいる中で、新たな人材の発掘、育成が必要である。

評価及び次年度に向けての取組の方向

- 【評価】
- 職員だけではできない地域性、専門性の高い学習活動が展開できた。
 - 地域教材や地域交流は、児童の学ぶ意欲を高め、コミュニケーション力や表現力を鍛える場にもなった。
 - 地域学習で、自分たちの住む地域を知り、地域の良さに気づくことができた。
 - 保護者・地域の人々の来校は、学校の取組や様子に対する理解を深め、さらには地域の交流の機会にもなった。
 - 推進協議会の活動の場が増え、学校教育により理解を深めてもらうことができた。
- 【次年度に向けての取組】
- 今年度の取組を継続し、学習したことを地域に発信していく。
 - めあてや児童に付けたい力を明確にし、活動のみで終わらないようにする。
 - 推進協議会や保護者が、主体的に学校の取組に参画してもらえるような組織、環境を整えていく。



学校・園名		田辺市立咲楽小学校		公民館名		龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館	
学社融合における学校・地域の様子 地域の学校や教育に対する関心は高い。ほとんどの家庭がPTA準会員として協力してくれており、運動会や学習発表会等にも大勢の参加がある。学校便りを楽しみにしてくださっている方も多いので毎月全戸に配布している。本校では創立時から、各地区長、老人会長、女性会代表や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進協議会が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしてきた。地域の祭礼では、児童も事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い、祭りに積極的に参加するとともに、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなど、学校と地域との結びつきは強く、地域ぐるみで子供を育てていこうという土壌がある。							
目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・咲楽小学校と学区民が連携を図り、地域全体で子供の健やかな成長を担う環境づくりに寄与する。 ・咲楽小学校の教育発展のため広く意見を聞き、学校運営に反映できるように努める。 ・学校を開き、地域住民との連携を図って行く中で、学校教育方針の周知に努める。【咲楽小学校地域連携推進協議会《規約第3条》等より】 					
	校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織 <ul style="list-style-type: none"> ・咲楽小PTA ・校区会（4地区） ・龍神教育事務所 ・市教研龍神ブロック ・柳瀬保育園 ・学識経験者 等			
取組（活動内容・ねらい・日時等） ◇11月11日～15日「学校に行こう」（学校開放週間） 学校の様子を知ってもらい、地域の方から学んだり地域の方と共に学んだりする活動を通して地域住民との交流を深めるため、「学校に行こう！（学校開放週間）」を設定した。校区全戸に「学校開放月間全体行事予定案内」を、さらに保護者には各行事前に案内チラシをそれぞれ配布すると共に、保護者と老人会には重ねて出席を呼びかけた。当日は、多数の保護者や地域住民の参加があった。 ①収穫祭 12日(火) 全校で育てたさつまいもを10月17日(木)に収穫した。12日当日、1～4年生が、学級毎に収穫した芋を使って調理をし、5・6年生は自分たちで育てたもち米でお餅を作り保護者や地域の方に来ていただいてみんなで収穫を祝う食事会を行った。 ②給食試食会 13日(水) 前もって希望者を募り、普段児童が食べている給食を試食し担当者として意見交流を行った。 ③公開授業 13日(水) 各学級で国語、算数、理科、社会、生活科、体育、音楽、道徳等の授業を公開し保護者や地域の方々に参観していただいた。 ④花の苗植え 14日(木) 地域の方の指導により全校児童で学校の花壇やプランターに苗の植え替え作業を行った。 ⑤木工教室 15日(金) 3～6年生児童の活動。講師を招き、丸太を切って思い思いの作品を作ったり、森の学習も行ったりした。また、保護者や地域の方々も参加して児童と一緒に学習したり作業等を行った。 ⑥昔の遊び体験 15日(金) 1～2年生児童の活動。地域の方や福井分館長さん等に竹とんぼの製作と遊び方(使い方)について教えていただいた。 ◇学社融合推進協議会・学校地域連携推進協議会・咲楽小学校が中心となって企画及び活動を行った主な行事 ①保護者学級・田辺市スクールソーシャルワーカー（玉田 陽子先生） ②通学路危険箇所確認 7月末日 安全対策部会（学校地域連携推進協議会）による、通学路における危険箇所の確認作業。 ③運動場の草引き（3回） 7月・8月・9月 環境整備部（学校地域連携推進協議会）が企画。雨で中止になった日もありますが、主に地域のお年寄りが参加して下さった。 ④愛校作業 8月18日（日） 小学校、PTA、環境整備部が企画。夏休みの登校日に位置づけており、児童と保護者、地域の方々が一緒になって校内の整備作業を行った。 ⑤龍神地域防災訓練 9月1日（日） 学校地域連携推進協議会、安全対策部会、小学校も参加。学校と地域が合同で地震の防災訓練を行った。							

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の遊び、苗植え等、地域の方々の支援を必要とする学習や活動を通して、学社融合の大切さを再認識した。 ・大勢の方に学校に来てもらい、学校や児童の様子を知っていただくことができ、地域との一体感が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放週間中の行事は、同日開催を可能な限り増やす。 ・やはり公開授業を参観して下さる方が少ない。授業を観て下さる方を増やす工夫をする必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで育てたお芋を使って、調理した食べ物を参加して下さった地域の方々に振る舞うことで充実感を味わった。地域との距離がより近くなった。 ・保護者や地域の方々の助けやアドバイスをすることで作業がよりスムーズになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「敬老の日」にあわせて敬老の方に手紙を書いて届ける活動のような子供から地域に発信したり働きかけたりする、子供が主体となる活動をもっと増やしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ともに活動してくれる大人がいることで、地域に見守られ支えられていることを実感し、同時に安心感を得ることができている。いろいろな人から学ぶ良い機会となった。 ・学社融合推進協議会や学校地域連携推進協議会の積極的な活動により、昨年度より大人と子供が触れ合う機会が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が行事を主導しないような取組も必要である。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・教えたり共に活動したりすることが、大人の側にとっても楽しみであり、学校と地域がつながるきっかけにもなっている。 ・学社融合推進協議会や学校地域連携推進協議会が積極的に活動してくれるので学校との関わりが深くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ年を追うごとに参加者が増えているので嬉しいことだが、同じような顔ぶれになりがちである。参加者の幅を広げる工夫を考えたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向
 「学校開放週間」は学校や地域の年間行事として定着している。しかし、参加者が固定化しつつあるので、より多くの方に参加していただき学校の様子を知ってもらうための工夫をしていく必要がある。特に授業参観については、公開授業時はもちろんのことその日以外でも参観していただけるような手立てを講じる必要がある。今後も学校と地域双方にとって無理のない形で、互いのプラスになるような「学校開放月間（学校開放週間）」の取組を続け、さらに学校と地域の結びつきを強めていきたい。
 学社融合推進協議会発足2年目で安定した活動となってきている。当初は、どちらかというと学校主導で案を練り話し合いを通して準備をしてきたこともあるが、加えて、本校では創立当時から「地域全体で子供の健やかな成長を担う環境づくり」を目的として『咲楽小学校地域連携推進協議会』があった。これが基盤となっている事は言うまでもない。
 細やかに組織を整えたおかげで、これまで以上に責任感が芽生え様々な新たな活動へとつながっている。「無理をしないでできることからぼちぼちとやりましょう。」と肩肘張らずに始めたことが現在功を奏しているように思う。
 次年度に向けては、まずは1年間の活動の振り返りを充分に行うことである。更に、より学社融合推進協議会が主体となる活動の在り方についても検討していく必要がある。そこから新たな方向性を見出していこうと考えている。

学校・園名	田辺市立中辺路小学校	公民館名	中辺路公民館
学社融合における学校・地域の様子 地域の方々や保護者に見守られながら、子供たちは明るくのびのびした学校生活を送っている。地域の方々を訪れていただける行事を計画して子供たちが頑張っている姿を見てもらえるように、また、共に活動したり現地に出むいて指導していただいたりする中で、ふれあいや協働の機会を持てるように努めている。町内会・公民館・社会福祉協議会・女性会等の関係機関に様々な協力をいただきながら取組を進めている。			
目 標	学校・園・地域 子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘される中、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、地域を担う人材を育成するため、これまでの「学社融合の取組」を生かして、学校と地域が当事者意識をもって子供の成長を支えていく学校づくりを進める。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 田辺市学社融合推進協議会規則（H30.4.1施行）に基づき設置 <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">中辺路地域学社融合推進協議会</div> <div style="font-size: small; margin: 2px 0;">事務局：教頭（教務）</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">学習支援・行事部会</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">環境・安全部会</div> </div> </div>		支援者及び支援組織 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館 ・町内会 ・老人会 ・社会福祉協議会 ・JA女性会 	
取組（活動内容・ねらい・日時等） 組織体制を見直し、昨年度は「学習支援部会」と「環境・安全・行事部会」で編成されていた部会を「学習支援・行事部会」と「環境・安全部会」に再編する。学社融合推進協議会委員全員と学校職員はそのどちらかに所属するよう分担を決める。			
○学習支援・行事部会 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会、イモの苗植え、収穫祭、学習発表会、保護者学級など、地域の方々に参加いただける行事に関わり、準備・運営等を行う。 ・農作業体験、福祉学習、家庭科の調理実習と裁縫実習、夏季休業中の平和学習、森林学習、清姫音頭の練習、ふるさと学習などで、ゲストティーチャーやゲストサポーターとして児童の学習を支援する。 			
○環境・安全部会 <ul style="list-style-type: none"> ・例年行っている夏季休業中の育友会奉仕作業の方法を見直す。これまで別々の日に行っていた中辺路中学校の育友会奉仕作業と同日開催にし連携・連動して2校の環境整備を行う。 ・子供セーフティガード、下校見守り隊、地域有志の方々により、児童の登下校について安全確保のための見守り、声かけ、誘導を継続して行う。 			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会奉仕作業の方法を見直すことによって、地域の方々の協力を得て保護者の負担を軽減することができた。 ・地域の方々とともに活動する中で、教室だけでは教えられないことを学ばせることができ、地域の方々との信頼関係づくりにもつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の奉仕作業と同時進行となるため、具体的な仕事の割り振りとそこにあてる人員を調整する必要がある。 ・地域の方々と交流したり、体験したりすることには大きな意義があるが、限られた時間の中で内容を精選していく必要がある。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方々が目配り声をかけて下さるなかで、安全に毎日の登下校をすることができた。挨拶の習慣も身についた。 ・地域の方々から、あるいは地域の方々と学ぶことにより地域で働く人々の思いや願いを知るとともに、地域のよさに気づき地域に対する愛着を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の安全を自分（たち）で守るという意識をより高めさせたい。また、進んでよりよい挨拶ができるようにさせたい。 ・総合的な学習や他の教科との連携のなかで、より深まりのある学習へと導きたい。また、学校で学んだことを家庭や地域での生活にいかせるようにさせたい。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでは設定できにくい場で、地域の方からいろいろと教えてもらえることで、自分たちの住んでいる地域の良さを再確認することができた。 ・様々な方と出会い交流することで、場に応じた言葉遣いやマナーを身につける機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区体育協会主催の行事や地域の各種団体が主催する行事にも、より積極的に参加できるとよい。 ・学校外での地域の方々との交流が少なくなっている。
地域・保護者（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に協力することで、学校の取組を理解し、心豊かな子供たちの育成に関わることができた。また、子供たちに地域のよさを知ってもらうことができた。 ・学校の環境整備や通学路の安全確保に協力することで、学校を自分（たち）の手で支えるやりがいを感じることもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの方々に参加・協力していただいているが、行事によっては参加人数が少ないものもあった。 ・地域の支援者の高齢化が進み、今後も様々な事業を継続させるためには、新たな支援者の発掘が必要である。

評価及び次年度に向けての取組の方向

- ・年間を通して様々な形で地域の方々に関わってもらうことができ、地域の方々の故郷に対する思いや自分たちに込められた期待に気づかせることができた。
- ・夏の育友会奉仕作業は小中学校合同で行い、そこに地域の方々も参加してもらう形をとった。今回が初回であったため、細かい部分での調整は来年度も必要になるが、家庭数（保護者数）の減少という長期的な課題に対して少なくとも当面有効な手立てを見いだせた。今回の変更にもなって協議や連絡・調整をして下さった方々、小中学校の2校にまたがって作業をして下さった方々には特に感謝したい。
- ・水害対応の避難訓練を小学校・中学校・保育園合同で行ったが、防災に関する取組をより充実させることを考えたい。



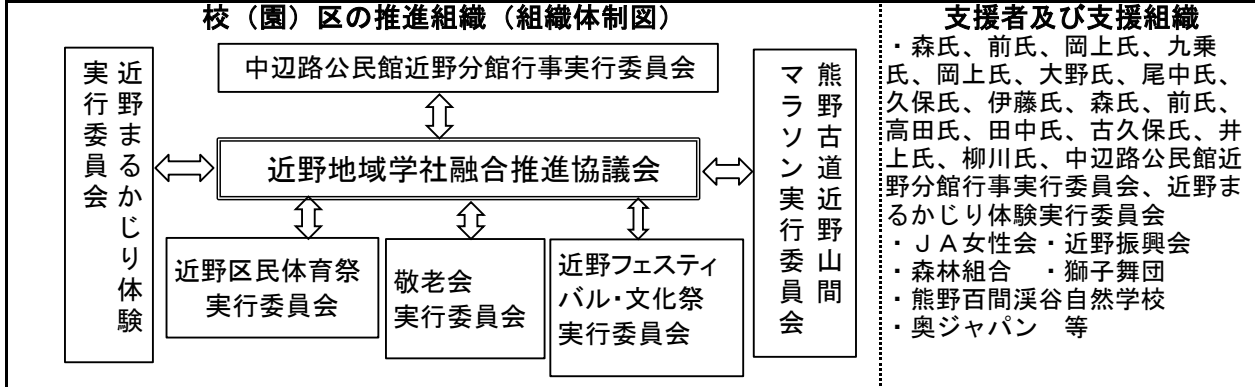
学社融合推進協議会活動報告 協議会名：近野地域学社融合推進協議会

学校・園名：田辺市立近野小学校 公民館名：中辺路公民館近野分館

学社融合における学校・地域の様子

本校は、世界遺産である熊野古道「中辺路」沿いに位置している。熊野古道の複数のルートの中でも「中辺路」は、平安時代より上皇や貴族から民まで様々な人々が参詣を繰り返した参詣道として知られている。そして、今も本地域には、平安の昔を偲び古道を探索する人々が、日本だけではなくヨーロッパを中心に世界各国から訪れている。そのような歴史や伝統・自然環境にも恵まれた本地域には、古来より「誰でも受け入れる」という懐の深さがある。さらに、地域には人々のために我が身をけずるような先人が幾人も輩出された歴史もあり、従来よりお互いのことを思いやって行動するという風土が地域内に根付いている。本校はそのような地域にあり、これまでの地域の教育力を活用したさまざまな取組により、多くの教育的効果をあげることができている。

目 標	学校・園・地域	学校を含めた地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、高齢者福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。 【学校】 ・地域での活動を通して地域を知る。・共同作業を通して協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学ぶとともに、地域の住民や伝統・文化を大切に、尊敬する気持ちを育てる。 ・地域の一員として地域のイベントに参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。 【地域】 ・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。 ・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。
--------	---------	---



取組（活動内容・ねらい・時期等）

地域の教育力をいかしたクラブ活動の取組 中高学年（通年：2期制）
地域には多才な方が大勢おられ、様々なクラブを開設する支援を受けることができている。クラブ活動時において地域の方々、常に子供たちが楽しみながら共通の興味・関心を追求できるよう支援をして下さっている。活動の最終日には『お礼の式』を開き、子供たちから地域の方々に感謝の気持ちを伝えている。

テーブルテニスクラブ ～地域公民館サークルとの連携～
地域の卓球サークルの方々から教えていただいた打ち返すタイミングやルールなどを、子供同士で教え合う姿も印象的であった。子供たちは、ラリーの数を数えながら夢中になって取り組んでいた。自ずと相手と息を合わせることの大切さを学ぶことができた。

ものづくりクラブ ～温かいふれあいからふるさとのよさを学ぶ～
近野の秋の野草や実を材料にした工作を行った。地域の方は絶えず笑顔で、子供の気持ちをくみとって接して下さっている。本地域の懐の深さを地域の方々が具現化してくださっていると感じる。

将棋クラブ ～達人から手ほどきを受ける～
将棋クラブでは、地域の達人から手ほどきを受けており、将棋を通して温かな対話が生まれている。ある子どもは「地域の人から、相手の心を読んで次の一手を考えるよう教えてもらった。相手の気持ちを考えながら将棋をすると、さらに楽しかった。」と語った。

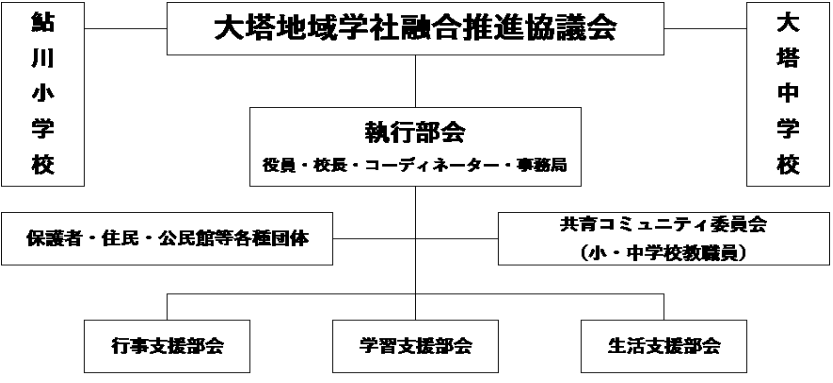
ソフトテニスクラブ ～卒業後の活動のつながりへ～
地域の方から、技術のみならず、仲間と協力して活動できる喜びも得られる場となった。回を重ねるごとに、子供同士で教え合う姿もみられるようになった。併設の中学校にはソフトテニス部があることから、小学校卒業後は中学校での活動へのつながりも期待できると考える。

	成 果	課 題
学校・園	・地域の方々のご協力を仰ぎ、取組を継続することによって、学級・学校の仲間はもとより、多様な他者との豊かな関わりを充実させることができた。 ・取組の中で、地域の方々の温もりを再認識するとともに、自分たちの暮らしが地域の方々の努力や工夫によって支えられていることに気づき、地域への愛着をより高める機会となった。	・教職員が異動しても、次の職員集団でねらい等を引き継いでいくとともに、地域の方々とのつながりも継承していくことが重要である。
*子供にとって	・子供たちにとって一人では難しかったことも友達と力を合わせたり、地域の方から学んだりすることで学習が深まるということを実感できる機会になっていた。 ・地域の方々の温かな人間性にふれる中で、子供たち同士も互いに思いやりの気持ちをもって接したり、それぞれのよさを生かし合ったりする場面が増えている。	・地域の一員として地域の方々の願いを知り、主体的にその実現に向けて取り組む学習活動を今後も展開していく。
*子供にとって	・地域の方とふれあいながら学ぶことによって、地域の方々への尊敬と感謝の気持ちが高まるとともに、地域社会に参画しようとする意識も高まった。	・学社融合の取組を通して、地域への思いを深めるとともに地域の一員としての意識を高め、近野のよさをさらに見出してほしいと願っている。
地域（公民館・保護者）	・地域の教育力を生かす取組により、子供たちへの教育的効果が上がっただけでなく、それらが世代を超えた心の交流、ひいては地域の活性化にもつながっていると感じられる。	・本地域においても人口減少や高齢化の状況がみられる。今後とも学社融合の取組が継続、発展していけるよう、今あるつながりや組織の継承を大切にしたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

【評価】
振り返り時の作文や地域の方へのお礼の手紙をみると、子供たちにとってクラブ活動が、一人では難しかったことも友達と力を合わせたり、地域の方から学んだりすることで楽しく取り組めるということを実感できる機会になっていると感じ取ることができる。
また、地域の方々の温かな人間性にふれる中で、子供同士も互いに思いやりの気持ちをもって接したり、それぞれのよさを生かし合ったりする場面が増えていることを見てとることができる。
これらのことから、地域の豊かな教育力を生かす取組によって、互いに協力し、認め合い、自分のよさや可能性を発揮して、よりよい生活や人間関係を自主的に築こうとする姿勢が育まれていくのではないかと考える。
地域の方からも、「子供たちといっしょに活動するのが楽しみ」「子供と過ごすのが生きがい」「かわいい子供たちから、いつも元気をもらっている」といったお言葉をいただいている。地域の教育力を生かす取組により、子供たちへの教育的効果が上がっただけでなく、それが世代を超えた心の交流、ひいては地域の活性化にもつながっていると実感している。

【次年度に向けての取組の方向】
将来的には、活動を通して身に付けた資質・能力を、地域社会の様々な活動に参画する中で発揮し、一步一步あゆみを進めながら「築きたい人間関係」「つくりたい集団や社会」「なりたい自分」の実現につなげていってほしいと願っている。

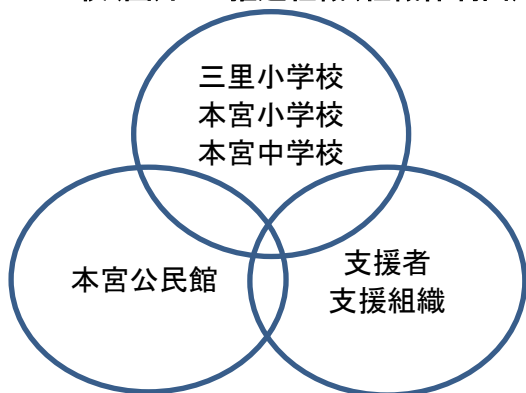
学校・園名	田辺市立鮎川小学校	公民館名	大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、平成27年に三川小学校、平成30年に富里小学校と統合し、大塔地域に1校の小学校となった。旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景から、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、PTA活動や学校行事への参加も積極的である。平成30年度に立ち上げられた「大塔地域学社融合推進協議会」には行事支援部会、学習支援部会、生活支援部会の3つの実働部会があり、小中学校と家庭と地域が連携・協働し「高めよう、ふるさと大塔。みんなの力で！」をテーマに取り組を進めている。			
目 標	○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。 ○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。 ○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。 ○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。		
	校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 ○大塔公民館、各分館 ○田辺市自治会連絡協議会大塔支部 ○大塔女性会 ○大塔老人クラブ ○社会教育委員会 ○子供クラブ ○放課後ふれあいスクール ○民生児童委員 ○田辺市保護司会大塔支部 ○社会福祉協議会 ○田辺市消防署大塔分署 ○青少年健全育成市民会議 大塔地区協議会
取組(活動内容・ねらい・日時等) ◎年間3回「大塔地域学社融合推進協議会」を開催《5月、8月、3月》 ○年間5回「大塔地域学社融合推進協議会執行部会」を開催《4月、6月、10月、12月、2月》 【行事支援部会】 ①選択交流学習《6/12 10/9》⇒小学5年生～中学1年生が対象の「選択交流学習」でGTとして、地域人材の活用。 全7講座（大塔探訪、音楽、木工、茶道、おもしろ科学、グラウンドゴルフ、生け花） ②大塔リフレッシュ大作戦《11/6》⇒小中学校、地域が連携しての清掃作業。 ③地域イベントでの子供たちの活躍の場づくり⇒大塔地球元気村への参画。 ふれあいスクール等でのボランティア活動。 ④運動会、体育祭で実施する大塔音頭の振り付けを地域の方より教師が指導を受け、児童へ伝達講習。 ⑤地域の方々に学校行事（運動会、学習発表会、公開授業等）への参加を啓発。 【生活支援部会】 ①登下校の見守り⇒登校指導は宇立地区での取組が下附地区へも広がっている。 緊急時はメールで情報を共有し、下校指導。 車のマナーについて保護者に啓発活動。 ②学校や施設的环境整備⇒小中学校玄関及び体育館付近の樹木の剪定や側溝の清掃等。 ③通学路の危険箇所点検⇒小中学生の通学路の危険箇所を点検する。要改善点については行政にも要望。 ④防災教育の充実⇒防災出前授業で災害発生時等を想定した学習（田辺市消防署大塔分署、大塔行政局と連携） 【学習支援部会】 ①学校図書館の運営⇒図書ボランティア（トライアングル+）を組織し、活動推進。 読み聞かせサークル活動。 ②学校の要望に応じた地域の人材や教育資源の紹介、授業への協力、参観等。 ◇イモや野菜の育成 ◇防災学習 ◇昔の遊び ◇ミシンサポーター ◇焼き芋大会			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間の縦のつながりを考えながら中学校と連携することができた。選択交流学習・リフレッシュ大作戦では、中学生をリーダーと意識して活動し、小・中学校、大塔CS、地域と連携して取り組むことができた。また、消防署と連携した防災訓練の実施により、災害時の対応について体験的に学ぶ機会を設けられた。 ・大塔地球元気村では「緑の少年団」活動やリフレッシュ大作戦の様子を児童会役員が代表して発表し地域の一員としての役割を担えた。 ・図書ボランティアさんのサポートにより、図書の整理が進んだ。また、大塔CSを中心とした登校見守り活動により、児童の安全が確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学習では、児童生徒の減少に伴う講座数の検討が必要である。 ・リフレッシュ大作戦では、児童生徒の減少による清掃地域の検討が必要である。 ・ふるさと大塔を誇りに思っている児童は多いが、地域の担い手を育てるために、改めてふるさとを見つめ直し、考える「ふるさと学習」等の取組も必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習は、地域の文化や伝統を体験する貴重な機会となっている。地域への関心や地域をよりよくしようという思いが高まり、ふるさとの良さを守り続けたいという思いを育むことができた。 ・地域の方々の苦労や自分たちへの期待、願いについて知ることができ、地域の担い手としての自覚が芽生えた。 ・大塔に住む子供としての自覚を持ち、役割を担うことができた。また、それにより、充実感や達成感を味わえる児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を離れても、地域の行事に参加したり、自分たちから何か地域に発言したり、積極的に地域に参画していける児童の育成が課題である。また地域の担い手としての自覚を持った児童が、将来も大塔で暮らしたいと願ったとき、それが実現できる条件が整備されていることが望まれる。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流が深まっている。 ・地域の歴史、伝統文化や偉人の生き方などを学ぶことで、ふるさとへの愛着が湧き関心を持つようになってきている。 ・地域に知り合いの大人が増えてきて、日常的な交流にもつながってきている。 ・今年度からふれあいスクールにボランティアとして参加している中学校の生徒と交流し、先輩から多くのことを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の方とのつながりを大切にし、ふるさとを大切にすることを育んでいってほしい。 ・今回、授業で学習した内容以外の地域資源にも興味を持ち、広く目を向けていってほしい。 ・大塔地域における小学校は鮎川小学校だけとなったが、三川や富里にも興味や関心を持ってもらいたい。
地域・保護者（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へ顔を出す機会が増えていることから、子供たちとの距離も近くなっている。 ・授業への協力を通して、住民自身も地域の新たな魅力に気付いたり、地域について学び直す良い機会となっている。 ・ふれあいスクールをはじめとする様々な活動を通じて、子供たちだけではなく地域住民同士の交流もあり、相互の安心や信頼が培われている。 ・学校図書館におけるボランティア活動の推進によって、地域住民が中心となり、子供たちが安心してできる校内の居場所づくりを進めている。 ・昨年度から有志の児童がおおとう生涯学習フェスタの舞台発表会に参加しており、地域住民が子供たちの成長を感じることでできる良い機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も活動を継続していくための人材（協力者）の確保、育成が課題である。 ・地域行事等を通して、子供たちが地域の方と学んだ学習内容を広報していきたい。 ・鮎川小学校と富里小学校の統合により、鮎川小学校の校区が大塔地域全域となったので、学校と連携し、三川地区や富里地区にも目を向け、両地区との交流を深めていきたい。

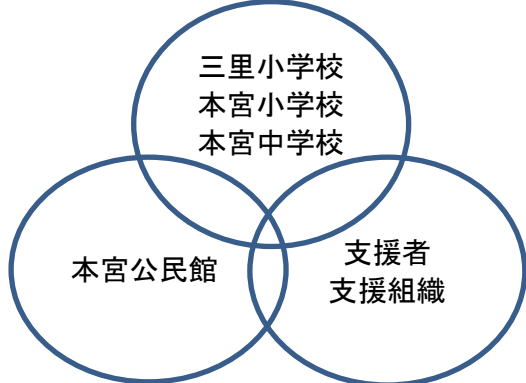
評価及び次年度に向けての取組の方向



〔評価〕
 ○それぞれの活動において、これまでの学社融合の取組の良さを引き継ぎつつ、改善に努めた。
 ○選択交流学習では、地域の方を指導者として、年間2回（6・10月）実施することができ、自己評価、地域の方からの評価ともに高まった。
 ○リフレッシュ大作戦は、これからもふるさとの良さを守り続けたいという思いを持って実施することができた。このような取組により、地域の方々にも、小中学生の様子を知ってもらうまたない機会となった。
 ○地域イベント「大塔地球元気村」では、小学6年生が「川と自然について考えるフォーラム」に参加し、本校の取組（緑の少年団活動やリフレッシュ大作戦等）について意見発表を行った。今回、参観者からの反応や評価、激励により、改めて環境美化活動に関わることのやりがいを実感することができた。
 ○防災学習では、『防災の手引き』、ふれあいスクール、防災出前授業等で災害発生時の対応、防災行動力について学び、小学生として何をすることが大切かを考えることができた。

〔来年度に向けて〕
 ◇大塔地域学社融合推進協議会の取組を引き続き進めながら、日常の学校生活、教科学習、図書館運営等への地域人材の活用、小中一貫した9年間のカリキュラムづくりに取り組む等、学校課題の解決に生かせるよう研究していきたい。

学校・園名	田辺市立三里小学校	公民館名	本宮公民館
学社融合における学校・地域の様子 共育コミュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着していた。平成23年から「音無の里共育コミュニティ事業」として地域を活かした「学社融合」の取組を行っており、現在も継続している。			
目 標	平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足したことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き継いでいく。 また、本宮独自で取り組んできた学校支援本部事業の郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの取組を再度見つめなおし、新たに選任された協議会の委員さんからの意見をいただきながら磨きをかけていく。		
校(園)区の推進組織(組織体制図) 		支援者及び支援組織 育友会 熊野本宮語り部の会 本宮プロバスクラブ 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 本宮町林業研究グループ	
取組(活動内容・ねらい・日時等) 昨年度から本宮地域学社融合推進協議会が発足したことから、これまでの取組や今後の方針についてコミュニティ通信創刊号を編集し町内に全戸配布を行った。 また、積極的な学校開放を広く発信し通常の授業参観、外部支援の立った活動を公開することにより子供たちの姿を見守る活動を推進することにした。そのため、11月の学校開放月間に併せて各学校の行事予定を協議会役員に送付するなどして、開かれた学校と地域の連携づくりを図るべく活動を行った。			
熊野古道道普請 世界遺産熊野古道の景観保全を図るべく、本宮中学校、熊野本宮語り部の会、世界遺産センター、本宮プロバスクラブ、田辺市が協力して実施。毎年12月の恒例行事として実施している。			
熊野古道ジュニア語り部 世界遺産熊野古道を三里小学校と本宮小学校の児童が熊野本宮語り部の会の協力を得て地元の名所を学習し、語り部として各名所の説明をはじめ、歩行の安全を確認しながら古道を紹介。本宮中学校は、小学校の語り部ルートの英語版を習得し引き継いでいる。町外からの学校交流の場で年数回活動しており、6月には、毎年恒例になった「南山大学附属小学校との交流」でも小学生が語り部として活躍している。			
郷土芸能伝承 伝統芸能を継承するため小学生を対象とした教室を毎週土曜日に開催。令和元年度は8月13日に開催された「新成人を祝う会」において先輩方に「平治川の長刀踊り」を披露。			

	成 果	課 題
学校・園	<花のプレゼント大作戦(地域の老人会との花植え)> ・地域の老人会の方々と交流することで、地域の方が学校を思う気持ちを感じ取ることができた。 ・校舎移転に伴い、これから見守っていただく九鬼地区(学校近辺の地区)の方々と今年学習でお世話になった地域の方々に、花のプレゼントをして、感謝の思いを伝えることができた。 ・この活動を通して、ふるさとに親しみを持ち、豊かな心情を育む機会となった。	・本宮町社会福祉協議会の協力により、プランターや花の苗等の準備をしていただいた。また子供たちは、花の植え方をNPO法人の花つぼみ会:古守理事長に教えていただきながら行うことで、スムーズに取り組むことができた。昨年度と今年度は、地域にプレゼントをする活動を行ったが、できあがった多くのプランターの花の活用方法について子供たちの主体的な意見を取り入れながら考えていきたい。 ・コミュニケーション能力を高めて、地域の方との関わりをさらに深めていきたい。
* 子供にとって	<読み聞かせ会> ・読書は、次の5つの取組を大切に指導している。①朝の読書活動②各教科での指導③各学級での読書奨励④読書好きが増える図書室の運営⑤読み聞かせ会。中でも読み聞かせ会は、地域の読み聞かせグループ『繚るル読み聞かせ隊』が、低・中・高学年の発達段階に合わせた内容で実施してくれ、地域の方とのつながりの中で、本に親しみ本に興味関心をもつ子供が増えた。市の移動図書(やまびこ号)来校時には、ほぼ全員が本を借りる様子が見られた。また、昼休みに図書委員会が、他の子どもたちに読み聞かせを行うようになるなど、読み聞かせは子どもたち自身の活動となった。	・読み聞かせによって本に親しむきっかけとなり、家庭での読書活動が深まるよう、さらに学校からの手立てを講じていきたい。 ・読み聞かせが、自分たちの音読活動の向上に生かせる授業づくりを考えていきたい。 ・図書委員会が、委員会活動として昼休みに行っている読み聞かせを、今後も継続できるよう取り組んでいきたい。 ・本宮教育事務所の『こだま文庫』と連携して、発達段階や教科の学習に合わせた本の充実に努めたい。
* 子供にとって	<熊野古道ジュニア語り部> ・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の基礎知識について、「世界遺産熊野本宮館」の指導員の方に学び、自分たちの住んでいる地域が、世界に誇れる「文化的景観」である自覚を持つことができた。 ・現地学習や自主教材を使って学習を進め、語り部活動に携わることができた。 ・本宮町の文化的景観を守っている人々の苦労や工夫を知ることができた。 ・南山大学附属小学校の子供たちに、語り部活動を行い、互いに交流することができた。	・内容を精査したり、発表力や表現力を向上させていきたい。 ・王子跡や古道についての説明だけでなく、相手に配慮(挨拶や表現、山道での注意等)に至るまでしたガイドができるよう語り部としての質を高めていきたい。 ・熊野の地に魅力を感じて訪れる外国の方々との交流ができる取組を行い、互いの文化を学ぶ機会を持つことができたが、早い時期から計画的に取り組む必要がある。 ・ジュニアガイドとして、子供の視点から見た文化的景観を、本宮町に来てくれた人々に伝えることができるように学習する。
地域(公民館)保護者	<三里運動会> ・地域や保育園と実行委員会を組織した。種目や内容、準備や当日の役割等について打合せを行った。移転した場所で行う初めての運動会を、保護者や地域の多くの方々の協力により進めることができた。また、みんなで運動会を成功させようとする『地域と共につくる心あたたまる運動会』を開催することができた。子供たちも、この場所での最初の運動会を成功させようとして一生懸命頑張る姿が見られた。この思い出は、子供たちの次へのエネルギーとなるものと考えている。	・来年度も今までのような種目や内容で取り組むのであれば、1学期から計画的に練習を行う必要があるものもある。 ・円滑な運営を目指す上で、職員数が少ないことは大きな課題となる。 ・公民館が取りまとめる種目においては、参加者数の関係から実施の検討を要する。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・三里小学校での学社融合の取組は多岐にわたっているため、毎回、紹介はその一部になっている。来年度も、学校行事の精選に加え新しい教科が増えるため、本校の教育課程を十分練り直し、子供たちにとってよりよい学社融合の取組をめざしていきたい。また、地域を活性化するための力にもなるよう育友会活動や公民館活動の充実を図るよう連携を深めていきたい。		
<花のプレゼント大作戦(地域の老人会との花植え)> 		<読み聞かせ会> 
<熊野古道ジュニア語り部> 		<三里運動会> 

学校・園名	田辺市立本宮小学校	公民館名	本宮公民館
学社融合における学校・地域の様子 共育コミュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着していた。平成23年から「音無の里共育コミュニティ事業」として地域をいかした「学社融合」の取組を行っており、現在も継続している。			
目 標	学校・園・地域 平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足したことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き継いでいく。 また、本宮独自で取り組んできた学校支援本部事業の郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの取組を再度見つめなおし、新たに選任された協議会の委員さんからの意見をいただきながら磨きをかけていく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 育友会 熊野本宮語り部の会 本宮プロバスクラブ 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 本宮町林業研究グループ 学校ボランティア	
取組(活動内容・ねらい・日時等) 昨年度から本宮地域学社融合推進協議会が発足したことから、これまでの取組や今後の方針についてコミュニティー通信創刊号を編集し町内に全戸配布を行った。 また、積極的な学校開放を広く発信し通常の授業参観、外部支援の入った活動を公開することにより子供たちの姿を見守る活動を推進することにした。そのため、11月の学校開放月間に併せて各学校の行事予定を協議会役員に送付するなどして、開かれた学校と地域の連携づくりを図るべく活動を行った。			
熊野古道道普請 世界遺産熊野古道の景観保全を図るべく、本宮中学校、熊野本宮語り部の会、世界遺産センター、本宮プロバスクラブ、田辺市が協力して実施。毎年12月の恒例行事として実施している。			
熊野古道ジュニア語り部 三里小学校と本宮小学校の児童が熊野本宮語り部の会の協力を得て世界遺産熊野古道の地元の名所を学習し、ジュニア語り部として各名所の説明をはじめ、歩行の安全を確認しながら古道を紹介した。本宮中学校は、小学校の語り部ルートの英語版を習得し引き継いでいる。町外からの学校交流の場で、年に数回活動している。			
郷土芸能伝承 伝統芸能を継承するため小学生を対象とした教室を毎週土曜日に開催した。令和元年度は8月13日に開催された「新成人を祝う会」において先輩方に「平治川の長刀踊り」を披露、また3月29日に開催予定の「熊野本宮伝統芸能祭」においても披露を予定している。			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 歴史や文化、自然豊かな本宮町について各学年の活動を通して理解を深め、地域に対してどのように貢献できるのかを発達段階に応じて考えさせることができた。 保護者、地域の方々で専門性をもった学習パートナーに学習に参画していただいたことで、学習効率が上がり、興味・関心を持ちながら、主体的な学びにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業でのよりよい支援のために、学習パートナーと授業内容、方法、時間設定について細かく打ち合わせる必要があり、時間を要する。 本校の特色をさらに生かすために学社融合推進協議会の協力を得ながら、新たな人的資源を発掘する必要がある。 学習パートナーの高齢化により新たな人材確保が必要となってきている。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 熊野本宮伝統芸能子供教室の先生方に大瀬の太鼓踊りを習い、運動会で披露し、伝統芸能に興味を持つことができた。 関係機関の協力のもと、紙すき体験や工場、牧場見学をさせてもらい、本宮町の産業について理解し、意欲的に学ぶことができた。 地域や一般の方々を対象にして古道ジュニア語り部活動を行うことができた。熊野古道のすばらしさを紹介しようとたいへん意欲的に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに、地域の文化的・歴史的資源や人的資源を発掘、活用して、郷土愛や郷土に誇りをもち、郷土に貢献する人材の育成を目指す。 どんな場においても、自分の考えや思いを生き生きと表現できるよう機会を増やしながら、表現力を伸ばしていく。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々との交流する機会を多く取り入れることで、コミュニケーション能力を高め、人との接し方が身についた。 地域の方々を支えられていることを実感し、感謝の気持ちをもつことができた。 地域の方々から学校に来ていただけることで今まで以上に挨拶を進んでするようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事や活動にも意欲的に参加することで、それぞれの地域の一員として活動するよう期待している。
地域・保護者（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に参画することで、学校が身近な存在に感じられるようになってきた。 学校の教育活動に参画することでサークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場となり、指導する喜びや生きがいを感じられる機会の一つとなった。 子供たちと接することにより、子供たちから元気をもらい、子供たちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていく。 学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 評価 <ul style="list-style-type: none"> 学校、保護者、地域が学校教育目標のもと、一体となって子供を育てていこうという意識が高まってきている。 運動会で披露した「大瀬の太鼓踊り」では、子供たちが一生懸命踊っている姿を見て、指導していただいた方々はもとより地域の方々にも、とてもすばらしかったと喜んでいただけた。 学校開放月間の一環である日曜参観（授業、クラブ、読み聞かせ）では、地域の方々から学校教育に参画していただいている活動を保護者にも参観・参加してもらい、学校の取組を知っていただく良い機会となった。 子供たちは、たくさんの地域の方々に関わることで、学びの楽しさや地域の方々の優しさに触れることができた。 お世話になった学習パートナーの方々を招待した焼き芋パーティーは、学習パートナーの方々から大変喜んでいただくことができ、学校教育活動への参画意欲にもつながった。 次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> 学社融合推進協議会とともに学校教育の充実に向けて、学校運営に参画できるような環境を整えていく。 今年度の学社融合に関する取組について、検証し修正を重ね、子供たちの深い学びにつなげていく。 		
		 
		大瀬の太鼓踊 ジュニア語り

学校・園名	田辺市立東陽中学校	公民館名	東部・中部・南部・ひがし公民館
学社融合における学校・地域の様子 公民館施設を併設した中学校として、公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組を実施している。「東融会」（東部・中部・南部・ひがしの各公民館主事と連携を図り、東陽中学校区の学社融合を推進するための会）を通じて管内公民館と情報を交換し、共有している。地域の方々も公民館の働きかけに協力的で、東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集し、学校の教育活動に協力をいただく等、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができている。防災学習や避難訓練なども地域の方々と一緒に進んでいった。公民館の掲示板にはそうした学社融合行事の様子や教科の作品等を掲示し、公民館を訪れる地域の方々に広く紹介している。また、地域にある田辺第一、田辺第二、田辺東部各小学校との連携を深めた学社融合の取組も推進してきた。学社融合推進協議会では、今までの取組を引き継ぎながら現在の東陽の地域の実情に合った取組の方向を探りながら議論を進めている。			
目 標	学校・園・地域 ・公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援サポーター等を活用した学社融合の取組を推進する。 ・校区の小学校と連携を深め、児童と生徒が交流できる企画を進める。 ・学校と地域が、共に取り組み、学び合う機会を増やし、「社会に開かれた教育課程」を推進する。 ・幅広く地域の方に呼びかけ、学社融合活動に携わっていただく。 ・生徒たちと共に、当地域の課題である「防災」について学んだり、活動したりする機会を持つ。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 ○人材バンク（学校支援サポーター） ・図書・バラ園整備 ・調理実習 ・各種授業講師	
取組（活動内容・ねらい・日時等） 【バラ園整備ボランティア活動】 昨年より全校生徒からボランティアを募って春のバラ園整備作業を5月、1月の2回、地域の方に教えていただきながらバラ園の草引きや剪定作業をした。 【バラと音楽にあふれるひととき】 笙奏者の塚田由里子さんをお迎えして公民館で演奏会を行った。合唱部も参加し共演するなど、美しい歌声を響かせた。「笙」という楽器の歴史や演奏の仕方などわかりやすく説明しながら演奏していただき、約200人の参加者が魅了されました。昨年以上の観客で会場が溢れ、大変喜んでいただいた。 【調理実習】 今年も湊浦漁協女性部の方々に教えていただきながら、2年生が「東陽バーガー」作りに挑戦した。鱈を3枚におろす捌き方や、地産地消を意識したレシピなど、生徒にも大変好評であった。 【小中連携】 合唱部と吹奏楽部が第二小学校の音楽会で演奏をしました。小中の交流を図っている。 【防災学習】 今年度は、東日本大震災語り部災害プロジェクトより南相馬市の語り部「安部あきこ氏」に来ていただき、東日本大震災の被災経験から生徒と地域の方々が共に防災について考える良い機会となった。今後も地域の方々と防災学習を進めていきたい。			

	成 果	課 題
学校・園	昨年度に引き続き、発展させる形で様々な取組を行うことができた。また、生徒たちの中に自発的なボランティアに対する意識が芽生えてきており、昨年より多くの生徒がボランティアとして活動してくれたのは、今年度の大きな成果であると考えている。	今後も生徒からの積極的なボランティア活動への取組を、日常的な状態として定着させることと、地域と一体となった防災学習についても、今後も継続的に取り組んでいきたい。
*子供にとって	学社融合の推進で、よりよい環境の中、力をつけることができているように感じている。このような経験は、「自分も地域のために役立っている」という有用感につながられており、今後生きていくだろうと考えている。	地域と関わる取組が、日常的なものであるような状態を生徒の中に醸成することができつつあり、今後もさらに学社融合を推進していくよう学校が環境を整えていくよう努めなくてはならない。
*子供にとって	地域の方々との交流は、生徒たちにとって大変よい経験となっている。	今後は、生徒の主体性を高めるために、どのように中学生が地域の取組に参画し、中心的な役割として地域から頼られるよう関わっていくかが課題である。
地域（保護者・公民館）	各種事業を通じて、地域の方々や生徒による世代を越えた交流ができている。昨年度から実施している防災学習では、生徒と地域の方々、一つの課題について共に考えることで、相互の意見の違いも知り、お互いに考えを深め合うことができた。	防災学習については、単年度の授業で終わりではなく、当地域における防災力の向上につながる第一歩として捉え、今後も継続していかなければならない。
評価及び次年度に向けての取組の方向 昨年度より始まった学社融合推進協議会の、研究の成果や積み上げを生かしつつ、今後の継続的、また、積極的な取組の方向性を示す一年となったと思う。 地域の方々による学校への支援は手厚く、学校に対する期待も高い。ゲストティーチャーや各種機関、地域の方々から有形無形に受けている支援は、生徒にとって大きな教育力となっている。また、生徒が地域に出る活動（音楽演奏、ソーラン披露、公民館行事への手伝い等々）が、地域に好評をもって迎え入れられている。 こうした良好な地域との関係を保ちつつ、さらに一歩進んだ融合の形を探るために、昨年度より、いくつかの取組で生徒からのボランティアを募る、という形をとってきた。幸いなことに、そうしたボランティアの応募に応えてくれる生徒も増えてきており、今年度は様々な取組において盛会に行うことができた。だんだんと生徒の意識が高まってきており、さらに全校的なものになっていくような取り組み方をしていかななくてはならない。 今後は、生徒が地域に貢献し、信頼され、地域と共に高め合う、ということが、特に構えずとも日常的にできるよう、取組を進めていきたいと考えている。		

学社融合推進協議会活動報告

協議会名：明洋中学校学社融合推進協議会

学校・園名		田辺市立明洋中学校	公民館名	中部・西部・芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>◎本校での学社融合の取組は、公民館主事と学社融合推進教員で組織する明融会を中心に進めており、大きく分けて2パターンある。1つは、学校に講師等を招いて行う授業や活動、もう1つは、地域に本校の生徒が出向いて行う活動である。</p> <p>1) 地域から講師を招いて授業や活動(生け花教室・郷土料理授業・浴衣着付け教室・茶道教室・紀州てまりなど)。ここ数年は夏休み中に地域の方々の協力のもと補習授業なども行っている。</p> <p>2) 地域に出向いての活動(吹奏楽部の芳養潮騒祭り演奏会(4月)こいのぼりの会演奏会(5月)保育所演奏会(8月)天神児童館祭り演奏会(11月)定期演奏会[プロムナードコンサート](11月)など)。他にも、天神児童館が主催する道普請に、野球部・剣道部・体操部が参加したり、花植えボランティアにテニス部・吹奏楽部が参加したりと、地域の行事にクラブ単位で積極的に参加している。今年度は、今までの取組に加え芳養小学校の参観授業に合わせて吹奏楽部が演奏会を行ったり、体操部が演技会を行ったりと積極的に地域とのかかわりを持った。また、授業に関しても1年生は地域での保育実習、2年生では、地域の事業所での職場体験など、様々な機会をとらえ地域に出向いての取組を行っている。</p>				
目	学校	<p>◎地域の方々との交流を深めることにより、自分たちも地域の一員であることを自覚し、故郷を愛する気持ちを育成する。</p> <p>◎地域での活動を通して、多くの方々に関わることによりコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>◎地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる。</p>		
	地域	<p>◎地域住民との関わりを通して、子供たちのコミュニケーション能力の向上と、伝統文化や技術の習得を図る。</p> <p>◎学校授業への適切な地域人材の提供により、子供たちの愛郷心を育みながら、健全な育成を目指す。</p> <p>◎子供たちとの関わりの中で、地域住民に学校の取組を知ってもらい、子供たちに対する意識のさらなる向上を目指す。</p>		
校(園)区の推進組織(組織体制図)		支援者及び支援組織		
		<p>芳養地域人材バンク登録者及び各地域の方々・公民館</p>		
取組(活動内容・ねらい・日時等)				
<p>明融会(学社融合推進教員と公民館主事の会議)</p> <p>第一回 4月15日(月)内容:本年度のテーマ・今後の予定について</p> <p>第二回 6月26日(水)内容:学校訪問について・今後の予定について</p> <p>第三回 10月11日(金)内容:生涯学習フェスティバル・今後の予定について</p> <p>第四回 12月 内容:学校・各公民館の取組と今後の予定について</p> <p>第五回 3月 内容:本年度の取組の総括と反省</p>				
地域から学校へ				
<p>◎鯨の三枚おろし(芳養公民館) 芳養婦人会の6名にご協力いただき、鯨の三枚おろしの授業を行った。安全面でも大変助かっている。</p> <p>◎紀州てまり(中部公民館) 紀州てまりの会のご協力のもと、家庭科クラブが紀州てまりを作成し、展示会に出品(9月)</p> <p>◎茶道教室(西部公民館) 月に一度程度、家庭科クラブが茶道のマナー等を教えてもらった。今年度は、マレーシア旅行団との交流の中で4名の方に来ていただき、日本の茶道や和菓子体験の中で協力を頂いた。</p> <p>◎生け花教室(中部公民館) 家庭科クラブが、講師先生の指導を受け生け花を生けた。その生け花を文化発表会で展示した。</p> <p>◎道普請(西部公民館) 12月14日(土)野球部・体操部・剣道部 参加予定</p>				
学校から地域へ				
<p>◎プロムナードコンサート 吹奏楽部が定期演奏会を開き、700名以上の方に来場していただいた。多くの地域の方々が聴いてくれ好評を得た。</p> <p>◎保育所との交流 家庭科の授業で1年生が、地域の保育所に行き、園児たちと交流を図った。お兄さん・お姉さんたちとの交流を園児たちは喜んでた。</p> <p>◎地域の作品展 美術作品や手芸作品を、公民館主催の作品展に出品した。</p> <p>◎職場体験 2年生(96名)が3日間、地域の事業所(40か所)に2、3人ずつに分かれ、職場体験を行った。大変充実した取組になった。</p>				



	成 果	課 題
学校・園	<p>◎吹奏楽部の定期コンサート(プロムナードコンサート)は、22回目を迎えた。今年度は、第55回和歌山県吹奏楽コンクールにて大編成の部で創部初の金賞ゴールド・県知事賞を獲得し、関西吹奏楽コンクールに県代表として出場した。惜しくも金賞は逃したが大変高い評価をいただき、第25回日本管楽合奏コンテスト中学校A部門においても優秀賞を受賞した。また、今年度平成17年東日本大震災や紀伊半島大水害、平成16年熊本地震の被災地の復興のため寄付や地域のイベントや保育所等での演奏会を行ってきたことを評価され、ウィーン・フィル&サントリイ音楽復興記念賞を頂いた。</p> <p>◎鯨の三枚おろしの学習では、地域の方々各班に分かれて指導してくれた。安全かつ効果的に学習が行えた。</p> <p>◎地域の保育所や幼稚園、小学校との交流は、生徒たちに「お兄さん・お姉さん」という自覚を持たせることが出来、生徒たちにとって良い経験になった。</p>	<p>◎吹奏楽部の定期コンサートは、学校にとっても地域にとっても今や一大イベントになっている。このコンサートを企画運営するのは吹奏楽部の顧問が一手に担っている現状がある。このコンサートを継続していくには、学校・地域あげてのバックアップ体制が必要であると感ずる。</p> <p>◎本校は3つの小学校から進学してくる。また、校区には3つの公民館がある。9年間の視点を持って推進する場合、3つの小学校・公民館と、どのように連携し取り組むかが学社融合を推進する上で課題である。</p> <p>◎家庭学習の定着や学力の向上を図っていくために、家庭との連携、地域との連携が必要になる。学校として地域の教育力を向上させるためにどのような取組が必要か検討しなければいけない。</p>
*子供にとって	<p>◎地域の保育所や幼稚園、小学校との交流は、生徒たちに「お兄さん・お姉さん」という自覚を持たせることが出来、生徒たちにとって良い経験になった。</p> <p>◎地域の様々な年齢・立場の方々との交流することでコミュニケーション力の育成につながっている。</p> <p>◎自分たちの日頃の取組を、地域の方々に見てもらい評価してもらうことで自尊心が高くなっている。</p> <p>◎地域行事に参加することで、自分たちも地域の一員であるという自覚が芽生えてきている。</p>	<p>◎クラブ活動等での交流はたくさんできているが、通常の授業での交流があまりできていない。通常の授業は平日になるため、地域の方々との交流が難しい面もある。</p> <p>◎地域行事などに参加するクラブが限定されてしまう傾向があるので、できるだけ多くの生徒に、機会を与え、地域に貢献できることは何かないかを自ら考えさせたい。</p>
*子供にとって	<p>◎地域の方々から、様々な専門的な技術を学ぶ機会を得ることができた。</p> <p>◎地域の方々に来てもらうだけでなく、生徒自身が地域へ出向くことで、自分たちも地域の一員である自覚ができ、地域を大切にすることが芽生えてきている。</p>	<p>◎生徒が地域の方々から習得した知識や技術を日常生活に生かしていけるような取組を進めていきたい。</p> <p>◎学社融合の取組で芽生えてきている、自分が住んでいる地域に対する愛着や誇りを、大人になって持ち続けることができるか。また、今後、一人一人の生徒が具体的な行動として表していけるかが課題である。</p>
地域(公民館)・保護者	<p>◎地域からの講師と生徒との交流を通して、地域に伝わる伝統文化に親しむ機会を作ることや技術を伝えることが出来たことにより生徒たちの成長につながった。</p> <p>◎地元の郷土料理を子供たちと地域住民が一緒に作る中で子供たちに地域に関心を持たせることが出来た。</p> <p>◎地域行事の実施の際に生徒が参加してくれることにより、保護者以外の方々も地域の子供たちの成長を知ることができ、また地域の活性化につながった。</p>	<p>◎今後も取組を継続しながら内容の更なる充実を図ること。また、専門的な技術を伝えられる人材の確保に努め、生徒たちとの交流を続けていくこと。</p> <p>◎既存の事業の充実を図りつつ、今後も地域と子供たちの関係をより深く繋いでいかなければならない。</p> <p>◎現在の体制を維持しつつ、より一層地域と学校の繋がりを深めていきたい。</p>

評価及び次年度に向けての取組の方向

◎本年度の取組
本年度も、郷土料理授業や浴衣着付け教室、紀州手まり教室、生け花教室、茶道教室を行った。地域の婦人会などから多くの地域の方々が講師として学校に来ていただき、充実した取組ができた。本年度は、昨年度、耐震工事で行えなかった天神児童館祭りに作品展示を行ったり、プラスバンド部による演奏会も行い大変喜んでいただいた。また、生涯学習フェスティバルで展示する学校紹介パネルも天神児童館の職員と協力して作成し、その作品を正面玄関に展示させていただいた。

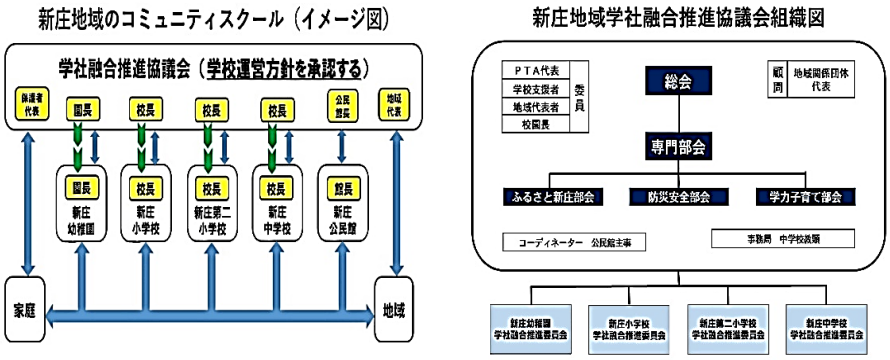



本年度、文部科学省から委託された事業の人権教育推進地域事業の取組の中で、3つの公民館と連携する機会が多く、今年度は明洋中学校校区の芳養小学校や田辺第三小学校の先生方を対象とした地域を知る取組の一環で、天神児童館と西部センターの協力のもと講演をしていただき、この地域を知るいい機会となった。その他にも、今年度は県観光課からの依頼でマレーシア旅行団との交流を行い、合気道や給食で交流をし、美術の作品作りや日本の文化に触れるということから茶道や和菓子体験をしていただいた。マレーシア側から教師が十数名来校され、日本の教育システムについて非常に興味深く交流をしたり意見交換をしている様子が印象的であった。

◎次年度の取組の方向
来年度は、人権教育推進地域事業の取組の二年目で発表ということもあり、新しい行事や取組を取り入れるのではなく、今まで行っている郷土料理授業や長期休業中の補習授業など、今までの取組を更に充実したものになるよう取り組んでいくと同時に、発表に向けて校区の小学校や地域の公民館とも連携を図り、積極的に地域の行事にも参加し、「地域と共に」を合言葉に取組を進めていきたい。そのために定期的に開いている明融会を大切にきめ細かな情報交換をしていきたい。次年度の特筆的な取組として、南米交流が1月下旬にあり、マレーシア旅行団との交流時とは違い、交流する場面が大変多いので地域の方々にも協力的に取組を進めていきたい。



学校・園名		田辺市立高雄中学校	公民館名	秋津・万呂・稲成・ひがし・中部・南部公民館
学社融合における学校・地域の様子 家庭科、社会科、保健体育科などの授業で、また文化部などの部活動指導、総合的な学習における進路学習など、さまざまな形でゲストティーチャーを快く引き受けていただいている。さらに吹奏楽部が地域のイベントに積極的にかかわったり、1年生の校外学習、2年生の職場体験、3年生の保育実習では地域におもむき学習させていただいている。				
目 標	学校・園・地域	授業や部活動での地域の方とのふれあいを通じて、地域を今まで以上に深く知り専門性の高い内容に興味関心を抱くことで学習意欲を高め、自分が生まれ育った地域に誇りと愛着を持たせる。 【高雄中学校学社融合推進協議会】 高雄中学校学社融合推進協議会は、保護者及び地域住民等の（以下「保護者等」という。）の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。		
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 公民館 たなべる 昭和幼稚園 いずみ保育所 初山歯科 切目薬局 湊浦漁協女性部 深見助産所 紀南県税事務所 田辺市消防署 城山台給食センター		
取組(活動内容・ねらい・日時等) 1学期…3年租税教室（紀南県税事務所）、2年職場体験学習（地域の事業所36か所） 全学年性学習（深見助産所助産師） 文化部（トールペイント・ペーパークラフト） 2学期…3年薬物乱用防止講座（切目薬局薬剤師） 3年絵本読み聞かせと保育実習（たなべる・昭和幼稚園・いずみ保育所） 2年鯨のさばき方（お魚ママさん）、2年食育講座（城山台給食センター栄養士） 1年防煙教室（初山歯科）、生産学級ブックトーク（たなべる）、全学年避難訓練 吹奏楽部コンサート（Aコープ前にて・稲成ふれあい・会津さわやか）				
【学社融合推進協議会】 * 5/24（金） 第1回協議会 ・委嘱状交付 ・本協議会の趣旨説明 ・長、副決定 ・スクールプラン説明 ・本年度の取組 * 7/4（木） 第2回協議会 ・各委員からの報告と情報共有 ・取組の提案 * 8/22（木） 協議会夏季合同研修会 ・協議会と教職員の研修会 * 9/5（木） 第3回協議会 ・各委員からの報告と情報共有 ・取組の提案 * 9/15（日） 体育大会 ・保護者・地域住民種目、敬老会参加種目への参加 ・プログラム配布等、公民館からの啓発 * 11/7（木） 第4回協議会 ・各委員からの報告と情報共有 ・取組の提案 * 11/14（木） 文化発表会 ・演奏、弁論、合唱、演劇、学習発表等の参観 ・各公民館サークルの作品展示 * 12/9（月） 協議会研修会 ・協議会と教職員で先進校（湯浅中学校）視察 * 1/9（木） 第5回協議会 ・学校評価結果報告 * 2/27（木） 第6回協議会 ・年間の成果と課題の総括 ・本会議のあり方、来年度の方向、組織体制等の協議 * 3/6（金） 第68回卒業証書授与式への出席				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に学校や生徒たちの様子を分かってもらえることができた。 ・地域の方との関わりを深め、学校に期待されていることや果たす役割が明確になってきた。 【推進協議会】 <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の日数を増加したことで、情報共有や学校、地域の課題の共有がしつかりでき、具体的な取組を始められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな分野のゲストティーチャーを継続的に招いて取組を進めること、新たな人材発掘が難しい。 ・さまざまな取組を進めるとき、6つの公民館、地域、幼保と本校の日程調整に苦慮した。 【推進協議会】 <ul style="list-style-type: none"> ・委員全員が参加できる日程調整が難しい。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の高い専門性、深い知識、熱い思いに触れることで、興味関心がわき学習意欲が高まった。 ・図書館ボランティア、元高校教員による放課後学習など新たな取組が生まれ、地域の方々が学校内で活動してくれる姿がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーや地域とのかかわりの中で生まれてきたつながりを、生徒をパイプ役として家庭と地域との更なる連携に高めることはできないかと考えている。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が今の自分に何ができるのかを理解し、少しずつではあるがつながりが生まれ、次代を担い地域を支える人材が育ちつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性を高め、学校の授業としてではなく地域を支える一員、個人としての関わり、参加の形へと高めていきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展示会や公民館活動のボランティアなどの活動を通じ地域と学校の結びつきが深まるきっかけが増えてきた。 【推進協議会】 <ul style="list-style-type: none"> ・5つの公民館長が委員として地域と学校を繋ぐ強力なパイプ役になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに地域とのつながりを深めるため中学生が地域の行事に参加する機会を増やしたり、地域社会の中に参加しやすい居場所を作り受け入れる仕掛けを考えたい。 【推進協議会】 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館主催の地域行事等へ、学校として、またその地域に住む中学生が参加できる機会を増やしたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 《評価》 <ul style="list-style-type: none"> ・今年もさまざまな取組を通して学校の様子や生徒の様子、作品展示を通して日々の学習態度や成果を地域の方に知ってもらうことができた。 ・地域の中の学校であること、学校や中学生が期待されていることを全職員が意識しながら、地域に開かれた誇りある学校づくりを目指し、さまざまな取組を企画立案、実行できた。 ・専門性の高い知識や技術を学べたこと、地域の方とのつながりが生徒の学習意欲を高めた。 《次年度に向けての方向》 <ul style="list-style-type: none"> ・学社融合の必要性、重要性を再確認しながらさまざまな取組を企画立案し、実施する。 ・アンケート評価や、地域や保護者の声を真摯に受け止め、それらを生かしながら今までの取組をさらに進化発展させていきたい。 ・授業や部活動で、新たなゲストティーチャーを招いて高い専門性に触れさせ、生徒の知的好奇心をくすぐることで、自ら学習を深めていく生徒の育成を図りたい。 【推進協議会】 《評価》協議会で出た意見 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に参加、参画することで生徒や学校の様子を詳しく知ることができた。 ・落ち着いた授業や体育大会、文化発表会等の行事への取組が充実している。 ・生徒と先生の信頼関係が築かれていると感じる。 ・少しずつではあるが、具体的な推進協議会の取組が増えてきている。 《次年度に向けての方向》 <ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会としてこれらの活動を支えると共に積極的に学校運営に参画していきたい。 ・推進協議会の活動として持続可能な取組を今後も計画、実践していく。 		

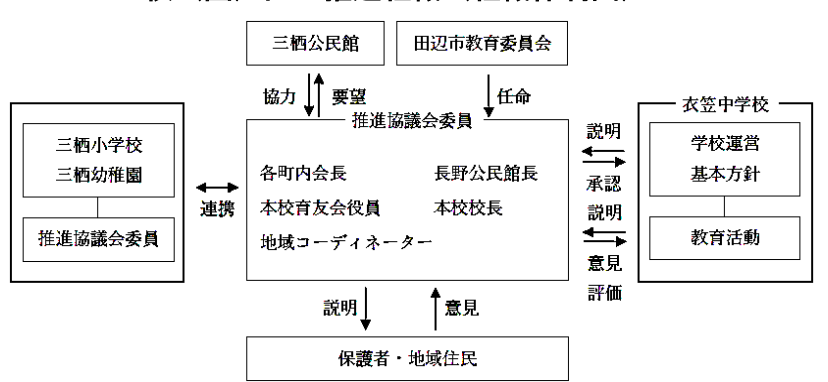
学校・園名	田辺市立新庄中学校	公民館名	新庄公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、昨年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めています。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条(目的) 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p> <p>新庄中学校 ・子どもたちの成長を地域ぐるみで見守り、育てていく。 ・学校を核とした子供の地域参画を進め、未来の町づくりに貢献していく。</p>	
	校(園)区の推進組織(組織体制図)	<p>支援者及び支援組織</p> <p>学社融合推進協議会 ○ 幼稚園・小中学校教育友会 ○ 学校支援者・地域代表者 ○ 地域関係団体 ○ 公民館運営委員会 ○ 新庄地区校区協議会 ○ 新庄共育コミュニティ本部</p> <p>新庄中学校 ・新庄杜氏唄保存会 ・新庄漁業協同組合 ・和歌山県南紀熊野ジオパークガイド田辺ジオパーク研究会</p>	
<p>取組(活動内容・ねらい・日時等)</p> <p>■1年生 ○ 祇園祭りの灯籠を作って出品した。 ○ 地域学習 「杜氏唄班」「地質班」「漁業班」「熊野古道班」の4班に分かれ、フィールドワークを実施し、学んだことを文化祭で発表。</p> <p>■2年生 ○ 職場体験学習 1学期に職場体験学習を通して、地域との関わりを深め、地震学での地域との関わりへとつなげていく。 ○ 防災の演劇 地域から学び、地域に伝えることを実践していくため、地域の方に見に来ていただける文化祭で、防災劇を演じ、地震学へと繋げていく。</p> <p>■3年生 ○ 「新庄地震学」 1・2年生の学習の集大成として、新庄地震学に取り組む。地域から学んだことを、地域の共通の課題として、11月に行われる地震学発表会で地域に伝えている。 ○ 保育実習 新庄幼稚園での保育実習を通して、ふれあいの楽しさや喜びを味わい、幼児理解を深める。</p> <p>■全体 ○ 新庄夏祭りでの、ボランティア活動。 ○ 新庄夏祭りでの、文化部の琴演奏。 ○ 「獅子舞保存会」の文化祭への出演。</p>			
		 	
			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に地域の方に参加してもらうことで、生徒の実態を知っていただけた。 ・知らないことを教えてくれる大人は学校だけでなく、地域にもたくさんいることを生徒に伝えることができた。 ・教員も、地域の方との交流を通して、他業種の方と交流したり、幼稚園、小学校の状況を知ることができ、自身の成長に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な技術、知識を持っている地域の方ともしっかりと繋がり、子供たちに発展的な世界を見せていきたい。 ・関わりを持つことだけに満足するのではなく、継続的に関わりを持ち、よりよい子供の成長につながる工夫などを考えることが必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に、新庄区域のこと、伝統などを教わることで、子供たちの地域に関わる意識が高まった。 ・地域の方に対して日常的に挨拶ができる態度が育っている。 ・生徒から積極的に地域と関わった防災学習ができないか考えられるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校卒業後に、地域との関わりが希薄になってしまうので、将来にわたって地域と関わる気持ち、態度を育てていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学習で生徒自身が地域へ出向くことで、より地域への愛着や誇りを育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で学んだことや経験を今後の人生の中で生かせるよう大切にしてほしい。
地域(保護者)・公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や地域柄などを後世に伝える良い機会となった。また、知識や特技を生かす場となったとともに、世代を超えての交流の場ともなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学習の幅をさらに広げられるよう、人材把握や育成に努めていく。 ・卒業後も地域と関われるような仕掛けに努めていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

<評価>
例年通り、1年生での地域学、2年生での職場体験・演劇、3年生での新庄地震学を系統立てて取り組むことができた。その中で、学年ごとに、「地域を学ぶ」、「地域の人と関わる」、「演劇を通して防災を考える」、「防災を通じて地域と関わる」というように、地域との関わり方を子供たちの発達段階に応じて分かりやすくテーマ分けした。
職場体験学習では、昨年度よりも新庄地域の事業所を増やし、より地域に密着した取組になるよう工夫した。
新庄地震学では、災害発生後の避難所生活に関わる内容で、新庄グルメシティ、田辺駅前、道行く人たちにアンケートを取った。その一環として、避難所の清掃を実施した。

<次年度に向けて>
今年度行ってきた内容は次年度も引き続き取り組んでいきたい。今後も、地域とともに学び、地域とともに学校を作ることを目標に、学校から地域へ、地域から学校へ、互いに学社融合に向けて情報・意見・アイデア等を発信・交換していくことで、今後も学社融合を進めていきたい。
少子化が進む中、学社融合推進協議会を通じて、地域の子供が地域の学校で学びたいと感じるような校種連携を進めていきたい。
複数の校園が合同で学社融合推進協議会を設置する場合、学校運営方針の審議や承認の点で深まりに欠ける傾向がある。今後は部会組織を見直すなどして、協議会のいわゆる「学校経営戦略会議」の機能を強化していきたい。

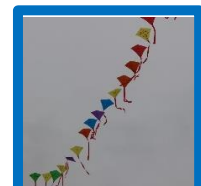
学校・園名	田辺市立衣笠中学校	公民館名	三栖・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校では、1年生で地域の主産業である梅産業の学習、2年生でキャリア教育の一環として進路学習(職場体験)、3年生では家庭科を中心に幼稚園との交流、福祉学習、全学年を通して防災学習に取り組んでいる。これらの活動を円滑に実施するために三栖公民館、幼稚園、小学校などの関係機関やJA紀南三栖支所をはじめとした地域の事業所、地域住民の方々と連携して取り組んできた。			
目 標	学校・園・地域 ・地域の人々や自然との触れ合いを大切に、地域に対する愛着を育む。 ・地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域に参画する態度を育む。 ・地域の多くの方々との交流から、多角的な視点と豊かな人間性を育む。		
校(園)区の推進組織(組織体制図) 		支援者及び支援組織 JA三栖等地域団体 市内企業 保護者 育友会 地域住民 三栖公民館 万呂公民館 長野公民館 田辺市梅振興室 田辺市消防本部 青少年センター	
取組(活動内容・ねらい・日時等) ○梅体験学習(1年) JA紀南三栖支所、田辺市役所梅振興室を中心に、三栖地区の主産業である梅について、地域の梅農家の方々のご協力で梅の収穫から梅天日干し等の一連の仕事と梅を使った調理を体験した。 1学期にJA紀南および市役所の指導で、地元梅産業に関する講座や梅の収穫・選果体験、梅の選果場見学などに取り組んだ。夏休みから2学期にかけては、地元農家に生徒が出向き、天日干しと選別の1日体験や梅がどんな料理や食べ物に合うのかを学習し、調理実習を実施した。 ○職場体験学習(2年) 地域の事業所の協力を得て、職場体験学習を実施した。2年生は、それぞれの事業所で体験活動を実施した。体験を成功させるためにオフィスメイト株式会社の坂本氏を講師に招聘し、職場体験事前学習としてビジネスマナー教室を実施した。 ○幼中連携(3年) ①月見団子作りと出前授業…家庭科で、三栖幼稚園の園児と一緒に月見団子を作って交流した。また、絵本の読み聞かせやパズル遊び、折り紙作りを行い、楽しく交流することができた。 ②合同避難訓練…南海・東南海地震発生を想定し、隣接する三栖幼稚園の園児を本校3年生が誘導し、中学校の3階へ避難する訓練を実施した。 ③文化発表会…三栖幼稚園の園児が本校の文化発表会に参加し、歌とダンスを披露して会場を和ませてくれ、その後中学生の劇や合唱を鑑賞、有志発表を鑑賞した。 ④連風作りと紙飛行機作り…家庭科で、元新庄中学校校長の井ノ瀬敦司氏を講師として招聘し、3年生が三栖幼稚園の園児と一緒に連風や紙飛行機を作って交流した。 ○防災学習 田辺市消防本部の協力で、消火器による消火訓練、てんぷら油の火災実験、防災繊維の実験と着衣の消火実験を全校生徒がローテーションで行った。 1年生で防災の授業(自助・公助について)を実施し、市役所、消防の方にも参観して頂いた。			

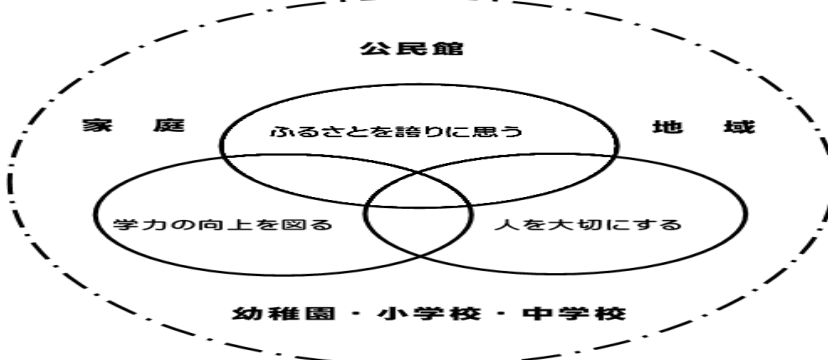


	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 公民館等の関係機関や地域住民の方々と連携し、学校単独では実現が難しい多様な活動を生徒に体験させることができた。 各事業の内容を少しずつ改善していくことで、取組の目的や連携の意義を確認することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園とは教科を通して密接に連携した取組ができているが、小学校との連携については、中学校授業、クラブ体験のみになっているので、今後の連携について学社融合連携会議等で深めていく必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々の方々のふるさとに対する思いや、自分たちの地域を支えている営みに直接ふれることで、自分が暮らす地域の風土や人々への関心が高まるとともに、地域の一員としての自覚が育まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校での取組の場面だけでなく、挨拶をする、回覧板を届ける、祭礼や行事に参加する、清掃活動などに参加するなど、日常生活においても積極的に地域に参画できる生徒を増やしたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 梅学習や職場体験などを通じて地域の年長者から指導を受け、幼中連携では年長者として年少者を守り導くという経験を通して、「地域の担い手として自分たちに何ができるのか」を考えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験や訓練・講話などの活動を通じて育まれた地域の担い手としての気持ちや考えを教科の学習に関連付ける取組や、教科の学習に地域の力を導入する取組も必要だと考える。
地域(公民館)保護者	<ul style="list-style-type: none"> 三栖地区の主産業である梅について知ってもらうことで、地域を深く知るきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 梅体験学習など、地域の方と関わり、地域について知ることができる機会の充実を図る。 活動を通して、地域ぐるみで子供を育成するという意識を高めていく。

評価及び次年度に向けての取組の方向

○評価
 ・本校の主な取組は学年で継続して実施されている。1年生の「梅学習」、2年生の「職場体験」、3年生の「防災学習」と、それぞれ核となる取組がある。また、隣接する幼稚園とは、家庭科や理科を中心とした取組や、避難訓練、不審者対応訓練等、充実した取組が行われている。3年間を通して地域の方々や関係機関と連携しながら生徒の社会性・コミュニケーション能力・人間性を育成し、地域を愛好し、地域の担い手を育てるしくみができている。
 ・「梅体験」や「職場体験」では、生徒が学校から地域に出て、学校とは異なった環境の中で、地域の方々から直接様々なことを学んでいる。教職員や保護者以外の地域の大人から普段の生活では学ぶことができない有意義な内容を、体験を通して学ぶとともに、社会を支える地域の産業や地域の人々の営みにふれる素晴らしい機会となっている。
 ・学年ごとに段階を追った取組が定着していることで、生徒は次の学年でやるべきことを意識し、「来年、幼稚園の子たちを誘導するときにはこのようにしていきたい。」というように見通しと目標意識をもって活動することができている。

○来年度に向けて
 ・核となる取組は継続し、またそれらの中身を見直ししながら、生徒にどのような力をつけさせたいのかを明確にし、公民館と連携し、協力を得られる地域の力を拡充していくなどの視点で内容の改善を図りたい。
 ・体験や講話に加えて、教科の学習の中で地域教材を活用し、地域の方々とともに学ぶ授業のあり方を模索していきたい。



学校・園名	田辺市立上秋津中学校	公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子 平成28年度から30年度までの、幼稚園・小学校・中学校・公民館と連携した「上秋津地域共育コミュニティ本部事業」の取組を継承している。幼稚園から小学校、中学校に至る11年間の教育活動を目標にした、地域とともにある実践活動を目指している。 従来から上秋津では、地域が子供たちを育てる取組が進められており、今回のコミュニティはその活動をさらに発展させるため、幼小中の連携強化に重点を置いたものであった。			
目 標	学校・園・地域 ・農業体験を中心とした活動を行い、ふるさとを大切に育む心をはぐくむ。 ・地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。 ・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育をすすめる。 ・幼・小・中の連携を図る。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 上秋津町内会 上秋津公民館 JA紀南上秋津 JA青年部 幼稚園PTA 小学校育友会 中学校PTA 民生児童委員 公民館サークル 秋津野ガルテン 介護老人保健施設あきつのもり等	
取組（活動内容・ねらい・日時等） ■夏祭り 令和元年8月17日 秋津野塾主催のこの取組は、上秋津農村環境改善センター前の駐車場で開催しており、来場者が毎年1,000人を超える非常に賑わいのある祭りである。3世代交流の促進を目的に開催されており、上秋津幼稚園の園児による踊りの披露や、上秋津小学校の児童と女性の会で踊る高尾音頭などが披露されてきた。年々この盆踊りへの参加が減少する中、本年度は中学生も夏休みの登校日に地域の方より高尾音頭などの踊りを教わったことで、多くの中学生も踊りに参加することができ、夏祭りを盛り上げることができた。			
			
■農業体験学習 令和元年11月6日 農業体験学習は、農業を地域の基盤となる産業の一つととらえ理解し、農作業を実際に体験することで働くことの厳しさや喜びを知り、働くことについて考えることをねらいとして1年生で実施した。子供たちに地元産業を学んでもらい、次世代を担う人材育成に向けて力を入れている。また、梅や柑橘に関する知識を得るだけでなく、農業をする上で苦労されている事ややりがいなどを地元農家さんから直接聞くことで、子供たちの郷土愛を育むための学習となっている。			

	成 果	課 題
学校・園	○地域と学校がこれまで以上に連携を持つことができた。 ○児童生徒の発達段階に沿った学習・指導ができた。 ○授業の活性化・生徒の意欲向上に繋がった。	●校種間の繋がりある取組を継続する。 ●持続可能な取組を精選する。 ●幼小中連携の実践記録をまとめ、今後にかかす共通理解が重要である。 ●地域教材を引き継ぐ手立てを考える。
*子供にとって	○郷土愛を育むことができた。 ○上秋津の良さや発展していく喜びを感じることができた。 ○児童・生徒の興味関心がより深まった。	●生徒たちに、持続可能な地域の体制づくりを意識させる取組を継続発展させる。
*子供にとって	○地域のさまざまな人たちと交流することで、上秋津の良さを再認識することができた。 ○幼稚園や小学校との交流が盛んになり、子供たちの学習意欲が向上した。	●生徒数が減少していく中で、現状の取組を精査していき、持続可能な取組を考えていきたい。
地域（保護者） 公民館	○夏祭りでは、毎年盆踊りの参加人数が減少していたが、今年は中学生にも参加していただき、大変賑やかな祭りとなった。 ○農業体験学習では、地域の地場産業を子供たちに伝える良い機会となっており、これからも継続していきたい。	●これまで同様、学校の課題を地域で共有し、お互いに支えあえる体制をこれからも続けていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

1) ふるさとを誇りに思う
 農事体験学習は、公民館、青年団、保護者の協力を得て、1年生で事前学習と体験学習を実施し、上秋津地域の現状や課題を考える機会となっている。地域の食材を考える高菜を使った調理実習は、地域の方から直接、地域の食材や調理方法について学ぶ時間であり、ふるさとを考える一つの学習となっている。地域の方との交流は、地域の先輩としての助言や意見、感想などを聞くことができ、それだけで大きな成果がある。幼稚園・小学校・中学校が、今までの取組を地域とどう関わり、どう繋いでいくかをしっかりと見極め、計画し実践することが大切であり、そのために、職員が同じ意識で学習内容を把握しておくことが必要である。

2) 学力の向上を図る
 奇絶峡において公民館長さんより、上秋津の歴史や地質について、地震のしくみについて等を教えてもらうことができた。上秋津には自然観察等ができる場所が多くあり、地域の人材活用も含め、学校と地域間の交流を今後とも続けていきたい。

3) 人を大切にする
 生徒会の取組として、近くにある介護老人福祉施設を訪問し、交流することができた。また、ボランティア活動にも積極的に取り組むことができた。また、地域の防災対応訓練で、中学校に設置したかまどベンチを活用するなど、地域と一体となり防災について考えることができた。今後も福祉分野、防災分野の取組を地域とともに進めていきたい。


学校・園名	田辺市立秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子 秋津川中学校では、ほとんどの生徒が保育所から小・中学校と一緒に生活し、生徒同士の人間関係がよい。また、保護者も長い年月を一緒に活動しているため、連帯意識が強く、地域の人々も子供たちを見守り育んでいこうとする意識が強い。学社融合の取組から、計画的に子供たちが地域の方々と触れ合うことで、生徒は視野を自分たちから地域へと広げて考えられるようになるとともに、一緒に活動することで、地域全体の活性化に貢献している。また、地域の方々も学校行事や子供たちとの活動を通して、コミュニティとしてのまとまりが保持され、各種お祭りや行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。			
目 標	学校・園・地域 ・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にする心を育てる。 ・地域の方との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。 ・子供たちに地域の人達との交流を通して、伝統文化等の様々な知識を教えていただき、地域への愛郷心を養う。 ・普段子供たちと接する機会の少ない保護者以外の人達に、公民館主催のイベントを通して交流を持っていただくことで、地域の活性化に繋げていく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 秋津川公民館 秋津川町内会 秋津川振興会 秋津川春秋会（老人会） JA紀南秋津川店 JA女性会 秋津川婦人会 秋津川中学校 秋津川保育所	
取組(活動内容・ねらい・日時等) ○今年度の重点項目 読書活動推進教育と福祉教育 [参加者]小学生、中学生、保護者、校区協議会、地域の方 <読書活動推進教育> 【読み聞かせ教室】8月1日(木) 【講 師】熊野高校 読み聞かせサークル「リピース」 【内 容】熊野高校生徒による読み聞かせサークル「リピース」が紙芝居・絵本の読み聞かせを行ってくれた。サークルの中には本校卒業生も含まれており児童・生徒は興味を持ち聞くことが出来た。 <福祉教育> 【認知症サポーター養成講座】12月10日(火) 13:30~15:00 【講 師】田辺市社会福祉協議会職員 7名 【内 容】認知症サポーター養成講座の説明と寸劇を通じて認知症の人への接し方と対応を教えていただいた。小学生と中学生がそれぞれのグループに分かれ、寸劇の良い点悪い点についてのグループワークも行った。 ○その他の主な活動 <ねんりんピック 音楽文化祭> 11月10日(日) 和歌山県民文化会館にて開催された音楽文化祭で、秋津川炭琴サークルの皆さんと炭琴を合奏し、大成功を収めることができた。 <地域清掃> 11月6日(水) 老人会の方々と小学5,6年生、中学生が4地区に分かれて、地域清掃を行った。 <文化発表会> 11月20日(水) 人権作文や総合的な学習の時間での学びを発表した。 <町民運動会> 9月22日(日) 中学生は、小中合同のリレーと、南中ソーランや組体操、一般種目などに参加し、活動をした。 <ふるさとまつり> 11月17日(日) 授業を公開し、保護者や地域の方々に見に来ていただいた。生徒は炭琴演奏を披露するなど、多くの参加者たちとともに祭りを楽しんだ。 <敬老会> 10月6日(日) 地域の方々に炭琴の演奏を披露した。 <高齢者年賀> 地域の方々に年賀状を送り、新年のごあいさつをさせていただいた。			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 秋津川中学校の地域に根ざした幅広く内容の深い教育活動を行うことができた。 小学校、中学校が連携して読書活動推進教育や福祉教育に取り組むことができた。 地域の多くの方々に、児童や生徒の学習の様子や発表を見ていただくことで、子供たちの活動が深まり、生徒たちの作品が精度の高いものに仕上げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々との交流を通して、地域の良さを再確認し、それを大切にする心を育てるなど、本来の目標やビジョンを共有しながら、地域の方々と過ごす時間を効果的に活用できるようにしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練や地域清掃などの活動を通して、地域の人たちや仲間との助け合いの意識が高められた。また、感謝され認められることにより生きがいや充実感を得るきっかけとなり、コミュニケーション能力の育成にもつながった。 ふるさと祭りや敬老会に参加させていただき、地域の一員としての連帯感や自覚をもつ機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々と関わりながら、自分自身を見つめ直すことで、学校や家庭、地域での自分の役割について考え、責任感を高めるような指導をしていきたい。 避難訓練などの学習では、中学生として自分たちは何ができ、何をすべきかを考えながら行動できる主体的な態度を育てたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 組体操や南中ソーラン、炭琴演奏など、自分たちの取組や地域の伝統を、学習の中で継承している姿を、地域の方々に見ていただき、自分たちの活動に、喜びや達成感を得ることができた。 秋津川の方たちと一緒に、一生懸命行事の成功のために取り組むことで、豊かな心が育ち、ふるさと秋津川の良さを再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の役割を増やしていくことで、地域の一員としての自覚をもち、社会的な場における行動力をさらに高められるように働きかけていきたい。 これからも地域の行事や活動に積極的に関わりながら、多くの方々と交流し、周りの人たちへの思いやりの心や社会性を養っていけるようにさせたい。
地域・保護者・公民館	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動に積極的に取り組んでいただいております。公民館主催の行事では子供たちのおかげで賑やかな行事を開催することができています。 地域と学校が共に歩んでいける活動をこれからも継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学社融合推進協議会を軸にして、地域と学校が課題となっている事をお互いに共有して、これからの取組に繋げていきたい。 地域の高齢化が進む中、既存行事が持続可能な取組となるようにこれからも努めていきたい。


評価及び次年度に向けての取組の方向

<評価>
 今年度は、地域に根ざした内容の深い活動を目指して、様々な行事に取り組んできた。地域と学校が行事の成功のために協力して取り組むことで、生徒は、地域の一員としての連帯感や自覚をもつ機会になり、ふるさと秋津川の良さを再確認することができた。これらの経験を通して、生徒の豊かな心を育てることができ、また、命の大切さや、周りの人とのコミュニケーションの取り方などについても知識を深めることができて、とてもよかった。


<次年度に向けての取組の方向>
 これからも、地域と学校が共に歩んでいける活動を継続していこうと考えている。そのために、地域の方にもっと参加していただけるような発信の仕方を工夫するなど、具体的な方法について考えていきたい。また、一つ一つの行事を更に、充実した内容のものにするために、計画をしっかりと立てていこうと思う。そして、授業の中に、地域の人材を活用できるような内容を取り入れるようにすることも考えていきたい。
 来年度は、「特別支援教育」を重点項目として取り組んでいく。




ねんりんピック音楽文化祭



福祉学習



町民運動会

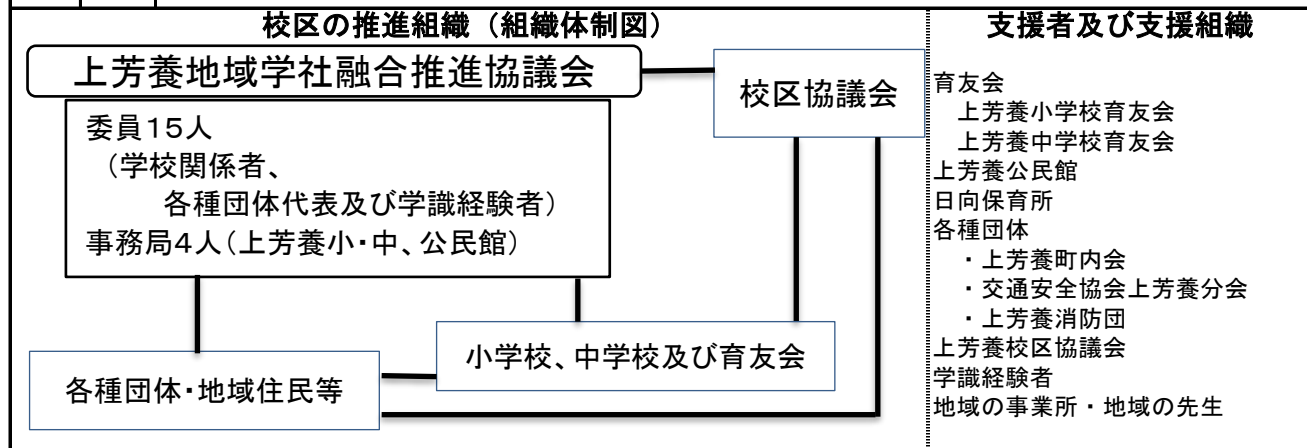


地域清掃

学校・園名	田辺市立上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館
-------	------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子
 自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得たり福祉施設など地域にある施設や事業所の方々と交流を行ったりして教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子供を育てる」という意識が高く、学校の教育活動には協力的である。
 公民館は子供対象の行事を実施したり住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。

目 標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていこうとする児童生徒を育成する。 ○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。 ○学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。 ○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。



取組(活動内容・ねらい・日時等)

【学社融合スローガン】
笑顔 咲き誇れ 梅の里

上芳養アピール大作戦 R1 by 梅の里Jr.

1年 梅農事体験活動



2年 職場体験活動



3年 地域貢献活動



地域を知る

①「梅博士に！」
梅の歴史や梅産業など、梅に関する知識や理解を深める。

②6月「体験2日間」
地元梅農家やJAに出向き、梅とり、選果、箱詰め等の作業を体験する。

③「まとめ」

地域に学ぶ

<9事業所で3日間>

>
「がんばった
継いでいこうと
決意した」

スイーツTEAM
梅チョコロス



おかずTEAM
ジビエ入り 梅ポール




地域のために <上芳養うめえ～名物料理づくり>

①上芳養をアピールできる、みんながハッピーになる簡単梅&ジビエメニューを考案。



②試行錯誤しながらの調理実習 <地域の方と共により良くなるように>
アドバイザーに更井シェフ。梅やジビエの素材も、地域の皆様から提供。

③試食会 ④レシピやパッケージ制作 ⑤ 広報活動…地域内外へ「梅の良さ/料理紹介」等

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・農事体験学習により、働くことの大切さや意義を学ばせることができた。地域の産業（梅産業）を通じて、郷土愛を育んだ。地域貢献活動では、教科横断的な取組の中で思考を深めさせることができた。 ・地域の方には素敵な特産料理ができるよう梅やジビエの素材提供や技術協力、共に考える等、各立場からお力添えを頂いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組を、学校全体、地域、みんなのものにするための工夫や仕掛けが必要である。 ・目標・内容・方法を踏まえ、学習評価をしっかりと行う。教師が創造的な授業をデザインできるように改善を図る。 ・総合的な時間を見直し、充実しつつ継続していきやすい、系統立てた取組にする。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・農事体験を通じて、地域の産業を体験することにより、働くことの大切さ、意義について学ぶことができた。 ・上芳養アピール大作戦を進める中で、目的意識を持ち主体的な活動となり、子供たちは地域とのかかわりについて考え、地域への愛着を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ・生徒自身が学びを振り返り、次の学びに向えるようにする。 ・協働、深い学びへ。 
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験活動を行うことで、郷土産業についてより深く学ぶことができ、地域全員で継承している伝統を再認識することができた。また、地域の方々から専門的技術を学ぶ機会を設けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動で得た知識や技術を発揮し、応用できるよう、今後の取組を発展させていきたい。 ・取組を円滑に進めていくために、地域に対する興味関心を高めていきたい。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で生徒たちの学び、成長をバックアップすることができた。 ・幅広い年代の方々と一緒に地域産業に触れたことで、地域全体で今後ともアピールを継続していこうという意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アピール内容を充実させていく。将来的には、広域な範囲に知れ渡ることができるよう修正・工夫を行いながら、アピールのしやすい環境づくりにも目を向けていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向
 本年度「地域とともにある学校」をより目指すために、生徒と共に学社融合スローガン『笑顔 咲き誇れ 梅の里』を考えた。みんなのものにするためにも、学校ポスターを生徒全員で創りあげ、地域の方に広報した。
 数年前からの課題として、「目的意識を持ち、主体的な活動となるよう」「地域との関わりについて考えを深められる活動にしていく」必要性があげられていた。
 そこで、小学校からの梅・地域学習の集大成として、『上芳養アピール大作戦』と称し、特産の梅やジビエを使った地域が誇れる料理づくりを実施することにした。生徒たちも何か地域貢献がしたいと考えていたが、今春に開かれた学社融合推進協議会の会議で、推進委員の方より「ぜひ中学生の考える梅レシピがあれば」とのお声を頂き、企画するに至った。『上芳養の名物料理づくり』を保護者、地域の方と和気あいあいと行うことができた。レシピ本を作り、地域内外に上芳養の良さを紹介していく予定である。
 また、地域に笑顔が咲き誇る取組の一環として、美化活動では生徒会主催の地域奉仕清掃を学校だけでなく地域にも呼びかけ協働した。公共施設のワックスがけも大変喜ばれたので、中学生だからこそできる地域の中に入った奉仕活動を今後も進めたい。

本年度は主体的な取組となるように意識づける年でもあったので、今後は様々な取組を系統的に進め、生徒たちや学校、地域にとって有意義な活動として発展させていきたい。

学校・園名	田辺市立中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 「地域と共にある学校 学校でつながる地域の”わ”」をテーマに、「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱として取組を進めてきた。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切にしたい取組を公民館と連携して進めている。			
目 標	学校・園	・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。	
	地域		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 ・中芳養公民館 ・中芳養幼稚園 ・中芳養小学校 ・J A 紀南芳養谷支所 ・中芳養地区老人会「芳寿会」 ・中芳養町内会 ・中芳養地区消防団	
取組（活動内容・ねらい・日時等） 和の心の授業（書道・華道・茶道）のねらい 日本の伝統文化に触れながら自分の心と静かに対峙し、心豊かな人生の素地を作る。周囲の人をもてなす生活態度や習慣を身につけさせる。			
夏季休業中	講師依頼と日程調整を行う。1年生は、取り組む百人一首の句を選ぶ。		
書道（10時間） 10月1日～11月12日	前田一彦先生を講師にお招きし書道に取り組めます。数年前から百人一首を題材に選び、上の句と下の句を2人で分担して作品を作っています。約6時間の練習の後、清書を行います。最後の日には、台紙に貼り合わせ展示用作品に仕上げます。作品は、「中芳養祭」「中芳養合同作品展」で展示し、地域の方々に披露しています。		
華道（6時間） 11月5日～11月12日	西野ゆかり先生を講師にお招きし、フラワーアレンジメントに取り組んでいます。毎回花の種類や生け方を変えて指導して頂き、作品は自宅に持ち帰り家族にも楽しんでもらっています。最後の授業では、「中芳養祭」の展示用作品をつくり、当日参観者に披露しています。		
茶道（8時間） 11月1日～11月19日	八木幸子先生を講師にお招きし、茶道の歴史や作法について学ぶ授業になっています。道具類の名前や歩き方等、細かく指導して頂きます。練習では、お互いにお茶をたてあい、作法を確認します。最後は、「中芳養祭」において地域の方々や保護者にお茶を振る舞い、おもてなしの心を身につけます。		
中芳養祭	作品展と茶室を作り茶道によるおもてなしを実施。		

	成 果	課 題
学校・園	・「敬老会」や「グラウンドゴルフ大会」に参加し、地域の人たちとの交流を深められた。 ・陶芸教室や中芳養祭への参加者が増加して学校の取組を理解してもらえる機会が多くなった。 幼・小・中・公民館の連携で学社融合の取組の幅が広がった。	・地域の教育力を学校に取り入れるために様々な場面での活用を考える。 ・学校行事の精選を行い、より効率的な取組を作り上げていきたい。 ・今後も幼・小・中・公民館の連携を深め子供を育てる一貫した取組に発展させていきたい。
*子供にとって	・多くの講師を招聘でき、授業を通じたふれあいの中でコミュニケーション能力を高めることができた。 ・人前で堂々と発表することが苦手な生徒が多いが、経験数が多くなり、少しずつではあるが自信を持ってきている。	・学校が行う地域との交流行事を通して、日々の生活の中で挨拶や意見を述べることに慣れさせたい。 ・地域の良さを知ることによって郷土愛を育み、地域の将来について考えられるようにしていきたい。
*子供にとって	・地域の幼稚園児から高齢者の方まで、幅広い世代の人と交流することで、地域の良さや多くの知識を吸収でき、地域を大切にするという意識をもつことができた。	・地域行事に積極的に参加し、社会性を高め、更なる地域貢献に取り組んでいきたい。
地域（保護者）	・さまざまな活動を通じて、地域とのつながりを深めることができた。また、地域の現状や課題について考える機会を持つことができた。	・今までの取組を継続しつつ、中身の充実を図っていきたい。中学生が地域行事に参加する機会を増やし、生徒の主体性を高めたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

- ・本年度は、学校への協力という形に終わらず、地域の行事にも積極的に参加し、「地域に学び、地域に返す」という、学校と地域との双方向性をもった取組とすることができた。
- ・芳寿会との交流は、「盆踊り講習会」「Human-chain」の取組を通して継続されている。また、PTAの陶芸教室は、毎年多くの保護者が参加して下さり、保護者同士の交流が深まった。「校内合唱コンクール」「参観日」「中芳養祭」等の学校行事への参加数も増えてきている。
- ・「中芳養地区敬老会」「中芳養グラウンドゴルフ大会」に参加し、地域の方々と接することによって世代間交流の場になっている。
- ・学校の公式ブログを運用し、行事予定や行事の様子を積極的に公開してきた。このことで学校行事への参加者が増えたと考えられる。まだまだ技術的な問題も抱えているが、続けていきたい。
- ・地域の教育力を学校に取り入れるために各教科で活用できる単元や実習等を洗い出し、具体的な取組につなげていけるようにしたい。
- ・学校行事等の精選を進め、今後も持続可能で効率的な取組にしていく必要がある。学社融合推進協議会を核として、幼・小・中・公民館の連携を今後も大切に、相互理解を深めていく。

学校・園名		田辺市立龍神中学校	公民館名	龍神公民館
学社融合における学校・地域の様子 旧龍神村全体を校区にもつ本校は、3台のスクールバスを使つての遠距離通学の生徒が全校生徒の約60%にあたるが、各行事等への保護者の出席率は常に高い。地域も学校の教育活動に対して協力的で、年3回、学校が取り組む校区全体の古紙古着回収や地域の避難所清掃活動に多くの方々に参加してくれる。 学校は、地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）から外部講師を招聘した授業を積極的に実施したり、生徒が地域（旧龍神村やさらに広域な地域）へ出かけ学習する場を多く設定するなどし、外部人材を有効に活用する教育活動に取り組んでいる。				
目 標	学校・園・地域	①学校が教育活動等の情報を積極的に地域に提供し、地域の学校への関心を高め、地域から支援や協力が得られるように努める。 ②PTA、公民館等と協力して、学校・家庭・地域のそれぞれが果たす役割について考え、地域全体の教育力を高める活動の推進に努める。 ③地域での体験活動の実施、地域から講師を招聘する授業の実施等、地域の教育力を積極的に活用することにより、生徒の知識や技能を高め、さらに生徒の道徳性や社会性を高めていく。		
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 龍神公民館・各分館 龍神地域各区（20区） 田辺市社会福祉協議会 龍神行政局 龍神中学校PTA NPO「未来龍神」		
		<pre> graph TD A[龍神中学校学社融合推進協議会 (委員8名)] --> B[地域] A --> C[公民館] A --> D[各小学校] A --> E[PTA] B --> F[学校運営・教育活動] C --> F D --> F E --> F </pre>		
取組（活動内容・ねらい・日時等） 【1年生宿泊体験（紀南体験）学習】 ◎日時 令和元年8月22日～23日 ◎場所 那智勝浦町・串本町 ◎目的 ①紀南地方の自然の偉大さを感じ、災害啓発について学び、生命の尊さについて考える。 ②団体行動を通じて、社会性・公共心・責任感を養うとともに、学級の団結力を高める。 ③現地の方との交流を通して、出会いの良さを感じる。 ④見聞を広め、和歌山県の豊かな自然や文化に親しむ。 ◎活動内容 ①和歌山県土砂災害啓発センターでの防災学習 （紀伊半島大水害のメカニズム・紀伊半島大水害体験紙芝居） ②世界遺産「熊野古道ウォーク」（大門坂～那智の滝） ③南紀熊野ジオパークセンターでの理科学習（紀南地方の地質と災害等） ④潮岬青少年の家での宿泊体験学習（カレー作り・キャンドルファイヤー） ⑤シュノーケリング体験又は串本海中公園水族館飼育体験				
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>紀伊半島大水害体験記</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>熊野古道ウォーク</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>水族館バックヤードで学習</p> </div> </div>		

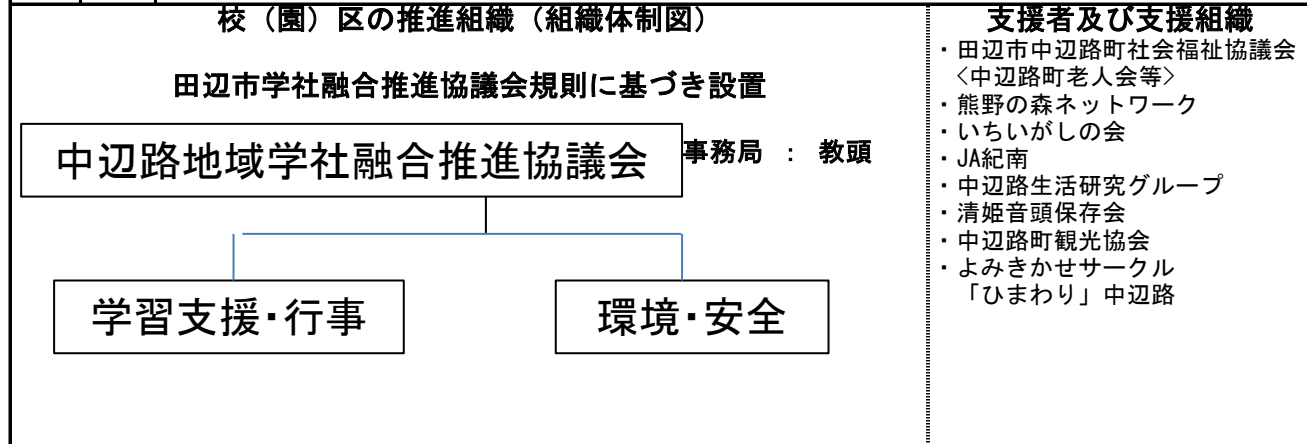
	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、各領域の授業、校外での学習活動に専門的知識をもった外部講師を招聘することにより、担当教員の負担の軽減につながった。 保護者や地域の方々に学校の取組を周知することにより、学校に対し多大な協力を得ることができた。 生徒の学びの場を校区やさらに広域な地域に求めることにより、より教育効果を高める学習活動を展開することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業に招聘する新たな外部講師の確保に努めていきたい。 生徒数の減少、保護者数の減少、地域の世帯数の減少の中で、持続可能な各学年の宿泊体験学習の見直しに今後も取り組まなければならない。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を授業に招聘することにより、生徒の「学びに向かう力」が高まった。 清掃活動やリサイクル活動に取り組むことにより、達成感を感じることができ、自己有用感の高揚につながった。 各学年の宿泊体験で他地域の人々との交流を通して、生命の尊さを学び、自然や文化に触れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちを支えてくれている地域の人々への感謝の気持ちを日頃の地域での挨拶や地域での行動で示していくことにさらに努める。 地域の活動や行事に今後もより積極的に関わり、多くの人々との交流を通して社会性を高めていく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々が授業に関わることにより、生徒がより専門的な知識や技能を習得することができた。 多くの地域の方々が、学校の取組に協力し、また学校の行事に参加することにより、生徒が、地域に支えられているという実感を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが地域の行事を継承していく人材という意識や、自分たちが地域の防災を担っていく重要な人材という意識を生徒たちに持たせたい。
地域（保護者）公民館	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々が、ゲストティーチャーとして授業に参加することにより、地域の人々にとって学校の教育活動がより身近なものに感じられるようになった。 学校が地域に学びの場を求めることにより、地域の教育力の高まりにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子供の数が減少していく中で、生徒やPTAの活動を継続していくためには、より地域の方々の協力が必要である。 学社融合が、生徒の様々な力を向上させる取組にしていくためには、地域と学校をつなぐ人材の確保が必要である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 【評価】 <ul style="list-style-type: none"> 学校だよりの校区全世帯（約1600戸）への配布を継続することにより、学校の取組を地域に周知した。 体育祭、文化発表会等の学校行事に大勢の保護者や地域の方々に参加していただいた。 保護者や地域の多大な協力により、年3回の古紙古着回収、アルミ缶回収活動を実施することができた。 各教科、各領域の授業に外部講師を招聘することにより、より効果的な学習活動を展開することができた。 生徒の豊かな心を育てることを目標とした各学年の宿泊体験活動を実施した。 1年：紀南体験 2年：広島体験 3年：沖縄体験（修学旅行） 3か所の避難所清掃活動を地域の方々と一緒に実施することができた。 1年生が、外部講師を招聘した平和学習（B29墜落について）を実施することができた。 NPO「未来龍神」の田んぼアートの取組（田植えと稲刈り）、里芋掘りに協力することができた。 龍神市民センター大ホールを会場に本校独自で文化発表会を開催し、充実した発表を保護者や地域の方々に見てもらうことができた。 【次年度に向けての取組の方向】 <ul style="list-style-type: none"> 年3回の古紙古着回収、アルミ缶回収を継続していく。 生徒が達成感を感じることができる避難所清掃活動を継続していく。 持続可能な各学年の宿泊体験学習の見直しに継続して取り組む。 今年度の成果をもとに、生徒が充実感と達成感を感じることができる文化発表会の開催を計画していく。 		

学校・園名	田辺市立中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館
-------	------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子

本校の周りには自然豊かな山々が多く、校区内に世界遺産の熊野古道がある。生徒数は少人数ながら、保護者や地域の方々に温かく見守られ、学校生活を過ごしている。学校では、地域との交流を深める様々な取組を行っており、年々活動を継続することで、協力してくださる方々が増え、交流が広がっている。保護者をはじめ、地域の方々の協力もあり、地域全体で学校教育の取組が行われ、その都度ご理解、ご協力をいただいている。

目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域の持つ教育力を積極的に取り入れ、地域の施設や環境などを教育活動に生かすことを大切にしたい取組をめざす。 ・自然や地域の人とのふれあいを大切に、生徒自身に地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育てる。 ・地域行事やボランティア活動に積極的に関わる生徒を育成する。
--------	---------	---



中辺路地域学社融合推進協議会の年間取組/予定(活動内容・ねらい・日時等)

【活動内容】 ※ 上記委員全員で全体会を行い、かつ、部会のいずれかに所属し活動をする。
 ※ 学校職員は、部会のいずれかに属するものとする。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1回全体会議		各専門部会による取組(年2~3回程度開催)							第2回全体会議		
<p>【議案】</p> <p>(1) 会長・副会長選任 ※学校運営方針の説明及び承認</p> <p>(2) 学校、地域の課題の選定</p> <p>(3) 課題を検討する専門委員会の決定</p>		<p>(1) 第1回専門部会 当年度の取組内容や具体的な検討事項などを協議</p> <p>(2) 数回の専門部会 課題解決に向けた取組を協議・意見交換など</p> <p>(3) 専門部会 1年間の活動の振り返り及び、次年度に向けた協議など</p>							<p>【議案】</p> <p>(1) 学校運営の基本方針に係る取組報告 〈活動状況報告書作成〉</p> <p>(2) 各専門部会からの取組報告</p> <p>(3) 次年度に向けた意見交換</p> <p>(4) 田辺市本部会議からの報告事項の確認</p>		

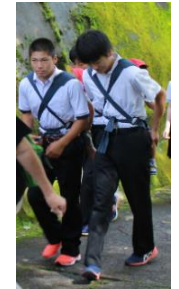
年間活動

- ・花いっぱい運動【地域への配布等含】
- ・森林ボランティア【森林学習/どんぐり採集/育苗(ボランティア寄贈用)】
- ・職場体験学習
- ・清姫まつり/清姫音頭
- ・福祉学習/福祉体験/保育体験
- ・学校行事関連【合同避難訓練/夏休み期間中の親子共同作業/校内備品の修繕等】

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に様々な行事や活動にご協力いただき、交流を深めることで、学校と地域との繋がりが深まった。 ・様々な取組を通して地域との連携を深め、地域の方々の学校教育や生徒に対する、理解や関心が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、様々な取組があり、準備・実施の段取り等の時間の確保が難しいこともある。行事の精選と計画的に時間を確保する工夫が必要である。 ・地域の方々と連携や関係を深めるため、行事・活動を通し、繋がりを深めたい。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と関わりによって、社会性が育まれ、コミュニケーション能力の向上に繋がった。 ・地域の伝統をはじめ、様々な技術の共有や交流ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的な取組を行い、活動を通じて、地域に対する思いを育ませていきたい。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい運動から、地域との繋がりが持てている。また受け取った側の感謝の言葉から、生徒自身が自尊感情を高め、自信になり、中辺路地域の方々と学校側が互いに誇れる活動となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい運動以外にも地域の各自治会や、社会福祉協議会を通じて、地域の老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。
・地域(公民館)保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、中学校の生徒が花いっぱい運動で育てた苗は地域の住民に大変、喜ばれている。こうした地域と中学生の交流が地域の環境美化意識を高めることにも繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館として学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ったり、積極的に参加してもらえよう、サポートしていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

- ・活動を通じて、地域の方々に認められ、自尊感情や自己有用感が大きく育まれている。
- ・各活動共に地域の方々に協力していただき、生徒自身も地域の文化や伝統を学べる良い機会になっている。
- ・「花いっぱい運動」は定例行事となり、生徒の日々の活動の成果が地域の方々への『苗の配布』というかたちで地域との繋がりを強く持てている。
- ・森林ボランティア活動では事前学習やボランティア当日の活動を通して、地元を思いやる心を育て、熊野古道を含めた自然豊かな環境の大切さを改めて実感することができている。
- ・子育てサークルやグラウンドゴルフは生徒と異世代の方々との交流する良い機会となり、コミュニケーション力の向上に繋がっている。
- ・今年度のサマーボランティアにも複数の生徒が参加した。地域のために役立とうとする主体的な姿勢が育まれた。
- ・各取組も毎年継続的に行うことで地域との関係が深まってきている。学校外の方々と交流することで、生徒の社会性や自己肯定感をより効果的に向上させることができた。今後は、授業数確保や新しく協力していただける方の人材の拡充を進めていきたい。

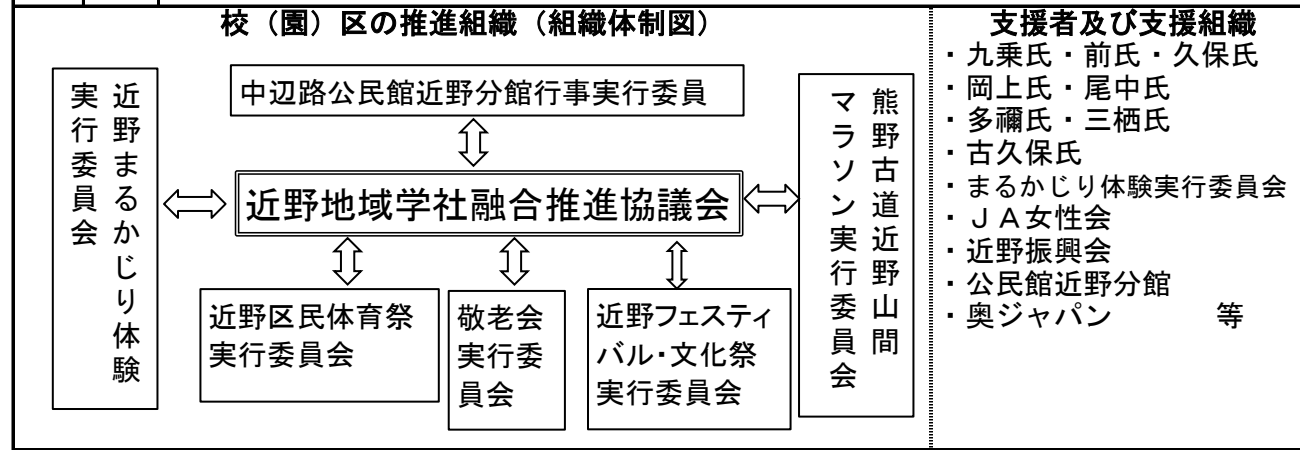


学校・園名	田辺市立近野中学校	公民館名	中辺路公民館近野分館
-------	-----------	------	------------

学社融合における学校・地域の様子

- ・伝統的に学校と地域の連携が密である。学校と地域が一体となって取り組む行事が多く、中学校も実行委員会に入り一翼を担っており、生徒・職員ともに主体的に参加している。
- ・総合的な学習の時間に取り組む年間を通しての米作りは、多くの地域の方々の協力のもと行っている。また、収穫したうるち米や餅米は、餅つきなど、地域の各イベントの時に活用している。
- ・地域にある旅行会社「奥ジャパン」と連携し、アメリカファミリーとの交流を行っている。また、英語語り部も行っている。

目 標	学校・園・地域	学校を含めた地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、高齢者福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取り組みを行う。 (学校) ・地域での活動を通して地域を知る。 ・共同作業を通して、協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学ぶとともに、地域の住民や伝統・文化を大切に、尊敬する気持ちを育てる。 ・地域の一員として地域のイベントに参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。 (地域) ・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。 ・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。
--------	---------	--



取組(活動内容・ねらい・日時等)

- 米作り(箱苗づくりから近中餅販売まで)
4/24(水)箱苗づくり 4/26(金)よもぎ摘み 5/27(月)田植え 10/2(水)稲刈り
11/3(日)「近野まるかじり体験」での臼と杵でついた近中餅(ヨモギ餅あんこ入り)実演販売
- 地域PRあいさつ運動 地域PRあいさつ運動 1学期2回、2学期3回 実施
古道の里近露であいさつ運動を行っている。地域の方々とあいさつを交わし、交流を深めるとともに、観光客ともあいさつを交わし、近野地域のパンフレットを配り地域PRをする取組を行っている。また、修学旅行でも熊野古道のPRを行った。
- アメリカファミリーとの交流 6/26(水)
地域の旅行会社「奥ジャパン」と連携し、地域の方々にも協力していただき、アメリカからのツアーのお客様との交流を実施した。英語で自己紹介をしたり、習字や折り紙をしたり、けん玉やレクレーションをしたりして交流した。
- 英語語り部活動(タミンミンカレッジとの交流) 11/1(金)
熊野古道を歩く外国の方との交流に積極的に取り組んでいる。今年は、オーストラリアのタミンミンカレッジの短期留学生に語り部をさせていただいた。
- 地域と一体になっての行事
9/22(日)「近野区民体育祭」 11/3(日)「近野まるかじり体験」
11/17(日)「近野フェスティバル・文化祭」 3/21(土)予定「近野山間マラソン」

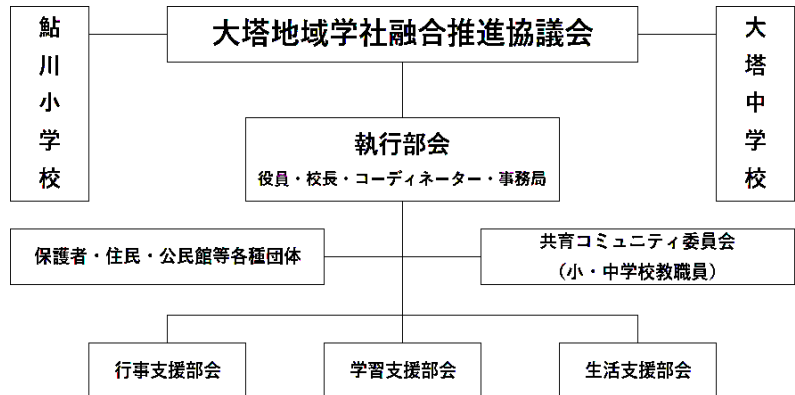


	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りを箱苗作りから収穫までを行い勤労の尊さを学ばせることができた。 ・「近野まるかじり体験」で餅つきを行い、地域の活性化に貢献することができた。また、日本の食文化の学習もすることができた。 ・地域の方との交流が深まり、感謝の気持ちや先人を敬う気持ちが育った。また、多くの共同作業を取り組む中で、協調性や思いやりの気持ちが育った。 ・集団としてのまとまりが育ち、学校行事等でもその力が発揮された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間が少なくなる中、米作りの時間を確保するのが難しくなっている。 ・天候に左右されることが多く、予定通りに実施できないことがある。 ・生徒数・職員数が少ないなか、今のままでの実施は難しくなってくる。行事の精選や中身の検討が必要になっている。米作りは今後小中合同で行うことも検討していきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りを一通り体験することができた。 ・地域の方々を人生の先輩として敬うようになり、あいさつ等にあらわれてきた。 ・地域のイベントや学校行事に主体的に参加できる生徒が増えてきた。 ・国際交流を通して国際性やコミュニケーション能力を身に着ける契機になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の中で、先輩から後輩へと取組が伝授できていけるようなくみにしたい。 ・他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりを持つてできるようにしたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が抱える様々な課題に気づくとともに、地域の活性化のために自分たちも参加していくことで多くのことを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統に学び、地域の活動に今後とも継続して関わってほしい。
地域(公民館・保護者)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の皆さんの協力により、校区内の休耕田を借用して、米作り体験を行った。「区民体育祭」「近野まるかじり体験」「近野フェスティバル・文化祭」などに、地域一体となって取り組んでいる。こうした取組により、地域の方々や生徒たちが交流を深めることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が少なくなってきている中、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子どもを育てる学習を進めていくことが重要となっている。

評価及び次年度に向けての取組の方向

- ・米作りを箱苗作り・もみまき・代掻き・田植え・雑草取り・稲刈り・脱穀までの農作業を体験し、米作りの一連の作業を体験する事ができた。餅つき体験をすることで、生産活動の大切さを学び、収穫の喜びを味わうことができた。
- ・地域の方々の協力があってこそ色々な活動ができている。今後も地域の中で育つ近野中生として位置づけ、地域から多くの事を学び、地域に感謝の気持ちを伝える活動を目指したい。また、地域のPR活動にもより一層取り組んでいきたい。
- ・昔ながらの杵と臼で餅つき体験をし、日本の食文化の継承がはかれた。また、「近野まるかじり体験」での餅の販売や「近野フェスティバル・文化祭」の育友会主催のパパママランチの食材として米を提供できたことは、地域への恩返しとなり良かった。これも取組の成果であるといえる。来年度もできる範囲で、これらの取組を継続する方向で計画していきたい。
- ・地域の旅行会社「奥ジャパン」の協力によるアメリカファミリーとの交流と今まで積み上げてきた英語語り部は、子どもたちのコミュニケーション能力を育てる国際交流を進めていく上でとても有意義であった。英語スピーチコンテストにも積極的に参加し、県で最優秀賞を受賞する生徒も出てきた。英語科職員に全職員で協力しながら来年度も取り組んでいきたい。



学校・園名	田辺市立大塔中学校	公民館名	大塔公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景もあり、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、PTA活動や学校行事への参加は積極的である。しかし一方では、共働きや一人親家庭の増加に伴い、平日行われる参観日等の出席率は低い傾向にある。また、昼間はほとんどの成人が旧田辺市など近郊に働きに出るため、大きな災害が発生した時など、地域で活動できる人材が特に不足することも想定される。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <p>○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。 ○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。 ○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。 ○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。</p>		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p> 		<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大塔公民館、各分館 ○田辺市自治会連絡協議会大塔支部 ○大塔女性会 ○大塔老人クラブ ○社会教育委員会 ○子供クラブ ○放課後ふれあいスクール ○民生児童委員 ○田辺市保護司会大塔支部 ○社会福祉協議会 ○田辺市消防署大塔分署 ○青少年健全育成市民会議 大塔地区協議会 	
<p>取組(活動内容・ねらい・日時等)</p> <p>行事支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小5年～中1が対象の選択交流学習でGTとして地域人材の活用。6月12日、10月9日に実施。 ・運動会、体育祭で実施する大塔音頭の振付けを地域の方より教師が指導を受け、生徒へ伝達講習。 ・小中合同での清掃作業大塔リフレッシュ大作戦（11月6日）への区長を中心に地域の方の協力。 ・地域の方々に学校行事（体育祭、文化発表会、公開授業等）への参加を啓発。 ・中学生のボランティア活動を広げる一環として、中学生による地域のボランティア活動の手伝いや仕事の提供。 <p>生活支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校指導の拡大への取組。 ・緊急時、委員がぐるりんメールで情報を受け取り、下校指導などの見守り活動を行う。 ・家庭のしつけ 子供たちの見本となるよう大人もあいさつ。 ・防災教育 災害発生時を想定した「避難所運営ゲームHUG」（12月16日）を地域の方が参観。 ・防犯カメラの設置の検討。 ・学校施設の環境整備作業を行い、学習しやすい環境をつくる。 ・通学路の点検を行い、危険箇所を確認し改善を行う。 ・危険防止のため、学校前の車のマナーについて保護者に啓発、協力を求める。 <p>学習支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の運営に図書ボランティアの活用を進める。 ・家庭学習の手引きを活用し、小中で家庭学習の充実を図り学力向上を図る。 ・地域の方々による、授業サポートを進める。 			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学習ではGTのサポートを務めつつ、リーダーということを意識して活動した。リフレッシュ大作戦では3年生が企画・運営し、小学校、大塔CS、地域と連携して取り組むことができ、9年間の縦のつながりを考えながら連携することができた。 ・児童生徒の安全確保のため、道路の点検や危険箇所の確認・改善をしたり、大塔CSを中心とした朝のあいさつ運動により、児童生徒の安全が確保されている。 ・ボランティア活動を通して中学生が地域のために動ける機会を多くもつことができた。 ・図書ボランティアさんのサポートにより図書の整理が進むとともに、地域の方々による授業サポートも充実した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学習では、児童生徒の減少に伴う講座数の検討が必要である。 ・リフレッシュ大作戦では、児童生徒の減少による清掃地域の検討が必要である。 ・ふるさと大塔を誇りに思っている生徒は多いが、地域の担い手を育てるために、改めてふるさとを見つめ直し、考える「ふるさと学習」等の取り組みも必要である。 ・地域の方による授業サポートが充実してきたが、まだまだ人手が足りない状況である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・これらの活動は、ふるさとの文化や伝統を地域の中で体験する貴重な機会となっている。地域への関心や地域をよりよくしようという思いが高まり、ふるさとの良さを守り続けたいという思いを育むことができた。 ・地域の方々の苦労や自分たちへの期待、願いについて知ることができ、地域の担い手としての自覚が芽生えた。 ・地域の子供たちのリーダーとしての自覚を持ち、役割を担うことができた。また、それにより、充実感や達成感を味わえる生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を離れても、地域の行事に参加したり、自分たちから何か地域に発言したり、積極的に地域に参画していける生徒の育成が課題である。また、地域の担い手としての自覚を持った生徒が、将来も大塔で暮らしたいと願ったとき、それが実現できる条件が整備されていることが望まれる。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・住民や異年齢の子供たちとの活動を通して、コミュニケーション能力を高めることができ、交流を深めることができた。 ・職場体験学習では、市立図書館大塔分室をはじめ地域の様々な事業を訪れ、働くことの意義や苦労、喜びを学ぶことができ、自分の進路や将来を考える良い機会となった。 ・防災学習やリフレッシュ大作戦では、地域に暮らす子供たちの代表として、自分たちができることを考えたり、学んだりすることができた。 ・今年度から水曜日が部活動休養日となったことで始まった放課後のボランティア活動では、ふれあいスクールに生徒が参加して小学校の児童と交流する姿が見られた。自分より年下の子供たちと一緒にサッカーや工作などに取り組むことで、子供との接し方等を学ぶ良い経験となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、毎月、地域の話題や行事を掲載した公民館だよりを各教室に掲示している。子供たちには、日頃から自分の住んでいる地域に関心を持ち、機会があれば、地域の行事や活動に積極的に関わってもらいたい。
地域・保護者(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合推進協議会の事業の中には、地域行事として定着しているものもあり、子供たちと住民の良き交流の場、地域の活性化にもつながっている。 ・子育てを終えた方や、普段学校と接点がない方も、活動に参加することで、学校や子供たちの取り組みを知ることができた。 ・今年度から水曜日が部活動休養日となったことで始まった放課後のボランティア活動では、ふれあいスクールにボランティアとして参加した生徒と、スタッフとして参加している地域の方々が交流することができた。 ・学校図書館におけるボランティア活動の推進によって、地域住民が中心となり、子供たちが安心できる校内の居場所づくりを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりスムーズに、効果的に活動を進めるため、学校と地域（公民館）が連携を強くしていかなければならない。 ・防災学習やリフレッシュ大作戦で育まれた子供たちの自信や「地域の一員である」という意識を生かす場を考えていきたい。 ・今後も学社融合推進協議会の取組を、地域へ広報しながら、一人でも多くの理解者や協力者を増やしていきたい。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p>〔評価〕</p> <p>それぞれの活動において、これまでの取組のよさを引き継ぎつつ、改善に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学習では、地域の方を指導者として、中学1年生が小学7年生として小学生のリーダー的な役割を果たすことができ、自己評価、地域の方からの評価ともに高まった。 ・リフレッシュ大作戦は、これからもふるさとの良さを守り続けたいという思いを持って実施することができた。また、中学3年生が地域の最上級生である小学9年生として、リーダーとしての立場で取り組むことができ、地域の方々にも、中学生の様子を知ってもらう機会となった。 ・防災学習では、救命救急講習や災害発生時の避難所での支援等、防災行動力について学び、中学生がすべきことは何かということについて考えることができた。また、「避難所運営ゲームHUG」を体験し、自分たちが避難所を運営する立場になった時、どのような動きをすればいいのかわかるいい機会となった。 ・生徒の安全を確保できるよう、危険箇所を点検・改善をすることができた。 ・中学生が自主的にボランティア活動に参加し、地域のために活動することができた。 <p>〔来年度に向けて〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大塔地域学社融合推進協議会の取組を引き続き進めながら、日常の学校生活、教科学習、図書館運営、不登校・別室登校対応への地域人材の活用、児童生徒が地域に貢献できる場、または小中一貫した9年間のカリキュラムづくりに取り組む等、学校課題の解決に生かせるよう研究していきたい。 		

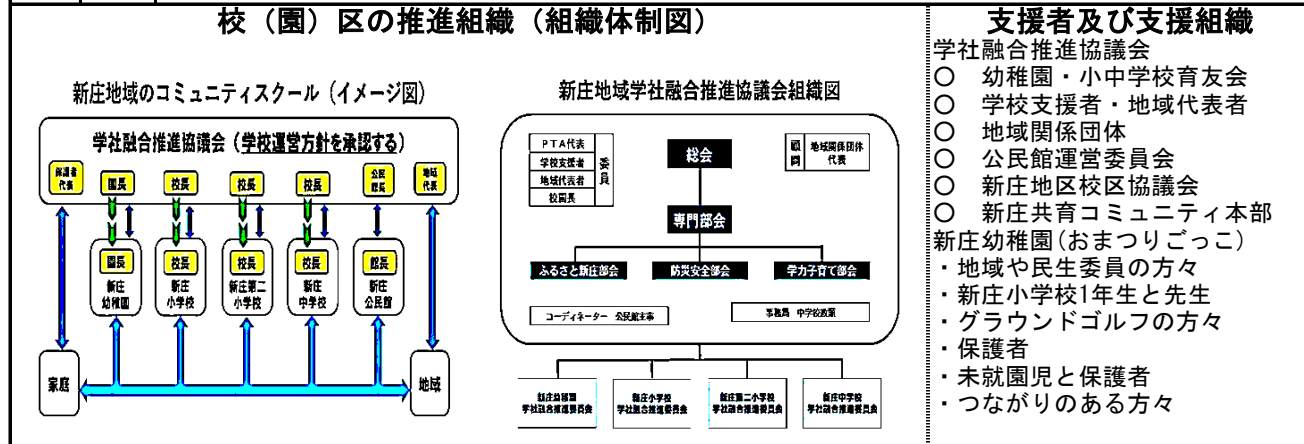
学校・園名	田辺市立本宮中学校	公民館名	本宮公民館 (本宮・四村川・請川・三里分館)
学社融合における学校・地域の様子 地域の方や保護者は学校教育に協力的であり、学校や育友会の行事等に多くの方が参加、協力してくださっている。			
目 標	学校・園・地域	学校と地域が一体となって教育活動を行い、相乗効果の得られる地域連携から学社融合へと目指す取組を進める。学校教育活動の様々な場面で、地域と連携することにより、地域と共に歩む開かれた学校作りを推進し、数多くの出会いと様々な場面の中で豊かな人間性を育成する。 生徒に充実した教育の提供を行い、授業や学校行事をより充実させるため、学校の計画に沿って生徒の実態を考慮し、地域の方に協力を依頼し、必要な外部講師・学校支援ボランティアを積極的に募集・活用する。	
	校(園)区の推進組織(組織体制図)	支援者及び支援組織 (地域) 学校支援ボランティア・保護者・地域の方	
取組(活動内容・ねらい・日時等) ①日時: 令和元年 9月24日(火) 合気道 講義 第5限 1年生 9月27日(金)、10月3日(木)11日(金) 合気道 実技 第1~2限1年生/第3~4限2・3年生 (目的): 地域の方に支援して頂くことにより、実習内容の充実を図り、地域の方と生徒との交流を深める。 (活動内容) ・ボランティアと教科担当による事前の打ち合わせ ・授業(講義 1年生1時間)(実技 全学年2時間を3回) 地元の合気道熊野塾の方から、合気道について講義や実技等で指導をして頂いた。			
②日時: 令和2年1月20日(月) プランター花植え 作業 第5限(1・2年生) 第6限(3年生) (目的): 生徒とボランティア、地域、保護者の方々が協働し、町に花をとどけ、活気ある地域づくりに貢献する。 (活動内容) ・プランターの土づくり(12月26日冬休み中に行った) ・パンジーの苗植え(本時)			

	成 果	課 題
学校・園	体育科の武道は合気道を行っている。1年生のみ講義を実施し2、3年生は実技を中心に指導していただいた。充実した内容になった。また、講義や授業の実施に向けての事前の連絡や打合せ等を通して、地域の方とのコミュニケーションを図ることができ、信頼関係を深めることができた。	・充実した内容のために、来年度はさらに内容を検討し、中学校3年間を見通した学習内容を検討していく。 ・今後も、必要に応じて色々な技能や知識をもった地域の方に協力して頂けるように、共育コミュニティを中心に地域との連携を深める。
*子供にとって	「合気道には歴史があってすごい」「田辺市の方が創始者とは知らなかった」など、講義や実技を通して技術面だけでなく地域に根差した武道であることも知った。	授業やその他の活動の中で、地域の方との関わりを通して、子供たちが主体的に考え、行動できる態度を育てていく。
*子供にとって	地域の方々から見守られながら生きる喜びの心が育っている。また、子供たち自身が地域の方々に元気を与えているということを実感している。 武道を通じて、相手の痛みや苦しみを心と体で感じ取ることができている。	多くの方々との出会いの中で、社会性を高めながら社会参画の意識を育てていきたい。また、社会の厳しさも理解できる生徒を育成したい。
地域(公民館)保護者	学校に関わりを持ち、教育への関心を高めることができた。 学校ボランティアの皆さんから、「活動が楽しい」という声が聞かれることは大変良いことである。様々な活動を通じて地域との距離が近くなっている。	高齢化が進行し地域の行事等の活動に支障が出ている中、子供たちがそれぞれの地域活動に積極的に参加できるよう配慮していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <評価> 地域や公民館、町内の小学校や保育園と連携して、いろいろな活動を進めることができた。 体育科の合気道については、学校ボランティアとの連携を密に行い、ミシンボランティアについては取組に協力してくれる方を増やすことができ、地域とのつながりを生かし、今年度も家庭科の授業に関わって頂いた。昨年来て頂いた地域の方が今年度も引き続き参加して下さりミシンだけでなく手縫いについての指導にも関わってくれるなど、活動を広げることができた。		
<次年度に向けての取組の方向> 今後も、共育コミュニティを通じて、また今までのつながりを生かして、色々な方に参加、協力していただける体制を継続していきたい。 現在行っている活動を継続しながら、地域とのつながりを深め、地域の方に学校教育に関わってもらえるよう積極的な働きかけをしていく。		

学校・園名	田辺市立新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館
-------	-----------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子
 新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、昨年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めています。

目 標	<p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条(目的) 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p>
	<p>新庄幼稚園 ○地域とのつながりを大切にし、地域に開かれた園運営(保育の公開や参加型の保育)を展開し、地域の方の幼稚園理解を深める。 ○地域の人、自然、文化との出会いやふれあいを大切にし、ふるさと新庄が大好きな子供を育てる。(親世代も巻き込んで) ○応答性のある関係づくり、互いにメリットのある活動を大切にし、地域の中の幼稚園・子育て支援の核となれるよう努める。</p>



取組(活動内容・ねらい・日時等)

「おまつりごっこ」に向けての取組
 ねらい
 ・「おまつりごっこ」に向けて友達と話し合いながら、遊びを作っていく楽しさを味わう。
 ・遊びの中で自分の力を発揮し、友達や地域の人とのかかわりを楽しみ、達成感や充実感を味わう。

「おまつりごっこ」について 10/15
 子供たちに投げかけ、話し合う。

コーナー遊びでの制作
 材料探し・材料見つけ
 お神輿作り、獅子舞作り
 お囃子でリズム遊びを楽しもう

これで何できるかな? 試行錯誤
 緩衝材→おすし→お弁当作り
 どんぐり→どんぐりのお家作り
 まつぼっくり→ツリーになる
 新聞紙を丸めて→ドーナツ作り
 木の枝と段ボールで→飾り作り

ねえねえ 聞いて 今日ほね 伝え合い・認め合い
 地域の方が来園。獅子舞を見せてくれる。その際には子供たちが作った獅子舞も回していただき一緒に楽しむ。(大湯神社祭礼11/3)

おまつりごっこ 11/6
 117名が集まってくださり、園児は歌やリズム遊び、1年生は歌を披露、その後、園児や1年生がお神輿をかついだり獅子舞を回す交流の様子を見ていただいた。獅子舞やお神輿は地域の方も巻き込みにぎわった。そして、園児が主役のお店屋さんには、117名のお客さんが来てくれ、園児は充実感・満足感・達成感が味わえる時間を過ごすことができた。

おまつりごっこ 10/25
 地域に出かけ、グラウンドゴルフの方々や近所の方々に子供たちが「おまつりごっこに来てください」と声をかけ、ちらしを渡してお誘いする。

おまつりごっこ 11/1
 新庄小学校1年生担任の先生と打ち合わせ

小学生からも歌の披露

	成 果	課 題
学校・園	<p>日常の自然な保育中に何気ない交流を意識的に取り入れることを重ねている。おまつりごっこにおいては、その積み重ねの成果としてたくさんの方々が集う機会となり、毎年楽しみにしてくれている様子がうかがえる。園を開き地域と力を合わせるアプローチは、園児減少という現実の中で子供たちの豊かな経験を保証するための大切な取組だと実感している。</p>	<p>「毎年しているから今年もする」という意識ではなく、教師が何をねらい何を大切に、どのような経験や活動につなげていくかという教師の意図と子供たちの興味関心のバランスをどうとって保育を展開するのが大切になる。</p>
*子供にとって	<p>園児にとっていろいろな年代の方とのふれあいは、いろいろな立場が経験でき、生きる力の基礎となる人と関わる力・コミュニケーション力を段階的に育んでいける。おまつりごっこにおいては、子供たちについての力を発揮できる場、最大限にいかせる場となり、子供たちが達成感・充実感・自己有能感が味わえる大切な取組となっている。</p>	<p>新庄が大好きな子供たち。学社融合の取組の中で笑顔が広がる地域作りや地域の活性化につながる取組として展開していきたい。マンネリ化してしまうと地域の人々の心も離れるので、応答性のある関係をしっかりとつなぎ楽しい会になるよう進める必要がある。</p>
*子供にとって	<p>園の保育と地域の文化や行事がからみ合うことで、たくさんの方との関わりが経験できる。自分たちの遊びに地域の人を招き、あたたかい関わりやまなざしをたくさんもらうことで楽しさや充実感、自己有能感が味わえている。</p>	<p>地域の方々に幼稚園や子供たちの活動や取組を広げることで「地域の子供は地域で育てる」という意識の第一歩となる。子供たちを見守り成長を共に喜ぶ顔見知りとしてつないでいきたい。</p>
地域(保護者)・公民館	<p>子供たちの生き生きとした姿や笑顔、園の様子を実感できるこの取組は地域の人にとっても、とてもいい刺激、あたたかい心でいられる時間になっている。子供たちにどうかかわってあげたらいいかと考えながら子供の姿にひきこまれ一緒に楽しんでいる様子が感じられ相互刺激になっている。</p>	<p>幼稚園の取組を地域に知らせ、広げていく役割と地域の方々の声をしっかりと園にも伝え、両方の関係がよりよくなるような循環を作り出す。</p>



評価及び次年度に向けての取組の方向

○評価
 ・子供たちが力を発揮できる場、経験を生かせる場として5年前に立ち上げた「おまつりごっこ」。園児減少もあり、このおまつりごっこの場を地域に開き、小学1年生との交流も合わせ、様々な年代の方とのふれあいができる場とした。子供たちは、リズム遊びを楽しんだり、グループに分かれて獅子舞やお神輿、そして5つのお店屋さんを作ってきた。当日は、獅子舞を回したり、お神輿をかついだりして遊ぶ時には小学生も一緒に参加できる場とした。一緒に回したり、竹太鼓でリズムをとったりして遊べるように計画したことで、みんなで一体となって遊ぶ楽しさを味わうことができた。お店屋さんごっこでは、一人一人が役割を持ってお客さんへの対応や言葉がけを考えながら接していた。未就園児が買ったお弁当をその場で開けておいそうに食べてくれた姿に園児も喜び、嬉しい気持ちを伝え合っていた。お弁当には子供たちが必要感を感じ、試行錯誤して作ったストローのお箸が添えられていた。このように、いろいろな人との関わりを楽しみ、来てくださった方からあたたかいまなざし、言葉をかけて頂き、充実感を味わい、大満足の様子であった。園全体で行う行事を地域や保護者に開くことは、子供たちの達成感・自己有能感を味わえる大切な経験となっていたと思う。

・「おまつりごっこのちらし」を地域の方に直接手渡し、コミュニケーション力を高めている。手渡しした園の近所に住んでいる方が来てくれて園児も地域の方を招く楽しさや、関わる嬉しさを感じることができている。グラウンドゴルフの方々とは、年間を通してのつながりがあり、今年もおまつりごっこを楽しみにしてくれていた。日頃の応答性のある関わりを大事にしてきたことで毎年来て一緒に楽しんでくださるのは、ありがたく思う。

・地元のお祭りの前には、地域の方とのつながりもあり、園にも獅子舞を回しに来てくださる。園児が作った獅子舞も一緒に回してくれたり、園児にも「一緒に回そう」と声をかけてくださり、子供たちは、自分たちが作った獅子舞を本物のお囃子や獅子舞と共に回すことができ、地域の伝統文化にふれ、文化の継承ができ、より一層地域のお祭りへの関心が高まり、新庄が大好きになっている。

○次年度に向けての取組の方向
 ・行事をこなすのではなく、幼稚園を地域に開き、いろいろな交流を経験する中で、人と関わる楽しさを味わい、地域に親しみをもてるように「おまつりごっこ」を教育課程に位置付けていきたい。

学校・園名	田辺市立三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館							
学社融合における学校・地域の様子 三栖地域は、梅やみかんなどの栽培が盛んな地域である。しかし、近年は新興住宅やマンション等が増え、農家の数も減少してきている。そうした中、保護者・地域の方々は園の活動に協力的である。本園では、友だちとのつながりを大切に保育を充実させ、地域の方々のやさしさや温かさにふれることで「人が好き」「地域が好き」な子どもに育ちつつある。										
目 標	学校・園・地域 ・地域の方々と触れ合い、人のやさしさや温かさに触れ、人と関わる喜びや楽しさを味わう。 ・日常的な温かい関係作りができ、地域に支えられ、地域に根づいた園経営を目指していく。 ・幼稚園と連携を取り地域の方に幼稚園の様子を知ってもらうことで、地域ぐるみで子供を見守っていく意識を高める。									
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織								
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">学三三 社栖栖 融小幼 合学稚 推校園 進校園 協 議会</td> <td>会長 (公民館長)</td> <td>副会長 (町内会長)</td> <td>委員 ・地域関係者 ・保護者 ・校長</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>事務局 ・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員</td> </tr> </table>		学三三 社栖栖 融小幼 合学稚 推校園 進校園 協 議会	会長 (公民館長)	副会長 (町内会長)	委員 ・地域関係者 ・保護者 ・校長			事務局 ・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員	保護者 三栖公民館文化委員 三栖小学校 衣笠中学校	
学三三 社栖栖 融小幼 合学稚 推校園 進校園 協 議会	会長 (公民館長)		副会長 (町内会長)	委員 ・地域関係者 ・保護者 ・校長						
			事務局 ・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員							
取組(活動内容・ねらい・日時等) 〈衣笠山に登ろう〉 ・地域を歩くことにより、自然や文化遺産に興味を持つことができる。 ・地域の方々と交流することにより、人のやさしさや温かさ、人とかかわる楽しさを感じることができる。										
10月11日	文化委員長さんとの打合せ	 文化委員長さんとの打合せ								
11月5日	事前調査(園職員と文化委員のみなさん) ・往路(小学校の所から文化委員さん方の説明をうけながら歩いて登る) ・復路(昨年のコースを車で確認しながらもどる)									
11月22日	雨天のため延期 (前日午前中に決定し、保護者・関係者へ連絡)									
11月29日	10:30 公民館集合 あいさつ、出発 11:40 山頂到着 衣笠城のお話、園歌合唱、昼食、シャボン玉など 13:45 山頂出発 14:30 公民館到着 あいさつ、解散	 職員と文化委員さんの下見								

	成 果	課 題
学校・園	・公民館文化委員さんや保護者の皆さんの協力により、幼稚園だけでは難しい衣笠山登山が実施できてよかった。 ・園児、文化委員、保護者による活動となり、お互い交流を深めることができた。保護者の皆さんには、園児を支援してもらっている様子も見てもらえて良かった。	・もう少し多くの保護者や地域の方々にも登っていただきたかった。 ・山登りの途中や山頂での自然観察・遊びなど、もう少し充実させていきたい。 ・この地域のシンボルである衣笠山への登山は、今後もぜひ続けていきたい行事である。
*子供にとって	・園歌に出てくる衣笠山に登ることができ、さらに身近に感じられるようになった。 ・文化委員の皆さんにお世話いただきながら一緒に登ることにより、地域の方々に見守られていることを実感できた。 ・拾ってきた木の実をその後のケーキ作り等に使うことができた。	・子供たちにとって、地域の方々のやさしさや温かさ、地域の豊かな自然にふれることは、三栖地域を大好きになることにつながっている。こうした経験や活動を積み重ねていくことが、子供たちの育ちには大切なことだと考えている。 ・さらに子供たちの心に残るよう、内容の充実を図りたい。
*子供にとって	・三栖をよく知る地域の方と衣笠山に登り、三栖の歴史などを教えていただいた。 ・保護者以外の地域の方と行動を共にする機会は少なく、良い経験となった。	・地域の方との交流や三栖地域を知る機会をさらに充実させ、子供たちがより三栖地域を好きになり、地域の一員としての意識を身に付けることができるよう取り組んでいきたい。
地域(公民館保護者)	・子供たちと保護者の皆さんに、三栖について知ってもらうことができた。 ・幼稚園の子供たちと交流する機会は少なく、子供たちと一緒に衣笠山に登ることで、幼稚園をより身近に感じることができた。	・衣笠山登山を長期的に継続していけるような体制を構築していきたい。 ・子供たちが、より多くの地域の方と交流することができるよう、地域の様々な団体と連携を取っていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

年に一度の「衣笠山登山」は、公民館文化委員の皆さんをはじめ多くの方々の協力のもと定着してきている。今回も、文化委員の皆さんには事前に山道や山頂の草刈り、整備をきちんとしていただいた。昨年度の反省から、もう少し早い時期の実施に向け早目に取り組むとともに、駐車場や集合場所の関係から昨年とコースを変更したため、職員の下見にも同行していただいた。往路では、休憩場所の確認をしたり文化財や植物について教えていただいたりした。復路は、放課後の下見ということで遅く(暗く)なることと、昨年のコースと比較するために山頂に車まで用意し、昨年のコースを通ってくれた。当日も、救護車・荷物車の準備までしていただき本当に有難かった。

子供たちにとって、山登りの達成感や人のやさしさ・自然の豊かさにふれる充実感、山頂から眺める景色などは大人になっても心に残っているはずである。今後もぜひ継続していきたい取組である。もっと小学生、中学生や地域の方々へも広げていき、地域あげでの取組となるようにしていけたらと考えている。



出発!



文化委員さんのお話



この景色は忘れないよ



小学校が見える

学校・園名	田辺市立上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>旧田辺市の北東部、標高606メートルの高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地区は年間を通して色々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少していて、今年度当園における専業農家は3世帯である。昔から教育熱心な地域であるので、幼稚園教育にも理解があり物心両面に協力的で、温かい支援を頂いている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の老人福祉施設「あきつの」訪問において、高齢者の方に親しみをもち、関わり合いを深める。 ・高齢者の方との触れ合いから、高齢者の方々に対して思いやりの気持ちを持つ。 		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p>		<p>支援者及び支援組織</p> <p>あきつの運営委員会 上秋津地区民生児童委員</p>	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>例年、地域の老人保健施設「あきつの」とは年2回の交流の機会があり、関わりを続けてきた。今年度はあきつの運営委員会に関わるようになったため、グループホームの高齢者の方とも更に関わりを深めようと、あきつの運営委員会の運営推進会議や職員の方との話し合いの機会があったことから、グループホームとの交流を進めることにした。</p> <p>5月30日 第1回交流（幼稚園からグループホームへ） ・歌ったり、折り紙を一緒に折って折り方を園児が教えてあげるなどした。ペアになってスキンシップができるじゃんけん遊びや歌遊びを行う。</p> <p>6月18日 第2回交流（グループホームから幼稚園へ） ・紙飛行機を一緒に作り、飛ばして遊んだ。前回の交流でペアになったおばあちゃんの顔を覚えており、紙飛行機飛ばしゲームでも、思いやりを持って接したり、声を掛けたりする姿が見られた。</p> <p>7月2日 第3回交流（幼稚園から介護老人保健施設） ・七夕製作を大人数の介護老人保健施設部門の高齢者の方々と楽しんだ。</p> <p>7月8日 第4回交流（幼稚園にグループホームの方が来園） ・夜店やさんごっこのお客さんになってもらおうと、事前に招待状を出し、幼稚園に来ていただいた。子供たちが作った商品を嬉しそうに身につけて下さり、子供たちも大喜びの交流となった。</p> <p>10月6日 運動会（幼稚園） ・子供たちの運動会の様子を見に来て下さり、喜んでいただいた。</p> <p>11月21日 第5回交流（幼稚園にグループホームの方が来園） ・子供たちが作っていた忍者屋敷ランドごっこのお客さんになってもらい、一生懸命説明して案内する姿があった。</p> <p>12月6日 第6回交流（幼稚園から介護老人保健施設） ・生活発表会で発表した歌やダンスを発表した。特にグループホームの方は、子供たちとすっかり顔なじみになっていたのので、例年以上に大変喜んでくださっていた。</p>			

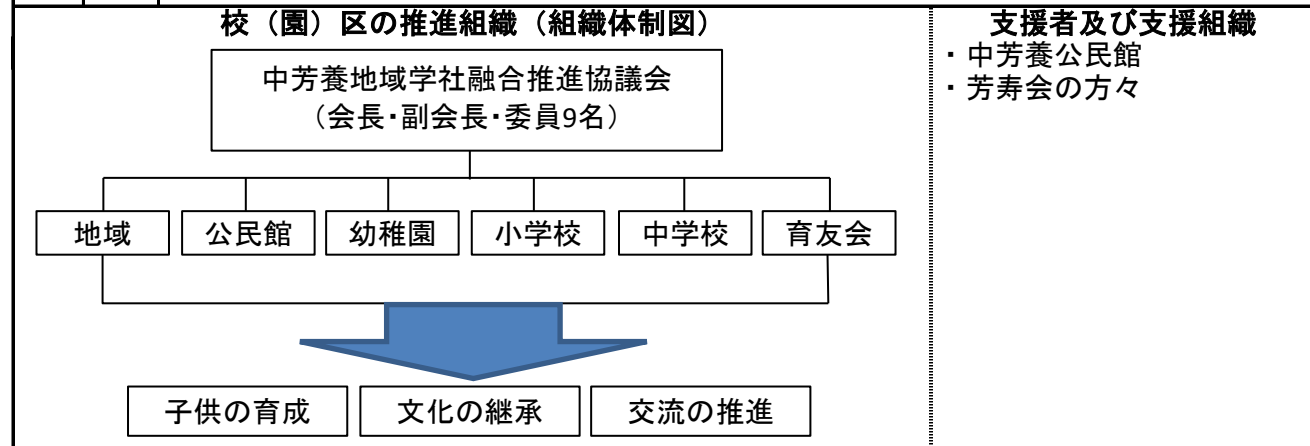
	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・園児たちとの触れ合いを心から喜んでくださる高齢者の方々の姿を目の当たりにし、教師も園児もやりがいを感じ、また次の機会を楽しみに思える交流となった。 ・幼稚園児を歓迎して交流してくれる地域施設とのつながりが、更に密になり、身近に感じられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の都合や高齢者のことなども配慮できるように、早めに計画を立てていくことが望まれる。 ・園児とグループホームの方の人数のバランスが良かったので沢山交流の機会を持つことが出来たが、人数に関わらず今後も継続していけるよう、工夫していきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・何かしてあげるからではなく、存在そのものを受け入れてくれる方々とのかわりが園児たちの自尊心につながっている。 ・高齢者に思いやりの気持ちを持ちながら、ゆっくり、丁寧に相手と合わせた接し方を考えて行動することが出来るようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の取組で、おばあちゃんたちに対する親しみを今まで以上に持ち、安心感を持って関わる事が出来るようになった子供たち。この思いをこれからも持ち続けていけるように、大切に育てていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との交流により、園児自身が誰かの役に立っていると認識することができ、良い経験になっている。 ・高齢者に親しみを感じ、関わりから感謝される喜びを味わうことができ、自己有能感につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方々と触れ合うことにより、思いやりのある子供に成長してくれるように、地域としてこれからも積極的に活動に取り組んでいきたい。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・交流を行ったあとの高齢者の顔つきが変わり、交流を待ち望んでいる。また、地域の子供とお年寄りがつながることで、地域の活性化につながっている。 ・高齢者との関わりの中で、思いやりの心が育ってきているように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と施設が交流を通して、お互いに支え合えるような関係づくりを今後も継続していきたい。 ・このような交流が行われている事を広く知ってもらうため、幼稚園のホームページなどに積極的に発信していく。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきつの運営委員であり、地域の民生児童委員の原進一氏の推薦により、幼稚園の職員があきつの運営委員になったことで、「あきつの」の実態がよく分かり、計画が具体化し、取組が実現できた。子供たちにとっても、施設の高齢者の方々にとってもメリットがある取組になったことをとても嬉しく感じている。 ・何度も交流の機会を持つ中で、自分の存在そのものを喜んでくれる高齢者の温かいまなざしの中で、素直に気持ちを出しながら、のびのびと遊ぶことができた。そして、高齢者の方の歩く速度に合わせて隣で歩きながら手を差し伸べたりするなど、思いやりの気持ちが育っていった。幼稚園に高齢者の方が来て下さると、帰りのバスが見えなくなるまで子供たちが手を振り、「また来てね」と見送る姿もあり、形式的な取組ではなく、子供たちが心から楽しみにし、労りの気持ちを持って接することが、子供たちの自己有能感につながっていると感じた。また、幼児にとって自分を大切にしてくれる人との出会いにより、自尊心が育つかけがえのない時間を体験させていただいていると感じた。 ・今年度のように回数を重ねた交流を、今後も継続していけるよう、地域の施設で生活されている高齢者の方々との自然な互恵性のある関わりとして、また園児たちの心を育てる意義ある活動として、これからもつないでいきたいと考える。 		

学校・園名	田辺市立中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館
-------	------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子

「地域とともにある学校 学校でつながる地域の“わ”」をテーマに、「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱として取組を進めている。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切にしながら取組を深める中で、地域の方と園児が交流する機会や体験的な活動が充実しつつある。菜園活動の指導や園内活動の援助、地域学習の支援、自然体験活動の場の提供などたくさんの支援と協力を頂いているところである。

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。
--------	---



取組（活動内容・ねらい・日時等）

～令和元年度 運営方針～
『地域に親しまれ、支えられた園作り』

4月下旬
「芳寿会会長、公民館主事との年間打合わせ」
日程や交流内容について意見交換と計画を立てる。

8月2日「盆踊り講習会」
中芳養の夏祭りを楽しみに、地域に伝わる盆踊りを教えてもらう。

11月22日
「ツリーのオーナメント作り」
(中芳養合同作品展に向けて)
芳寿会の方々と共に一つの作品を作り上げる楽しさを味わう。

＜芳寿会の方との交流を通して＞

- ◎地域の人々と接する中で思いやりの気持ちを持つ。
- ◎中芳養地域の様々な人、文化に触れ、地域のことが好きになる。

6月3日「ふれあい遊び」
芳寿会の方々とのふれあい遊びを楽しみ、親しみを感じる。

7月1日「七夕飾り作り」
作り方を芳寿会の方に伝えたり、話をしたりして七夕製作を楽しむ。

10月6日「運動会に招待」
芳寿会の方々と一緒に玉入れを楽しんだり、沢山応援してもらったりするのを楽しむ。

12月6日「生活発表会に招待」
芳寿会の方々に自分たちの発表を見てもらうのを楽しむ。

1月24日「昔遊び」
昔遊びに興味を持ち、芳寿会の方と一緒に楽しむ。芳寿会の方に親しみの気持ちを持って接する。

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・足を運んで頂ける機会を重ねることで、子供に親しみの気持ちを持って接し、幼稚園の状況についても理解をしてくれている。 ・温かい関係が築けていることで、普段から気にかけて下さり、協力して頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芳寿会の方々の高齢化が進み、新しく会に入ってくれる方も少ないということを知っている。交流の機会を大事にしながら、無理なく来ていただけるような内容の検討を図りたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは少し緊張をしていたが、7回の交流を重ねることでかかわりを楽しむことができ、親しみを持って話しかけたり、思いやりを持って接する姿が見られた。 ・ペアやグループで遊ぶ活動内容にすることで、より温かいかかわりができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの子供が核家族で普段から高齢者の方とのかかわりが少なく、恥ずかしかったりどう接したらいいかわからなかったりする子が多い。言葉のかけ方、ふるまい方を具体的に伝えたり、温かいかかわりができるように橋渡しを大事にしたい。
*子供にとって	<p>地域の方々との交流が盛んになり、園児たちも交流を楽しみにしている。それにより、園児たちの豊かさが増し、たくさんことを学ぶことができた。</p>	<p>自分たちの地域に対する誇りや愛着をもてるよう今後とも交流を盛んにしていきたい。</p>
地域（公民館）	<p>交流活動を通じて、人と関わる大切さを学ぶことができた。また、地域の連携が強くなった。</p>	<p>園児たちの成長を助長できるよう協力体制を築いていきたい。園児たちが今まで以上に楽しさや感動を味わうことができるような環境整備に努めていきたい。</p>

評価及び次年度に向けての取組の方向

○本園の子供たちは核家族がほとんどで、お年寄りの方とかかわる機会が少ない現状であり、初めての交流の場では緊張感があった。しかし、7回の交流活動を重ねることで、少しずつ親しみを持って自分からかかわったり、思いやりを持った言葉遣いや行動がとれるようになってきた。これからも『いろいろな人と出会い、かかわり、感じる』ことを大事にし、コミュニケーションの力につながるよう支援したい。

○毎年行っている交流であるが、今年度は昨年度とほとんど同様な活動で計画し、進めてきた。その中で、よりお互いに深くかかわりが生まれることを願い、ペアやグループで遊べる内容にしたことで、「〇〇さん、一緒に遊ぼう！」と名前を呼び合ったりかかわり、仲の深まりを感じられた。今後もお互いに負担がなく、よりメリットが生まれる内容の工夫を芳寿会の方々と一緒に考えていければと思う。

○中芳養地域の芳寿会の方々の高齢化と、なかなか新しく入会する方がいらないという状況であると聞いている。難しい課題であると思うが、幼稚園にとって芳寿会の方々と交流は大変ありがたく、子供たちの豊かな経験、豊かな心の育ちにつながっている。この交流の様子を地域の方々に知ってもらえるように情報発信をして、芳寿会・幼稚園、共に中芳養地域から愛される存在になれるよう努めたい。

